

〔理由〕 明治三十年遞信省令第十四號電氣事業取締規則第七條ニ電氣事業ヲ爲サントスル者ハ營業用タルト自家用タルトヲ問ハス其事業ノ種類ニ依リ第三十三條若ハ第八十一條ニ掲クル書類ヲ添ヘ遞信大臣ニ願出許可ヲ受クヘシトアルノミニシテ別ニ之カ許否ヲ爲スニ付一定ノ規程ヲ設ケサレハ該事業ヲ爲サントスル者右第三十三條若ハ第八十一條ノ書類ヲ添ヘ出願ヲ爲スモ遞信大臣ハ必ス之ヲ許可セサルヲ得サルモノニアラス其ノ出願事業ノ公益ニ反スルモノナルニ於テハ固ヨリ之ヲ許可セサルコトヲ得ヘキナリ而シテ被告カ本件原告ノ電氣事業出願ニ對シ許可ヲ與ヘサリシ所以ノモノハ其出願ニ係ル供給區域ノ主要部分カ飯田電燈株式會社ノ既許可供給區域ト同一ニシテ飯田電燈株式會社ハ尙ホ相當ノ供給餘力ヲ有シ別ニ危險ナル新事業ヲ増加スルノ必要ナク且若シ新ナル許可ヲ與フルニ於テハ線路ノ錯綜ト競争ノ結果トニ因リ一層ノ危險ヲ加フルノミナラス新舊兩事業共ニ其ノ成立ラ期シ難ク延ヒテ公共ノ安寧秩序ヲ傷害スルノ虞アリト爲スニ出テタルモノニシテ相當ノ處分ナレハ原告ハ之カ取消ヲ請求スルヲ得サルモノトス

○貸座敷營業者カ再三取締規則ニ違背シ且其行爲公安ヲ害スルノ虞アル場合ニ縣知事ニ於テ該營業ノ禁止ヲ命シタルハ相當ナリ(貸座敷營業禁止命令取消ノ

訴 明治三十七年第七十二號
明治三十八年十月十一日宣告)

〔理由〕 原告ハ本件ノ營業禁止命令ハ何等ノ理由ナクシテ爲シタルモノナレハ不法ナリト云フモ原告カ再三貸座敷取締規則ニ違背スルノミナラス原告ノ行爲公安ヲ害スル虞アルモノナルコトハ乙號敷證ニ徴シ明カナルニ依リ被告カ縣令第八十五號第七條ノ規定ヲ適用シテ原告ノ貸座敷營業ヲ禁止シタルハ相當ノ處分ナリト云ハサルヲ得ス依テ被告ノ處分ハ取消ス可キ限ニアラス原告ハ右ノ外尙ホ論スル所アルモ裁判ニ必要ナキヲ以テ逐一説明ヲ爲サス

○兵庫縣令第九號汚物掃除法施行細則第八條ハ尿尿汲取營業ノ出願手續ヲ規定シタルニ止マリ該條ニ準據セル營業ノ出願アルニ於テハ必ス之ニ對シテ免許ヲ與フルノ旨趣ニアラス(尿尿汲取營業免許ノ拒否ニ對スル不服ノ訴 明治三十九年第五十七號
四月二十二日宣告)

〔理由〕 按スルニ兵庫縣令第九號汚物掃除法施行細則第八條ハ尿尿汲取營業ニ關スル出願ノ手續ヲ規定シタルニ止マリ該條ニ準據シタル營業ノ出願アルモ原告主張ノ如ク必ス之レニ對シテ免許ヲ與フヘキモノナリト言フヲ得ス而シテ本件營業ニ付被告ニ於テ營業者ノ數ニ制限ヲ設ケタルハ公衆衛生ニ關スル取締上ノ必要ニ出テタルモノト認ムルヲ以テ原告ノ營業免許

ヲ拒否シタル被告ノ處分ハ之ヲ違法ナリト言フヲ得ス

○明治三十七年大藏省令第十三號煙草賣捌規則第五條第三號ニ煙草賣渡代金云云トアルハ政府ノ煙草賣渡代金ヲ指シタルモノトス(煙草元賣捌業取消處分不服ノ訴 明治三十九年第十四號 明治四十年五月二十日宣告)

〔理由〕原告ハ大藏省令第四號煙草賣捌規則ハ明治三十八年二月發布セラレタルモノナレハ其第七條ノ三號ニ「政府ヨリノ煙草買受代金一箇年云々」トアルニ依リ處分センニハ其實施後一箇年以後ナラサルヘカラス而シテ明治三十七年ノ舊規則ニハ「煙草賣渡代金一箇年云々」トアリテ「政府ヨリ」ノ文字ナケレハ右代金ハ政府ヨリ賣渡シタル代金ヲ云フモノニアラス然ルニ被告カ明治三十七年七月一日ヨリ明治三十八年六月三十日マテノ事實ニ依リ本件ノ處分ヲ爲シタルハ不當ナリト云フモ舊賣捌規則ニハ「煙草賣渡代金云々」トアリテ別ニ「政府ヨリ」ノ文字ナケレトモ右代金ハ政府ノ賣渡代金ヲ指シタルモノナルコトハ同規則全體ノ趣旨ニ徴シ明カナレハ此ノ點ニ於テ漸舊規則ニ差異ナキコト論ヲ俟タス然ラハ明治三十七年七月一日以後一箇年間原告カ政府ヨリノ煙草買受代金五千圓未滿ナルコトハ原告モ爭ハサルトコロナレハ被告カ賣捌規則ニ違背スルモノトシ本件ノ處分ヲ爲シタルハ不當ナリト云フヲ得

ス

○明治三十年警視廳令第六號ニ依リ胞衣及ヒ産穢物取扱營業ヲ出願シタル者ニ對シ警視總監ニ於テ不許可ノ指令ヲ與ヘタルトキハ其處分ノ正當ナルコトヲ認ムヘキ理由ヲ具備セサルヘカラス(營業免許拒否取消ノ訴 明治三十九年第七十號 明治四十年六月十四日宣告)

〔理由〕明治二十三年法律第六號ニ依リ營業免許ノ拒否ニ對シ行政訴訟ヲ許シタル以上ハ原告ハ被告ノ處分ニ對シ出訴ヲ爲スヲ得ルモノトス而シテ警視廳令第六號ハ出願手續ニ欠クル所ナキ以上ハ必ス之ヲ許可スヘシトノ趣旨ニアラサルハ被告所論ノ如クナルモ然ルモ被告ニ於テ之ヲ拒否シタルトキハ其處分ノ正當ナルヲ認ムヘキ理由ヲ備ヘサルヘカラス然ルニ被告ハ之ニ付何等説明スル所ナク隨テ其處分ノ正當ナルヲ認ムルニ由ナキモノトス

○宿屋營業主カ密賣淫ノ容止ヲ爲シタル場合ニ於テ當該行政廳カ其行爲ヲ以テ風俗ヲ紊ルノ虞アリトシ營業免許失効ノ命令ヲ爲シタルハ相當ナリ(營業免許取消ニ對スル不服ノ訴 明治四十年第一百一號 明治四十二年三月十七日宣告)

〔理由〕原告カ下宿屋營業中明治四十年七月九日自宅内ニ於テ岩田アキ外一名カ清國人王世

疏外一名ニ對シ密賣淫ヲ爲スニ當リ之カ容止ヲ爲シタルモノト認メラレ科料金一圓五十錢ニ處セラレタルコトハ乙第一號證言渡書ニ依リ明カナリ而シテ原告ハ之ニ對シ正式ノ裁判ヲ求メス之ニ服シタル事實アルノミナラス岩田アキ横山ヒテ等ノ聽取書ニ徴スレハ原告カ右乙一號證記載ノ如キ密賣淫ノ容止ヲ爲シタルモノト認ムルニ十分ナレハ被告カ原告ノ行爲ヲ以テ風俗ヲ紊ルノ虞アリト爲シ宿屋營業取締規則第三條ニ「風俗ヲ紊ルノ虞アリ云々免許ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ」トアル規定ヲ適用シ原告ニ對シ免許失效ノ命令ヲ爲シタルハ相當ナリトス

○土木請負業者カ他人ニ房屋ヲ給與シテ賭博ヲ爲サシメ又平素不滿ヲ抱ケル巡查ヲ毆打シ疾病休業ニ至ラシメタル場合ニ於テ當該行政廳カ公安ヲ害スルノ虞アルモノト認メ其營業免許ヲ取消シタルハ相當ナリ(營業免許取消處分ニ對スル訴 明治四十年第七十四號 明治四十一年三月三十一日宣告)

〔理由〕 按スルニ原告カ明治三十八年十一月二十五日自宅與ノ六疊間ヲ給與シテ吉田幸三郎外數人ニ賭博ヲ爲サシメ巡查踏込ノ際現場ヨリ逃走シタルモノトシテ告發ヲ受ケタル事實ハ乙第二號證ニヨリ之ヲ認メ得ヘク又原告カ豫テ不滿ヲ抱ケル居村駐在所巡查岡本治房ヲ毆打

シ疾病休業二十日以内ニ至ラシメタルモノトシテ大阪控訴院刑事第一部ニ於テ明治四十年十月五日重禁錮二十日ノ判決ヲ受ケタルコトハ乙第三號證ニヨリ之ヲ認メ得ヘシ然ラハ今福警察分署長カ此等ノ事實ニ依リ原告ニ公安ヲ害スルノ虞アルモノト認メ大阪府令第五十一號第四條ノ後段ヲ適用シ原告ニ與ヘタル土木請負業免許ヲ取消シタルハ相當ナリ甲第一號證ハ原告カ毆打創傷罪ニ對スル重禁錮二十日ノ執行猶豫ノ事實ヲ證スルニ止マレハ之ヲ以テ今福分署長ノ爲シタル本件認定ノ當否ヲ判定スル資料トナスヲ得サルモノトス

(二) 鐵業ニ關スル件

○許可ヲ得スシテ坑業ヲ他人ニ讓渡スハ日本坑法ニ違反シタル行爲トス(坑業禁止令取消ノ訴 明治二十四年第二十七號 明治二十四年十一月二十八日宣告)

〔理由〕 原告代理人陳述ノ要點ハ乙第七號證ハ乙第十一號證ト牴觸スルヲ以テ乙第十號證ノ事實ヲ確ムルモノト云フヲ得ス又乙第十號證ハ原告ノ差出シタルモノニアラサルヲ以テ之ヲ認メス又乙第十二號證ハ賣買ノ豫約ノ證ト爲ルモ之ヲ以テ直ニ賣買ノ證ト爲スコトヲ得スト云フト雖モ荒木庄松ニ於テ原告ノ借區地ヲ金百七十圓ニテ買受ケタル事ハ乙第十號證ノ荒木庄松ノ上申書ニ記載シアリ而シテ同人ニ於テハ分取油ヲ取ラサルコトハ原告自ラ差出シタル

トコロノ乙第七號證上申書ヲ以テ明カナルヲ以テ見レハ乙第十號證ノ賣買事實ハ確實ナルモ
ハト認定セサルヲ得ス又乙第七號證乙第十一號證ハ共ニ原告ノ差出シタルモノニシテ且ツ乙
第七號證ノ日附ハ乙第十一號證ノ日附ヨリ後ナルヲ以テ見レハ原告ハ自ラ乙第七號證ヲ以テ
乙第十一號證ノ事實ノ誤謬ヲ更正シタルモノト言ハサルヲ得ス又原告ハ乙第十二號證ハ賣買
ノ豫約ナルコトハ其第五項目ニ「右借區ノ券面ハ」云々トアルヲ以テ明カナリト云フト雖モ該
證ハ原告借區ノ一部分ヲ藤林利景ヘ賣渡スノ約定書ニシテ其後其買主利景ノ相續人タル藤林
英藏ニ於テ之ヲ海津準一郎ニ轉賣シタルコトハ乙第十三號證ニ明記シアルノミナラス原告ニ
於テモ既ニ乙第十四號證ヲ以テ準一郎ノ買受ケタルコトヲ認メタルノ事實アルヲ以テ見レハ
未タ借區券面ノ書改ヲ終了セサルモ之ヲ以テ原告ハ賣買ノ豫約ノミヲ爲シタルモノト云フヲ
得ス故ニ原告ハ事實其借區ヲ賣渡シ自己ノ坑業ヲ他人ニ讓渡シタルモノト斷定セサルヲ得ス

○日本坑法第二十四款ハ借區人カ借區ニ依テ得タル權利ヲ全然他人ニ移轉シタ
ル場合ニ適用ス(坑業禁止令取消ノ訴 明治二十四年第二十三號
明治二十四年十一月十五日宣告)

〔理由〕本訴係争ノ要點ハ石油坑業借區人カ其借區地内ニ於テ他人ト下稼契約ヲ爲シ鑿井費
汲取費ヲ下稼人ヨリ出サシメ其採取スル石油ノ幾分ヲ借區人ニ收納セシ事實ハ日本坑法第二

十四款ニ掲クル坑業ヲ他人ニ讓渡ス如キ云々及明治六年工部省第五號達ニ違背シタルモノナ
ルヤ否ニ在リ抑坑法第二十四款ノ年限中他人ニ讓渡ス如キトハ賣買又ハ讓與ニ同シキ契約ヲ
以テ借區人カ借區ニ依テ得タル坑業權ヲ借區地ト共ニ全ク他人ニ移轉シ讓渡者ハ將來其地ノ
坑業ニ關係ヲ絶ツモノヲ指スニ在リ而シテ明治六年工部省第五號達ハ坑法第二十四款ニ係ル
注意ヲ地方官ニ訓令シタル者ニシテ本件ノ如キ事實ヲ制止シタルモノ、如シト雖モ該達ハ原
告ニ於テ當時其公布ヲ受ケストシテ舉證シ被告ニ於テハ當時管内ヘ布達セシニ相違ナキモ縣
廳類焼ノ爲メ其關係書類ヲ失シタルヲ以テ今日ニ至リ調査シ難シトテ布達セシコト相違ナキ
ヲ舉證セサルニ依リ該達ハ本件ニ關シ之ヲ採用スルニ由ナキ者トス被告ハ乙第八號證ヲ以テ
下稼人ハ獨立ノ坑業ヲ爲ス者ナルコトヲ證シ乙第十號證ヲ以テ借區地内ニ於テ下稼人ニ其幾
部ヲ渡シタルコトヲ證スルモ兩證共ニ原告ニ直接ノ關係ナキモノナレハ亦之ヲ採用スルニ由
無シ然ルニ被告ハ乙第二號證添屬書類第二號及乙第七號證添屬書類ニ依レハ原告ト笹島嘉吉
郎等トノ下稼契約ニハ期限ヲ設ケス而シテ其契約ヲ解除シタル證據ヲ提出セサレハ該契約ハ
繼續スルモノト認メサルヲ得ス是レ即チ其借區ノ一部ヲ他人ニ讓渡シ坑物稅ヲ徵收シタル者
ナリト謂フト雖モ乙第二號證添屬書類第二號及乙第七號證添屬書類ハ共ニ石油鑿坑互換約定

證ニシテ新潟縣越後國蒲原郡金津村石油借區地及試掘地内ニ於テ鑿坑方對談相整結約スル云云トアリテ鑿井費沒取費ヲ下稼人ニ於テ請持地租ヲ始メ村内地方ニ關スル入費及地主ヘ相渡ス對談金三田米焚油等ヲ借區人ニ於テ請持而シテ其借區地ニ在テハ石油出石高十分ノ七ヲ下稼人ニ其三分ヲ借區人ニ其試掘地ニ在テハ十分ノ五若クハ六分ヲ下稼人ニ其十分ノ五若クハ四分ヲ借區人ニ相渡ス等ノ契約ニシテ要スルニ借區期限内ニ在テ出油分取ノ契約ヲ爲シタルニ過キレハ之ヲ以テ期限ヲ設ケス坑業ノ讓渡ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス其他被告云フ如キ原告ニ於テ借區ノ一部分ヲ讓渡シ坑業權ヲ根底ヨリ移轉シタリト見ルヘキ確證無ケレハ原告カ其借區地内ニ於テ他人ニ下稼セシメタル事實ヲ以テ直ニ之ヲ讓渡ナリト謂フヲ得ス坑法第二十四款ハ借區年限中其坑業ヲ他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ願出許可ヲ請フヘシ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシトノコトヲ規定シタルモノナレハ本訴被告ニ於テ原告ノ下稼ノ契約事實アルヲ以テ坑法第二十四款ニ違背シタルモノト爲シ借區營業ヲ禁止シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノト謂ハサルヲ得ス

○日本坑法第十款第五項ノ申立ニ對シテ明治二十三年法律第百五號訴願法第八條ヲ適用シタルハ違法ナリ(石炭坑借區許可取消請求願ニ對スル不當行政處分

取消ノ訴 明治二十四年第三十八號(四號)
明治二十四年十二月二十八日(宣告)

〔理由〕 被告ハ行政官廳カ爲シタル處分ノ變更又ハ廢止ヲ要求スル手續ハ法律規則中訴願法ニ據ルヘカラスト規定シタルモノ、外ハ總テ訴願法ニ據ルヘキハ當然ナレハ日本坑法第十款第五項ノ申立ヲ爲スモノハ訴願法ニ據ルヘキモノナルニ鑿ニ原告カ爲シタル申立ハ訴願法規定ノ日限ヲ經過シタルヲ以テ之ヲ却下シタルモノナレハ原告ハ本訴ヲ提起スルヲ得スト云フト雖モ日本坑法第十款第五項ノ申立ハ明治二十三年法律第百五號訴願法ニ據ルヘキモノニアラス然ルニ被告農商務大臣ハ本件原告カ日本坑法第十款第五項ニ依リテ爲シタル申立ヲ以テ訴願法ノ規程ニ違フキノナリトシテ之ヲ却下シタルハ其當ヲ得ルモノト謂フヲ得ス故ニ被告ハ本件原告ニ與ヘタル指令ヲ取消シ更ニ借區許可取消請求ニ對シ相當ノ指令ヲ爲スヘキモノトス

〔同一判例〕 石炭坑借區許可取消ノ請求不當ノ裁決取消ノ訴 明治二十四年第三十一號(十一號) 日(宣告)
明治二十五年三月二十三日

○鑛物試掘願ノ拒否ニ關スル事件ハ明治二十三年法律第百六號第三中ニ包含ス
(銅鑛試掘願ノ指令取消ノ訴 明治二十四年第六十一號)
明治二十四年十二月二十八日(宣告)

○ 試掘願ニ對スル指令ノ錯誤ニ出タルヲ理由トシ之カ取消ヲ請求スルハ日本坑法第十款第五項ノ規定ニ從フ可キモノトス(同上)

〔理由〕 被告ニ於テ試掘ノ許否ハ明治二十三年法律第百六號第三ニ該當スルモノニアラスト云フト雖モ該法ハ直接ニ營業其モノ、免許ニ關スル事件ノミニ限ラス營業上官廳ノ職權ニ屬スル免許ヲ得サレハ目的ノ營業ヲ爲スヲ得ヘカラスルモノ、如キハ其許可ヲ得サル場合ニ於テハ營業ヲ拒否セラレタル實果ヲ生スルモノナルニ依リ本案ノ事實ハ該法ノ範圍内ニ在ルモノトス然レトモ原告ニ於テ日本坑法第十款第五項ハ他人ノ許可ヲ取消サントスル場合ヲ規定シタルモノナレハ本案ハ該項ニ依ルヘキモノニ非ラスト云フト雖モ其事實ニ於テハ同法第五款第二項試掘許可ノ出願時日ノ先後ヲ誤リタリト爲ス者ナレハ即チ被告ノ錯誤ニ出タルコトヲ發見セシモノナリト謂ハサルヲ得ス然レハ則同法第十款第五項ノ規定ニ依ル可キハ當然ニシテ其手續ヲ經サル以前ニ於テハ行政訴訟ヲ提起シ得可キモノニアラス

○ 試掘又ハ借區人カ許可ヲ得タル土地ノ採鑛事業ニ就テ利害關係ヲ有スル者ニ於テ其試掘又ハ借區人ノ得タル試掘若クハ借區ノ許可カ詐欺又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタルトキハ日本坑法第十款第五項ニ依リ其取消ヲ農商務大

臣ニ請求スルコトヲ得ト雖モ其之ヲ發見シタルモノニアラスシテ單ニ該採鑛事業公益ニ害アリト主張スルモノハ同法第十款第三項ニ依リ該許可ノ取消處分ヲ請フコトヲ得ルニ止リ同法第五項ニ依リ之カ取消ヲ請求スルノ原由ナキモノトス(訴願裁決ニ對スル不服ノ訴 明治二十四年第四十七號
明治二十五年一月二十六日宣旨)

〔理由〕 被告ハ日本坑法第十款第五項ニ謂フ所ノ許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スルモノトハ農商務大臣カ坑法第五款第九款ノ規定ニ違背シ許可シタル爲メニ權利ヲ傷害セラレタルモノナラサルヘカラス縱令其ノ地ノ採鑛事業ニ就テハ損害ノ關係ヲ有スルモ農商務大臣カ坑法第五款第九款ニ反キ許可ヲ與ヘタルカ爲メニ其人ノ權利ヲ侵害セラレタルニ非サレハ決シテ許可ノ取消ヲ請求シ若クハ出訴スルヲ得スト云フト雖モ日本坑法第十款第五項ノ若シ其許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者トハ單ニ農商務大臣カ坑法第五款第九款ノ規定ニ違背シ許可シタルカ爲メニ權利ヲ傷害セラレタル者ノミニ止マラス試掘人又ハ借區人カ許可ヲ得タル土地ノ採鑛事業ニ就テ利害ノ關係ヲ有スルモノニ於テ其試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若クハ借區ノ許可詐欺又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ申立テ其取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノナレハ被告ニ於テ原告等ノ該借區ノ採掘ニ就テハ利害ノ關係ヲ有スル者

タルコトヲ認メナカラ其許可ニ就テハ利害ノ關係ヲ有スルモノニ非ストシ許可取消ヲ請求スル權ナキモノト指令ヲ與ヘタルハ其當ヲ得ス然レトモ原告等ハ假令本訴并手榮吉ノ得タル増借區ノ許可ニ就テハ利害ノ關係ヲ有スル者タルモ并手榮吉ノ得タル増借區ノ許可詐欺又ハ錯誤ニ由リタル事實ヲ發見シタルモノニ非ス故ニ該採鑛事業ノ爲メ公益ヲ害セラレタル事實ヲ具狀シテ坑法第十款第三項ノ處分ヲ請フハ格別直ニ坑法第十款第五項ニ依リ之カ取消ヲ請求シタルハ原由ナキ申立ナレハ被告農商務大臣ニ對シ出訴スルノ權ナキモノトス

○農商務大臣ニ於テ鑛業借區カ公益ニ害アリト認定シタルハ日本坑法第三章第十款第二項ヲ適用シタルモノニシテ法律上同大臣ノ職權ニ屬スヘキモノトス
(不當指令取消ノ訴 明治二十四年第六十號 明治二十五年三月十日宣告)

〔理由〕原告ニ於テ本件借區願ノ地ハ曩ニ農商務省參事官並巖手縣官立會ノ上境域ヲ限定シ亦曾テ大林區署員ニ於テモ鑛業差支ナシト認メ又巖手縣平民工藤久藏カ同字ニ於テ借區ノ許可ヲ受ケタルコトアル等ノ事實アレハ同地ニ於テ鑛業ヲ營ムモ公益ニ害アルコトナシ然ルモ被告カ聞届難シトノ處分ヲ爲シタルハ違法ナリト云フト雖農商務大臣カ本件借區ヲ以テ公益ニ害アリト認定シタルハ日本坑法第三章第十款第二項ニ依リテ爲シタルモノニシテ其認定ハ

法律上農商務大臣ノ職權ニ屬シ他ニ違法ト認ムヘキモノナキニ依リ原告ノ權利ヲ毀損シタルモノト謂フヲ得ス

○日本坑法第二十六款ニ依リ坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様其地方官廳ノ發シタル諸法令ヲ遵守スヘキモノトス(石炭坑借區願不當處分取消請求ニ對シ不當裁決不服ノ訴 明治二十五年第四百十四號 明治二十七年一月二十二日宣告)

○諸鑛業事業出願ノ手續ハ總テ日本坑法ノ外其坑山所在地ノ縣達ヲ遵奉セサル可ラス從テ農商務大臣ニ於テ該縣達ニ違背セル出願ニ對シ調査ヲ盡サスシテ許可ノ指令ヲ與ヘタルハ錯誤ニ由リテ爲シタル不當ノ處分ト云ハサル可ラス
 (同上)

〔理由〕本件所爭ノ要點ハ被告ノ處分ハ錯誤ニ由リタルモノナルヤ否ニ在リテ其事實ハ被告從參加人即チ坑業人ノ願書ハ日本坑法第二十六款ノ明文ニ據リ地方官ノ諸法令ヲ遵守シタルモノナルヤ否ヤニ起因セリ依テ其提出シタル丙號證據書類ヲ閱スルニ丙第七號證ノ二明治二十二年七月三十日附ノ借區願書ニ添付セル地主人民總代員島傳平淺原平次郎安永庄次郎ノ承諾書ハ同年三月二十六日ノ成立ニ係リ丙第四號證ノ一明治二十年八月六日附ヲ以テ御徳村人

民總代吉野要七外十二名ト締結シタル取換約定書ニ基クモノニシテ其第十四條ニ約定ノ期限ヲ向フ百五十日間即明治二十一年一月三日マテト定メ該期限内ニ出願シタル借區許可不相成トキハ此約定ハ無効トシ他ニ契約ヲ取結フモ淺野總一郎ハ二點ノ故障ヲ申立ル權利ナキコトヲ合意シ明治二十一年五月二十九日ニ至リ丙第四號證ノ三ノ如ク人民總代吉野要七四名ト右約定ヲ明治二十二年三月マテ九箇月間延期スルコトヲ合意シ仍同年七月十一日吉野要七外五名ハ各一個人トシテ總一郎ヨリ右期限ヲ更ニ向フ五箇年間延期ノ申入ニ對シ村民總體トノ定約結局マテ周旋ス可キ旨丙第十號證ノ契約ヲ爲シタルトモ遂ニ其效果ヲ見ルニ至ラザリシモノナリ故ニ借區願書ニ添付セル地主人民總代ノ承諾書ハ約定面ノ明治二十二年三月ナル期限満了前ノ成立ナリト雖出願ノ當時即チ同年七月三十日ニ至リテハ從前ノ合意既ニ消滅シ承諾ノ無効ナルハ總一郎ニ於テ自ラ認知スルモノナルニ拘ハラズ之ヲ隱秘シテ願書ニ添付シ且願書添付ノ圖面ニハ村方地主人民ノ調印ヲ要スル規定ナキニ却テ之ヲ拒ム旨ヲ上申シテ明治十六年福岡縣達第五十三號ノ規定ニ適スルモノ、如クシ願書ヲ縣廳ニ進達シタルハ該縣達ニ背キタル行爲ナリトス又被告ニ於テ借區出願ノコトハ國民一般ノ權利ニシテ私人ノ與奪左右シ得可キモノニアラサルハ論ヲ竣タサルカ故ニ承諾ノ有無ヲ以テ借區ヲ許否スルヲ得サルナリ

即チ借區ノ許否ハ被告官廳ノ職權ニシテ地元人民若クハ土地所有者ハ毫モ關涉シ得可キ所ニアラスト云フト雖日本坑法第二十六款ヲ以テ坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様ト爲シ其地方官ノ諸法令ヲ遵守ス可キコトヲ命シ地方官ハ明治十六年七月十二日福岡縣達第五十三號ヲ以テ諸鐵礦事業出願ノ節ハ願書ノ外地元村及關係町村人民總代ノ故障有無書面相添出願致ス可ク尤地元村及關係町村ニ於テ無謂該書面不差出時ハ本人ニ於テ直チニ其事實ヲ別紙ニ詳記シ出願可致旨ヲ布達シタルモノナルハ被告ニ於テ監督上之ヲ取消サンメサル限リハ同縣内ニ於ケル諸鐵礦事業出願手續ニ付テハ日本坑法ヲ補充スルノ規定トシテ被告モ亦同縣内ノ鐵礦事業出願人ニ對シテハ之ヲ遵守セシメ以テ其許否ヲ決セサル可カラズ然ルニ其許否ニ付利害ノ關係者タル原告等ヨリ相當ノ手續ヲ經テ出願シ且明治二十二年八月二十六日附ノ具申書ヲ提出シタルニ拘ハラズ其調査ヲ盡サスシテ總一郎ノ出願ニ許可ヲ與ヘタルハ日本坑法第二十六款及福岡縣布達ニ違ヒ錯誤ニ由リテ爲セシ處分ニシテ其當ヲ得タルモノト謂フ可カラズ其他辯論スル所アリト雖必要ナラサルニ因リ説明ヲ付セス

○政府自ラ鐵物ヲ採掘スル場合ニ關シテハ鐵業條例中何等ノ規定ナク又其採掘權ノ賣買讓與ヲ爲スニ付テ政府ハ何等ノ制限ヲ受クルコトナシ從テ政府ヨリ

探掘權ノ讓與ヲ得タル者カ新ニ特許證ヲ受ケルモ鐵業條例第十二條ニ依ル探掘ノ特許ヲ得タルモノト謂フヘカラス(不當裁決取消ノ訴 明治二十七年第二號 明治二十七年四月五日宣告)

○ 訴願ニ對スル裁決ヲ爲スニ當リ事實上ノ審査ヲ要スヘキ場合ナルニモ拘ハラス其審理ヲ遂ケスシテ訴願ヲ却下シタルハ不當ナリ(同上)

〔理由〕 原告ハ政府即チ神奈川縣カ鐵業ヲ爲スハ法律ニ依リ一般人民ト同一ノ手續ヲ履ミタルニアラスシテ未タ探掘セサル鐵物ハ國ノ所有ナルノ理由ニ依リ自由ニ之ヲ探掘シタルナリ若シ政府自ラ鐵業ヲ爲サルニ至ルトキハ法律ニ依リ出願ノ前後ニ從ヒ許否ノ處分ヲ爲スヘキモノナリト云フト雖鐵業條例第三條ニハ未タ探掘セサル鐵物ハ國ノ所有トストアリ同條例第十六條ニハ探掘ノ出願ハ出願ノ前後ニ依リ其許否ヲ定ムトアルモ政府自ラ鐵物ヲ探掘スル場合ニ對シテハ該條例中何等ノ規定アラサルヲ以テ其探掘權ヲ賣買讓與スルニ於テモ政府ハ何等ノ制限ヲ受ケル事ナシ故ニ神奈川縣ハ橫濱市參事會ニ對シ其探掘權ノ讓與ヲ爲スヲ得ヘク隨テ橫濱市參事會ハ新ニ特許證ヲ受ケタルモ鐵業條例第十二條ノ手續ニ依リテ探掘ノ特許ヲ得タルモノト謂フヘカラス然レトモ原告ハ神奈川縣カ鐵業ヲ營ムト定メタル地ハ八ッ澤地内ニ在ル同縣用地六畝十八歩ノ區域ニシテ原告ノ出願地ヨリ辰巳ノ方向二百七十間強ノ距離

ニ在ルヲ以テ其出願地ニ於テハ神奈川縣ヨリ橫濱市ニ探掘權ヲ讓與スルヲ得サルモノト主張シ而シテ被告ハ鐵脈云々ノ理由ニ依リ然ラスト辯駁スルヲ以テ見レハ原告出願地ノ果シテ橫濱市カ神奈川縣ヨリ讓受ケタル鐵區ニ跨ルヤ否ハ本案ニ依リ審理シタル上ニアラサレハ判明セサルナリ然ルニ被告ハ原告カ其訴願書ニ於テ橫濱市參事會ハ神奈川縣ノ得タル探掘權ヲ引受クルノ名義ヲ以テ其實新タニ出願シタルモノナレハ同市參事會ニ許可セラレシ鐵區中原告出願地ニ屬スル部分ヲ取消スヘキ樣裁決ヲ求メタルニモ拘ハラス鐵業條例第三十四條ニ依リ訴願ヲ受理シテ其事實ノ如何ヲ審理セス本件鐵區ノ全部ヲ以テ橫濱市參事會カ讓與ニヨリ特許ヲ得タルモノト認メ訴願法第九條ニ因リ却下ノ裁定ヲ爲シタルハ其當ヲ得タルモノト謂フヲ得ス

○ 甲者ノ借區願ニ先テ同一ノ鐵山ニ付テ試掘權ヲ得タル者ヨリ其權利ヲ繼承シタル乙者ニ對シ甲者ノ出願ヲ排斥シテ借區ノ特許ヲ與ヘタルハ不當ニアラス(鐵山借區特許取消ノ訴 明治二十五年第八十號 明治二十七年六月二十二日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ本訴標銀鐵ハ原告カ借區ノ先願ヲ爲シタル坑區ニシテ借區ノ許可ヲ得タル古内忠治ハ同坑區ヲ以テ佐々木佐太郎ヨリ讓受ケタル試掘地ナリトシ其借區ノ特許ヲ受

ケタルモ佐々木佐太郎ノ試掘ニ從事シタル地ハ位置全ク異ナリト云フト雖原告提出ノ第十一號證明治二十年七月十七日佐々木佐太郎カ試掘願ニ添附シタル畧圖ニ依ルニ早瀬澤落合ヨリ上流ノ位置ニ試掘願地ヲ示シアリ又被告提出ノ青森縣知事上申書ニ於テモ佐々木佐太郎ノ試掘地ニ異ナルナキヲ證明シアレハ古内忠治ノ特許ヲ得タル坑區ハ佐々木佐太郎ノ試掘地タルヲ認メ得ヘク而シテ原告提出ノ諸證ニ於テハ一モ其陳述ヲ證スヘキモノナキニ依リ被告ノ爲シタル處分ハ取消スヲ得サルモノトス

○日本坑法中官廳ニ於ケル鐵業ノ讓渡及其讓渡ヲ受クルモノニ對シテ一モ其手續ヲ規定スル所ナシ故ニ荷モ讓渡ノアリタル以上ハ其讓渡ハ完全ニ成立シタルモノト謂フヘク從テ其讓受者ヲ先願者トシテ之ニ採掘ヲ特許シタルハ錯誤ニ出タル處分ト云フヲ得ス(石炭試掘ニ關スル不當裁定取消ノ訴 明治二十七年十一月二十八日宣告)

〔理由〕原告ハ本件石炭鐵ハ明治二十三年四月ヲ以テ神奈川縣ヨリ横濱市參事會ニ引渡シタルモノナルニ横濱市ハ當時ノ日本坑法第二十四款ノ手續ヲ爲サ、ルハ其實法律ヲ犯シテ採掘シタルナリ且神奈川縣カ引繼ヲ爲シタルハ其採掘權ヲ拋棄シタルナリ其後明治二十六年一月

ニ至リ明カニ横濱市ニ引繼キタルコトヲ農商務省ニ上申シタルハ採掘セサル意思ヲ發表シタルモノナリ此際ニ在リテモ横濱市ハ讓受ノ手續ヲ爲サス翌二月ニ至リ讓受ノ出願ヲ爲セリ然ルニ原告カ明治二十四年二月四日附ヲ以テ提出シタル試掘ニ對シ神奈川縣カ採掘權ヲ拋棄シタルコトアリ横濱市カ讓受ノ出願ヲ怠リタルコトアルニ拘ハラス原告ヲ後願者トシ明治二十六年九月ヲ以テ採掘特許證ヲ横濱市ニ下付シ同年十一月ニ及ヒ他人ノ許可地ト重複セリトシテ原告ニ訂正ヲ命シタルハ被告ノ處分錯誤ニ出テタルモノナリト云フト雖日本坑法中官廳ニ於ケル鐵業ノ讓渡及其讓渡ヲ受クルモノニ對シテハ一モ其手續ヲ規定スル所ナキニ依リ横濱市ノ採掘權讓受手續ハ完全ニ成立シタルモノト謂フヘク原告ヲ以テ先願者ト爲スヘカラス故ニ本件横濱市カ受ケタル採掘特許證ハ錯誤ニ由リタルモノト謂フヲ得ス又原告ハ神奈川縣カ採掘權ヲ得タル鐵區ハ字堂ノ脇六畝二十九歩ノ地ニ限レリト云フト雖被告乙第一號證明治二十年三月神奈川縣知事ノ伺書ニ依レハ鐵脈ニ依リ採掘致度トアリテ其伺書ニ添付セル被告乙第二號證ヲ閱スレハ其圖解中ニ故ニ堂ノ脇ヨリ東茅澤間ヲ第一炭區トシテ開採シ得ルモノト豫定セリ云々等記載シアリ圖面詳ニ鐵脈及炭層ヲ寫出シ堂ノ脇ハ纔ニ其一部分ナルヲ認ムルニ足レハ當時神奈川縣ノ承認ヲ得タル鐵業地ハ已ニ本件所爭ノ炭鐵ヲ含有スルモノナルヲ

知ヘキニ依リ被告ノ爲シタル判定ハ不當ナリト謂フヲ得ス其他雙方ノ辯論ニ對シテハ必要ナラサルヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

○鑛物試掘願書ハ鑛業條例第八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘキモノナリ(石炭試掘認可取消要求ノ訴 明治二十七年第六十九號
明治二十七年十二月六日宣告)

○鑛山監督署ニ差出スヘキ願書ヲ他ノ官廳ニ提出シタルモノハ法律上無効ナレハ之ヲ訂正シ鑛山監督署ニ差出スモ當初出願ノ日ヨリ其效力アリト謂フヲ得ス(同上)

〔理由〕 本件所争ノ要點ハ原告カ明治二十六年十二月八日ヲ以テ農商務省ニ提出シタル石炭試掘願書ハ有效ノモノナルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ當初願書ヲ農商務省ニ提出シタルハ單ニ出願ノ手續ヲ誤リタルニ過キサレハ更ニ書面ヲ訂正シテ差出シタルトキハ當初ヨリ出願シタル效力アリト云フト雖モ鑛業條例第八條ニ試掘願書ハ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ云々トアレハ之ヲ該鑛山監督署長ニ提出セサルヘカラス然ルニ原告ハ其ノ法律上ノ手續ヲ誤リテ他ノ官廳ニ提出シタルモノナレハ其ノ行爲タル法律上無効ニ屬スルヲ以テ當初ヨリ出願シタルノ效力アリト謂フヲ得ス故ニ被告カ同年十二月二十二日ノ提出ニ係ル村上登三郎外一名ノ石炭試掘願ヲ先願ト認メ之ニ許可ノ指令ヲ與ヘタルハ錯誤ノ所爲ナリト謂フヲ得ス

○不完備ナル鑛山試掘願書若クハ圖面ノ修補ヲ命セラレタル者カ其指定期限内ニ訂正シテ之ヲ差出サ、ル時ハ如何ナル理由アルモ其出願ヲ無効トス(石炭山

試掘認可取消請求ノ訴 明治二十七年第六十七號
明治二十八年二月二十五日宣告)

〔理由〕 原告ハ渡邊九十九ヲシテ實地ニ立會ハシムル様被告ニ出願シタル然ルニ被告ハ其願書ヲ却下セシ爲メ遂ニ修正圖面ノ差出期限ヲ經過セシ者ナレハ渡邊九十九外一名ニ與ヘタル高見山試掘認可ノ取消ヲ請フト云フト雖被告ハ明治二十五年農商務省令第六號鑛業條例施行細則第六條ニ依リ寫第三號證ノ如ク期限ヲ定メ圖面ノ修正ヲ命シタルニ原告ニ於テ其期限内ニ修正圖面ヲ差出サ、ル爲同施行細則第三十條第一號ニ依リ寫第五號證ノ如ク出願ヲ無効トセラレタルモノナレハ指定期限ノ經過ニ付何等ノ理由アリトスルモ之ヲ以テ被告ノ處分ヲ違法ナリト云フヲ得ス隨テ渡邊九十九等ニ與ヘラレタル試掘認可ノ取消ヲ求ムルノ權利ナキモノトス

○鑛業條例施行細則第三十條第八號ノ公簿中ニハ地圖ヲモ包含ス(銀鉛鑛試掘認可

可取消請求ノ訴 明治二十七年第五十八號
明治二十八年二月二十五日宣告

〔理由〕原告ハ鑛業條例施行細則第三十條第八號ニ依レハ大字小字名土地臺帳若クハ其他ノ公簿ニ符合セサルトキハ其出願ヲ無効トストアリ而シテ其所謂公簿トハ民有地ニ在テハ土地臺帳官有地ニ在テハ官有地臺帳官林ニ在テハ官林帳ノ類ヲ指スモノナリ然ルニ佐伯勢一郎ノ願書及訂正圖ニ記載シタル字名ハ何レモ板塚トアリテ土地臺帳ニ符合セス元來地圖ノ如キハ絶對的ニ公簿ニアラスト云フヲ得サルヘシト雖其主トスル所ハ土地ノ位置境界ヲ示スニ在ルモノナレハ字名ヲ證明スル如キ時ニハ之ヲ公簿トシテ根據スヘキモノニアラス何トナレハ字名ヲ證明スルニハ別ニ土地臺帳ナル專用ノ簿冊アレハナリ故ニ土地臺帳ニ符合セサルトキハ其出願ヲ無効トナサ、ルヘカラスト云フト雖鑛業條例施行細則第八號ニハ土地臺帳若クハ其他ノ公簿トアリテ土地臺帳ノ外尙他ノ公簿ニ據ルコトヲ許セリ而シテ地圖モ亦公簿ニ外ナラサレハ佐伯勢一郎ノ願書及圖面ニ記載シタル字名カ之ニ符合スル以上ハ其出願ヲ無効ト爲スヲ得ス又原告ハ假ニ佐伯勢一郎ノ願書及圖面ニ記載シタル字名ヲ以テ公簿ニ符合スルモノト爲スモ其再ヒ提出シタル訂正圖ニモ猶字名板塚ト記載シアリテ該圖カ被告監督署ニ到達セシ時ハ既ニ村役場ノ地圖ニハ字板塚ノ記載ハ改正セラレ消滅シタル時ナレハ其出願ハ無効ナリ

ト云フト雖乙第二號證ニ依レハ訂正圖ハ大阪市ヨリ明治二十七年一月二十五日ニ發送セシモノニシテ村圖字名ノ板塚ヲ板塚口ト改正セシハ甲第一號證ノ如ク同年同月二十四日即右發送ノ前日ナレハ佐伯勢一郎ハ之ヲ知ルコトヲ得サリシモノナリ然レハ其改正セラレタル新地圖ニ符合セサルモ之ヲ以テ其出願ヲ無効ト爲スヲ得ス

○鑛物試掘願書添屬圖面ノ字名カ舊稱ニシテ現名ト異ルモ明治二十六年農商務省令第六號實施前ナルトキハ此圖面ニヨリ試掘ノ認可ヲ爲スモ無効ニアラス
〔砦礦試掘認可取消ノ訴願却下ニ對スル訴 明治二十七年第三十七號
明治二十八年二月二十五日宣告〕

〔理由〕本訴ハ被告カ與ヘタル東監乙第三號ノ判定ヲ破毀シ進シテ本件被告カ爲シタル處分ノ取消ヲ求ムルモノナレハ該判定ノ當否如何ヲ判セサルヘカラス而シテ東監乙第三號ニ依レハ被告ハ原告ヲ以テ鑛業條例第三十三條ノ所謂利害ノ關係ヲ有スルモノニアラストノ理由ヲ以テ訴願ヲ却下シタルノモナレハ事實ニ就キ原告カ果シテ利害關係者ナルヤ否ヲ審理スルニ原告ハ明治二十六年六月三日吉井永治郎カ試掘認可ヲ得タル後二月半餘即チ同年七月二十九日ヲ以テ採掘ノ出願ヲ爲シタルモノニシテ吉井永治郎ニ認可ノ當時競願者ノ位置ニ在ルモノニシテ又原告ニ於テ神田幸七郎ハ明治二十二年所爭地ニ於テ鑛業ヲ營ミタリ樋口迂一郎ハ所

争地ノ所有者ナリト云フモ原告ハ認可ニ付利害上一モ其關係ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ
鑛業條例第三十三條ノ所謂其認可ニ付利害ノ關係ヲ有スルモノト謂フヘカラス又原告ニ於テ
吉井永治郎ノ試掘地ハ名稱異ナルニ依リ所争地トハ別地ナリ後日ニ於テ訂正スル所アルモ原
告ハ其訂正ニ先チ探掘願ヲ出シタルモノナレハ原告ハ上杉川地内栗山ノ先願者ナリト云フモ
吉井永治郎カ被告ニ提出シタル添屬圖面小杉澤ナル字名ハ舊稱ニシテ且明治二十六年五月農
商務省令第六號實施以前ニ係ルモノナレハ實地上異ナル所ナク又其認可ヲ無効ト爲スヲ得ス
故ニ被告ノ判定ハ其當ヲ失スルニアラス其他原被問論辯スル所アルモ必要ナラサルヲ以テ之
カ説明ヲ與ヘス

○鑛業條例施行細則第三十條第八項ノ所謂公簿トハ地理全般ニ關スル公簿ニ限
ルノ意ニアラス(不當處分取消ノ訴 明治二十八年第四號 明治二十八年十月五日官告)

○土木圖ハ村役場ニ於テ公共事務ノ爲メ調製シ置キタルモノナレハ鑛業條例施
行細則第三十條ニ所謂公簿ニ該當ス(同上)

○鑛業條例施行細則實施以前ノ縣令ハ鑛業願届手續ニ關シ之ニ異ル規定アルモ
該細則第七條ノ爲メ其效力ヲ失フタルモノトス(同上)

(理由) 原告ハ第一被告從參加人蘇我健次郎カ試掘願書ニ添屬シタル圖面ハ土木圖ニ符合シ
居ルモ其土木圖ナルモノハ川流橋梁又ハ溝渠道路ノ如キ土木工事ニ要スル部分ヲ主眼トシテ
調製シタルモノニシテ土地臺帳ノ如キ地理全般ニ關スルモノニアラサレハ明治二十五年農商
務省令第六號鑛業條例施行細則第三十條第八項ニ所謂其他ノ公簿ニ該當セスト云フト雖該條
ニハ單ニ土地臺帳又ハ其他ノ公簿ニ符合云々トアリテ地理全般ニ關スル公簿ニ限ルノ意ヲ示
サス而シテ該土木圖ナルモノハ一定ノ目的ノ爲メニ調製シタルニ相違ナキモ村役場ニ於テ公
共事務ノ爲メ曾テ調製シ置キタルモノナレハ該條ニ所謂公簿ニ該當スルモノト認めサルヘカ
ラス第二原告ハ明治二十二年福岡縣令第九十九號ハ鑛業ノ出願手續ニ付テハ鑛業條例施行細
則ヲ補充スルモノナルニ參加人ハ該令ノ手續ニ依ラス届出ヲ直接ニ福岡縣知事ニ差出シタル
ヲ以テ其却下ヲ受ケタリ而シテ其後更ラニ届書ヲ提出シタルモ法律上期限經過ノ後ナレハ試
掘ノ出願ハ無効ナリト云フト雖鑛業條例施行細則ハ明治二十五年ヲ以テ發布セラレ而シテ福
岡縣令ハ明治二十二年ノ發布ニ係ルモノナレハ該令ハ施行細則ヲ補充スルノ規定ニアラサル
ノミナラス細則第七條ニ於テ試掘又ハ探掘ヲ出願シタルトキハ中畧三日以内ニ其書類又ハ圖
面ノ寫シ鑛山所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ云々ト定メラレタレハ該令中鑛業願書手續ニ關シ

之ニ異ナル規定アルモ本條ニ依リ其效力ヲ失フタルモノト認メサルヘカラス故ニ參加人カ細則第七條ニ依リ出願ノ當日届書ヲ鑛山所在地ノ地方長官タル福岡縣知事ニ直接ニ差出タルハ成規ノ期限内ニ届出タルモノニシテ適法ノ所爲ナリトス其他雙方ニ於テ陳辯スル所アルモ必要ナキヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

○鑛業試掘願ヲ改正細則ニ依リテ處分スヘキ場合ニ舊細則ニ依リテ判定スルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノトス(石炭試掘認可取消訴訟ニ關スル判定不服ノ訴
明治二十八年第四十五號
明治二十八年十二月十八日宣告)

〔理由〕 被告ハ原告ノ試掘認可願書及圖面中奈木野ヲ奈良木ト稱セシハ公簿ニ符合セサルモノナルヲ以テ二十五年農商務省令第六號鑛業條例施行細則第三十條ニ據リ其出願ヲ無効トセサルヘカラス而シテ同細則ハ二十七年七月即チ未タ原告出願ノ處分ヲ終ラサル前ニ同年農商務省令第十號ヲ以テ改正セラレタリト雖舊細則第三十條ハ願書成立上ノ無効ヲ示スモノニシテ原告出願ノ當時施行セラレ居リタルヲ以テ本件ニハ之ヲ適用スルヲ當然トスト主張スレトモ奈良木ハ奈木野ノ誤記タルコトハ容易ニ了解スヘク之ヲ以テ公簿ニ符號セサル願書ト認ムルニ足ラサルノミナラス二十七年農商務省令第十號ヲ以テ改正セラレタル鑛業條例施行細則

第三十七條ハ「本則施行ノ日マテ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ據レル出願ト見做シ處分スヘシ」ト規定スルニヨリ本件ノ如キハ改正細則ニ據リテ處分スヘキモノナルヲ舊細則第三十條ニ據リテ無効ニ屬スヘキモノト判定セルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノナリ

○適法ナル試掘出願者ノ繼承人ニ採掘ノ特許ヲ與フルモ錯誤ニ出テタルモノト云フヲ得ス(鑛業採掘特許取消訴訟裁定ニ對スル訴
明治二十八年第四百十四號
明治二十九年五月十四日宣告)

○改稱ノ手續ヲ了シタル山林臺帳ノ字名ニ符合セサルモ未タ改稱セラレサル公簿即チ官林根帳ノ字名ニ符合スル出願ハ適法ナリ(同上)

〔理由〕 本訴訟ノ起因ハ鑛山所在ノ役場ニ存在スル二種ノ公簿中土地臺帳ニハ上山ノ字名アリ又官林根帳ニハ川頭ノ字名アリシ爲メ明治二十六年九月二十日古里善七外二名カ金鑛試掘出願ヲ爲スニ際シ同人等ハ官林根帳ノ字名川頭ヲ以テ出願シ其後明治二十七年一月十八日原告ハ土地臺帳ノ上山ノ字名ヲ以テ同シク金鑛試掘ノ出願ヲ爲シタルニ在リ而シテ右二種ノ公簿ノ字名異ナリシ所以ハ乙第一號證及乙第二號證ニ依レハ村長ニ於テハ官林ニ關スル帳簿ノ訂正ハ大林區署ノ通知ヲ俟テ之レヲ爲スヘキモノナリト思考セシニ其通知ナキ爲メ未タ字名ヲ訂正ヲ爲サハリシニ基クモノナリ然レトモ出願人タル古里善七等ニ於テハ官林根帳タル公

簿ニ符合スル字名川頭ヲ以テ出願シタルモノナレハ即チ適法ノ出願ニシテ鑛業條例舊施行細則第三十八條第八號ニ據リ之レヲ無効トスヘキ理由ナク隨テ被告カ先願者タル古里善七等カ字名ヲ訂正シ上山ノ名稱ヲ以テ採掘ヲ出願シタルニ當リ其繼承人タル川弘廣ニ採掘ノ特許ヲ與ヘタルハ錯誤ニ出テタルモノト云フヲ得ス故ニ原告ノ訴願ニ對シ被告カ與ヘタル明治二十八年十一月十五日附ノ裁定ハ正當ニシテ川添弘ニ採掘特許ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス然ルニ原告ハ本件係争地ノ舊小字名川頭ノ名稱ハ山林臺帳ニ於テ古里善七等カ金鑛試掘出願前既ニ上山ト改稱セラレタルコトハ原告第一號證ニ添付セル村長ノ證明書ニ徴シテ明カナリト云フト雖該證明書ニ依レハ山林臺帳ニ改稱ノ手續ヲ了シタルコトヲ記載シアルモ官林根帳ノ字名改稱セラレサル以上ハ古里善七等ノ試掘出願ハ公簿ニ符合スル適法ノ出願ナリト言ハサルヲ得ス

○鑛業條例施行細則第八條ニ所謂鑛業ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキ云々トアルハ甲ノ出願地カ乙ノ出願地ト重複セル如キ場合ヲ云フモノニアラス(不當裁定取消ノ訴 明治二十九年第十八號
明治二十九年五月十九日宣告)

○鑛業條例舊細則適用ノ當時出願シタルモノモ改正細則施行ノ日マテ處分ヲ終

ラサリシ場合ハ改正細則ニ依リ處分スヘキモノトス(同上)

○區域變更願カ單ニ試掘區域内ニ於テ減區ヲ爲セシニ過キサルトキハ最初出願ノ效力ヲ存續スヘキモノトス(同上)

○鑛業條例施行改正細則第二十八條第二項ノ區域變更願ニ關スル規定ハ單ニ減區ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニアラス(同上)

〔理由〕 被告ニ於テハ原告ノ出願地ハ先願者タル被告從參加人森岡幸ノ出願地ト同一場所ナルヲ以テ鑛業條例施行細則第八條ニ依リ重複スル部分ヲ除却セル訂正圖面ヲ差出スヘキ旨命令ヲ爲シタルトモ原告ハ提出期間ヲ徒過セシヲ以テ同細則第三十二條ノ二ニ依リ原告ノ出願ハ無効トナリタルモノニシテ原告ハ最早鑛業條例第三十三條ノ利害關係人ニアラサルニ付キ出訴ノ權ナシト主張スト雖モ鑛業條例施行細則第八條ニ鑛業ニ關スル願書若シクハ圖面不完備ナルトキハ云々トアルハ一人ノ出願地カ他ノ一人ノ出願地ト重複セル如キ場合ヲ云フモノニアラサルヲ以テ原告カ被告ノ修正命令ニ從ハサルハトテ同則第三十二條ノ二ヲ適用シテ原告ノ出願ヲ無効トス可キモノニアラス故ニ此點ニ於ケル被告ノ抗辯ハ其理由ナシト雖モ原告ノ請求ハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラス第一原告ニ於テハ森岡幸ノ區域變更願ハ素ト最初

ノ試掘認可願ニ添附セル圖面カ公簿ニ符合セサルニ由リ其出願ハ舊細則第三十條ノ八ニ由リ無効ノモノナルニ心付キ圖面中公簿ニ符合セサル部分ヲ除却シ殘存部分ヲ有效ナラシメント欲スルニ出テタルモノナレハ固ヨリ新ナル獨立ノ出願ニシテ最初出願ノ效力ヲ存續スルモノニアラスト主張スト雖モ森岡幸ノ試掘願ハ改正細則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサリシモノナレハ改正細則ニ依リ處分スヘキモノニシテ舊細則第三十條ノ八ヲ適用シテ之ヲ無効トス可キモノニアラス又其圖面カ公簿ニ符合セスト主張スル點ハ只郡界ノ一部ニ於テ圖面上書誤アルコトヲ云フモノニシテ實地ト著シク相違スルモノト認定スルヲ得サレハ改正細則第三十二條ノ六ヲ適用シテ出願ヲ無効トス可キモノニアラス然ラハ則チ森岡幸ノ試掘願ハ有效ノモノニシテ其區域變更願ハ單ニ試掘區域内ニ於テ減區ヲ爲セシニ過キササルヲ以テ無論最初出願ノ效力ヲ存續スヘキモノナルカ故ニ右變更願ハ原告主張スルカ如キ趣旨ニ出テタルモノナルヤ否ヤヲ論究スル必要ナキモノトス第二原告ハ又森岡幸ノ區域變更願ノ提出ハ最初出願ノ效力ヲ失ハシメ變更願提出ノ日ヨリ出願ノ效力ヲ生セシムルモノナリト主張シ改正細則第二十八條第二項ヲ援用スト雖モ同條ハ專ラ同一場所ニ於ケル競願者ノ利益ヲ保護スルニ出テタルモノナルヲ以テ同條ノ區域變更願ニ關スル規定ハ出願ノ區域内ニ於テ單ニ減區ヲ爲シタル場合ニ適

用スヘキモノニアラスト解釋スルヲ相當トス何トナレハ減區ノ場合ニ於テハ毫モ他人ノ利益ヲ害スル悞ナキニ尙最初出願ノ效力ヲ存續セシメサル條理アラサレハナリ

○ 鑛業條例第三十三條ニ所謂錯誤トハ誤テ無効ノ出願ヲ許可シタル場合ヲ謂フ

(試掘許可取消請求ノ訴 明治二十九年第九十六號 明治二十九年十月二十日宣告)

○ 字名相違ノ如キハ其出願ノ許可ヲ取消スニ及ハス之ヲ修正セシムルヲ得ルモノトス(同上)

○ 正確ナル測量圖其他官公署ノ帳簿ニ依ラスシテ試掘ノ許可ヲ與フルモ違法ナリト云フヲ得ス(同上)

〔理由〕 原告ハ倉田保之助外一名カ字丸森トシテ試掘ヲ出願セシ個所ハ字丸森ニアラスシテ字割畑澤山ナルニ被告カ字丸森トシテ之ヲ許可セシハ錯誤ノ處置ナリト云フト雖鑛業條例第三十三條ニ所謂錯誤トハ誤テ無効ノ出願ヲ許可シタル場合ヲ謂フモノナリ然ルニ字名相違ノ如キハ鑛業條例施行細則第八條ニ依リ修正セシムルヲ得ヘクシテ其出願ヲ無効トナスヘキモノニアラサレハ許可後ニ至リ之ヲ發見スルモ其許可ヲ取消サスシテ修正セシムルヲ得ルモノトス故ニ本件ハ同條錯誤ノ範圍内ニ入ルヘキモノニアラス又原告ハ被告カ右許可ヲ爲スニ當

リ正確ナル測量圖其他官公署ノ帳簿ニ據ラサルハ違法ナリト云フト雖之レニ據ルヘシトノ規定アルニアラサレハ被告ニ於テ之ニ據ラストテ違法ナリト謂フヲ得ス又原告ハ倉田保之助等ト同願者ナル野田平四郎實地臨檢ノ際出願地及測量標點ヲ明示シ能ハサリシヲ以テ此點ヨリ論スルモ其許可ヲ取消サ、ルヘカラスト云フト雖其明示シ能ハサリシハ多々羅ノ部下認ムルヲ以テ本件丸森ノ試掘許可ニ關係ナキモノトス

○測點相違ノ一事ノミニ依リ詐欺ヲ以テ境界ヲ變更シタルト謂フヲ得ス(不當裁
定取消要求ノ訴 明治二十八年第六十一號
明治二十九年十月二十三日宣告)

○試掘滿期前採掘特許ヲ出願シタルトキハ其權利消滅セス(同上)

〔理由〕 本訴所争ノ要點ハ原告カ福井縣大野郡西谷村大字温見小字小温見一番地ニ於テ金銀銅鉛鑛ノ試掘認可ヲ得タル土地ハ被告從參加人足利庄左衛門等ノ試掘地ト重複スルヤ否ニ在リ依テ甲第一號證ノ附屬圖ニ該當スル乙第三號證原告ノ試掘圖ト乙第八號證被告提出ノ實測圖トヲ對照スルニ兩試掘地ノ關係ヲ示ス部分ニ於テ全ク相異レリ更ニ大野區裁判所カ當裁判所ノ囑託ニヨリ實地臨檢ノ上鑑定人ヲシテ調製セシメタル實測圖ヲ以テ乙第三號圖及乙第八號圖ニ比較スルニ乙第八號圖ハ之ト相符合シ而シテ乙第四號證足利庄左衛門等ノ試掘圖ハ原告ノ試掘地ト關係ヲ有スルニ號點三號點ノ方位稍右二種ノ實測圖ト符合スルヲ以テ兩試掘地ハ被告申立ノ如ク互ニ重複スルモノト認メサルヲ得ス次ニ原告ハ乙第四號證圖面中ノ四號點ハ小字ヤサ谷ニ在ルヘキヲ實地臨檢ノ際之ヲ小字小温見ニ設ケタルハ詐欺ノ證ナリト論スルトモ該測點相違ノ一事ノミヲ以テ足利庄左衛門等カ詐欺ヲ以テ境界ヲ變更シタルノ證ト爲スニ足ラス又足利庄左衛門等ノ試掘認可ハ滿期ト爲リ効力ヲ失ヒタルニヨリ假令ヒ兩試掘地重複セリトスルモ原告ノ試掘認可ヲ取消スノ必要ナシト主張スレトモ足利庄左衛門等ハ試掘滿期前採掘特許ヲ出願セシモノナルヲ以テ其權利消滅セリト謂フヲ得ス

○採掘特許出願ノ目的地トシテ全ク實地ニ無キ名稱ヲ記載シタル場合ニアラサレハ鑛業條例舊施行細則第三十條第八號ニ所謂公簿ニ符合セサルモノト謂フヲ得ス(硫黃鑛採掘特許取消請求ノ訴 明治二十九年第三十一號
明治三十年二月三日宣告)

〔理由〕 被告ニ於テ明治二十六年十二月十五日附原告ノ硫黃採掘願書中沼ノ平及南ブス澤ノ二小字名ハ村長ノ回答書及縣知事ノ上申書ニ依ルモ公簿上ニ登錄ナキ字名ナリ故ニ鑛業條例舊施行細則第三十條第八號ニ依リ該出願ハ無効ニ歸シタル趣主張スト雖本件願書中沼尻山ナル字名ヲ脱スト雖其記載スル所吾妻村大字蠶養ノ名稱ハ土地臺帳ニ符合スルノミナラス沼

ノ平及南ブズ澤ナル小字名ハ公簿ニ記載ナキモ乙第二號證ニ依レハ普通稱ヘ居ル所ノ小字名タルコト明瞭ニシテ實地ニ無キ名稱ヲ記載シタルモノニアラサレハ舊施行細則ニ所謂公簿ニ符合セサルモノト云フ可キモノニアラス因テ原告ノ明治二十六年十二月十五日ノ出願ニ對シ東京鑛山督署カ鑛業條例施行細則第三十條第八項ニ依リ無効ニ歸シタリトノ通知ハ失當ノ處分ナリ隨テ永井喜三次カ明治二十七年二月七日ノ試掘認可及之ニ基ク若山鉸吉カ同年六月三日ノ硫黃採掘特許願ニ對シ被告カ同年七月ヲ以テ與ヘタル許可ハ錯誤ニ出テタル處分ナリト

○試掘出願ニ對シ管轄官廳カ其職權ヲ以テ認可ヲ與ヘタル以上ハ假令其認可ハ錯誤ニ由レル場合ト雖モ之カ取消處分ヲ爲ス迄ハ其效力ヲ有ス(鑛山採掘特許取消ノ訴 明治二十九年第七十七號 明治三十年四月十四日宣旨)

○他人ノ試掘認可地ニ對シテハ試掘ノ出願ヲ許サス(同上)

〔理由〕原告ニ於テ第一從參加人水津彌七ノ爲シタル試掘出願ハ字名公簿ニ符合セサルヲ以テ本來無効ニシテ法律上出願ナキト同視スヘキモノナレハ之ニ對シテ與ヘタル認可モ亦取消ヲ俟タスシテ當然無効ナリト云フト雖管轄官廳カ其職權内ニ於テ適法ノ手續ニ依リ認可ヲ與

ヘタル以上ハ其認可ハ法律上有效ノモノナルヲ以テ他ノ理由ニ依リ取消處分ヲ受ケサル間ハ其效力ヲ保持スヘキモノトス而シテ鑛業條例第三十三條ハ詐偽又ハ錯誤ニ由レル出願ニ對シ與ヘタルモノトセハ其當時ノ鑛業條例施行細則ニ照シ錯誤ノ認可タルヲ免レサルモ其效力ハ更ニ之ヲ取消スニ非サレハ消滅セサルモノトス何トナレハ若シ原告主張ノ如ク取消ヲ俟タス自然ニ消滅スルモノトセハ法律ニ於テ之ヲ取消スヘシトノ規定ヲ設クルノ必要ヲ見サレハナリ第二原告ハ假ニ其認可ハ取消處分アルマテ有效ナリトスルモ本件ノ認可ハ當局者ニ於テ取消サ、ルヘカラサルコトヲ確認シタルモノナレハ恰モ取消ヲ爲シタルト同一ノ效力アリト云ヒ又其取消ノ效力ハ既往ニ遡リ前ニ與ヘタル認可ノ效力ヲ抹殺スルモノナリト云フト雖本件ノ認可ハ當局者カ取消サ、ルヘカラサルコトヲ確認スル以前ニ於テ試掘滿期若クハ廢業ニ依リ自然ニ廢滅シタルモノニシテ取消處分ヲ受ケタルモノニ非サレハ此主張ニ付テハ當否ヲ判斷スルノ必要ナシ第三本件試掘認可ハ明治二十八年一月二十四日ヲ以テ廢滅ニ屬セリ而シテ原告カ明治二十七年十月二十二日ヲ以テ提出シタル試掘願書ハ同日以後ニ於テ監督署ノ掌裡ニ存在シアレハ同日以後ノ出願ニ對シ原告ハ先願者ナリト云フト雖原告ハ他人ノ試掘認可地ニ對シ其有效期限内ニ出願シタルモノナレハ其出願ハ元來無効ナリ故ニ其願書カ偶然該試掘

認可ノ廢滅後ニ至リ尙官廳ニ存在スレハトテ元來無効ノ願書ヲ轉用シテ試掘廢滅後ニ對スル有效ノ新願書ト爲スヲ得ス第四原告ハ原告ノ出願ヲ無効トスルニハ法文ノ存在スルヲ要ス然ルニ鑛業條例及同施行細則中他人ノ試掘地ニ對シ試掘ヲ爲スヲ得サルノ明文ナキヲ以テ原告ノ出願ハ有效ナリト云フト雖鑛業條例第二十一條他人ノ試掘年限中ハ其試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スヲ得サルノ法文ニ由リ之ヲ觀察スレハ結局採掘ノ準備行爲ニ過サル試掘ニ付テノ出願ハ無論之ヲ許サ、ルノ法理ヲ推定スルヲ得ルヲ以テ試掘ニ對スル特別ノ明文存セサルモ該條ニ於テ其出願ヲ禁シタルモノト解釋セサルヘカラス隨テ原告カ從參加人ノ試掘認可地ニ對シ爲シタル試掘願ハ無効ナリトス

○試掘出願書ニ添附セル畧測圖ニ依リ試掘認可請求ノ區域分明ナル以上ハ假令該區域内ニ於ケル小字ノ記載ニ脱漏アルモ區域不分明ノ出願ト謂フヲ得ス(石炭鑛試掘認可取消請求ノ訴 明治二十九年第四百二十四號 明治三十年四月二十八日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ野田宗兵衛ノ石炭試掘出願ハ願書ニ記載スル坪數ニ應スヘキ多數ノ小字名ヲ掲載セシ添付ノ畧測圖モ亦實際測量ノ事實ナキノミナラス二個以上ノ不動基點ナク且實地臨檢ノ際モ之ヲ明示シ能ハサリシハ鑛業條例施行細則雖形第一號第二號ニ準據セス陰ニ想

像ヲ以テ圖面ヲ捏造シ陽ニ法規ヲ遵守セシモノ、如ク裝ヒタルモノナレハ許欺ノ出願タルコト明カナリ而シテ被告ニ於テ此ノ如キ區域不分明ノ願書ヲ受理スヘカラサルハ同細則第三十一條第三項ニ明文アリ又之ヲ假リニ受理シ得ルモノトスルモ宗兵衛ノ試掘出願地ハ小字東山及日向後ノ二小字ニシテ他ノ十九字ハ原告ノ出願明治二十九年一月十八日後即チ同月二十五日附ヲ以テ區域變更ノ出願ヲ爲シ始メテ其效力ヲ得タルモノナレハ其重複區域ニ付テハ先願者タル原告ニ認可ヲ與フヘキハ當然ナルニ被告ハ却テ後願者タル野田宗兵衛ノ試掘出願ニ認可ヲ與ヘタルハ錯誤ナリト云フト雖宗兵衛カ出願書ニ添付セル畧測圖ニシテ原告ノ是認スル乙第一號證ニ依レハ村界或ハ大字界及橋岩大松等一號乃至九號ノ標點ヲ設ケ之レニ據レル直線ヲ以テ接續シタルモノナルカ故ニ小字ノ脱漏アルモ出願目的地ノ區域ヲ識認スルニ足り又該畧測圖ハ後日ノ提出ニ係ル一號乃至九號ノ標點ニ據レル實測圖ト符合セサル所アルモ畢竟測量上ノ結果ニ出ルモノニシテ其標點ハ前後照應シ故ラニ詐欺ヲ謀リタル形蹟ナキモノナレハ被告カ出願ノ區域ヲ分明ト認メ之ヲ受理シタルハ失當ノ處置ニアラス又上段已ニ説明スル如ク宗兵衛カ明治二十八年十二月十日ノ出願ニシテ添付ノ畧測圖ニ依リ試掘認可請求ノ區域分明ナル以上ハ該區域内ニ係ル小字ノ記載ニ脱漏アルモ之ニ對シ明治二十九年一月十八日原

告ノ出願書中ニ小字記載ノ故ヲ以テ出願重複地ノ先願者ト爲ルヲ得ヘキ理由ナキモノナレハ
被告ノ處分ハ錯誤ナリト謂フヲ得ス

○試掘人ノ加除名ハ鑛業條例中之ヲ許スノ規定ナシ(詐欺認可取消ノ訴願判定不
服ノ訴 明治二十九年第五十七號 明治三十年十二月二十二日宣旨)

○土地所有者承諾ノ有無ハ試掘願ノ許否ニ關係ナシ(同上)

〔理由〕 原告ノ主張ハ原告ハ初メ甲第四號證明治二十八年九月十二日附ヲ以テ試掘ヲ出願シ
續テ被告監督署ノ修正命令ニ對シ同年十二月十五日附甲第七號證明治二十八年九月十二日附ヲ以テ試掘ヲ出願シ
月九日附甲第九號證明治提出シ此間原告ハ甲第四號證明出願ヲ繼續シタルモノナレハ原告出願
ノ日ハ即チ明治二十八年九月十二日ナリ而シテ小笠原貞藏ノ出願ハ同年十月二十二日ニシテ
原告ノ出願日ニ比スレハ小笠原貞藏ハ後願者ナルニモ拘ハラズ被告力之ニ試掘ヲ認可シタル
ハ不當ナリト云フニ在レトモ本件甲第四號證明出願人ハ錦谷磯吉津輕隆一郎浪岡保人藤田嘉
吉ノ四名ニシテ被告ハ右四名ニ對シ甲第五號證明ヲ以テ修正ヲ命シタルモ右四名ヨリ其指定期
間ニ修正ヲ提出セサルニ依リ鑛業條例施行細則第三十二條第二號ニ依リ本願無効ニ屬スル旨
ヲ右四名ニ通知シタリ以上ノ事實ハ原告提出甲第四號證明及甲第五號證明及被告提出秋往第一二

○號ニ據テ明カナリ而シテ原告ニ於テハ甲第七號證明即チ原告カ甲第五號證明監督署ノ命令ニ
對シテ提出シタル修正ナリト云フモ甲第五號證明監督署ノ命令ハ甲第四號證明ノ出願人タル錦谷
磯吉外三名ニ宛テ甲第四號證明ノ修正ヲ命シタルモノナレハ甲第四號證明ノ出願人ナラサル原告
ハ右命令ニ對シテ修正ヲ提出スルノ資格ナキモノトス原告ハ甲第七號證明出願人五名ノ内植村
五郎外二名ハ新タニ加入セシモ浪岡藤田ノ二名ハ即チ甲第四號證明出願人ニシテ最初ヨリ其
權利ヲ繼續スト云フモ試掘人ノ加除名ハ鑛業條例中之ヲ許スノ規定ナシ然レハ甲第七號證明
出願人ハ假令其中浪岡藤田ノ兩人甲第四號證明出願ニ關係アルモ新タニ植村五郎外二名ヲ加
ヘ錦谷外二名ヲ除キ以テ別ニ一團體ヲ組織シタルモノナレハ之ヲ以テ甲第四號證明出願人ト
同一ニ見做シ其權利ヲ繼續スト謂フヲ得ス隨テ甲第四號證明ノ修正ヲ提出スルノ資格アリト謂
フヲ得ヌ加之甲第七號ハ滿庵鑛試掘願ト記載シ試掘願ニ相當セル印紙ヲ貼用シタルモノナレ
ハ之ヲ以テ前願ノ修正ト見ルヲ得ス然ラハ則チ原告植村五郎外四名ハ明治二十八年十二月二
十日附甲第七號證明ヲ以テ初メテ試掘願ヲ出願シタルモノニシテ同年十月二十二日ヲ以テ出願
シタル小笠原貞藏ノ後願者ナリトス隨テ被告監督署カ小笠原貞藏ニ本件試掘認可ヲ與ヘタル
ハ正當ニシテ取消スヘキ理由ナシ又原告ハ小笠原貞藏ハ土地所有者ノ承諾ヲ詐リタリト云フ

モ土地所有者承諾ノ有無ハ試掘願ノ許否ニ關係ヲ及ホスモノニアラス其他雙方陳辯スル所アルモ本件裁判ニ必要ナラザルカ故ニ説明ヲ與ヘス

○試掘願提出後更ニ變更シテ再ヒ之ヲ差出シタルトキハ最初ノ試掘願ハ消滅スヘキモノトス(銀鑛試掘認可取消ノ訴 明治三十年第五十四號 明治三十一年四月二日宣告)

○甲者カ一定ノ區域ニ對スル鑛物ノ試掘願ヲ提出シタルニ其區域ノ一部分ハ乙者ノ借區地ト重複スル旨ヲ以テ農商務大臣ヨリ其重複ノ部分ヲ除クヘキ旨ヲ命セラレ甲者ハ其命令ニ從ヘ重複ノ箇所ヲ試掘願ヨリ除キタリ然ルニ其後乙者ノ得タル借區ハ詐欺ニ由リタルノ故ヲ以テ取消ヲ命セラレシニ丙者ハ乙者ノ借區カ取消トナルト同時ニ同一ノ箇所ニ對スル試掘願ヲ提出シタル場合ニ在リテハ試掘ノ先願者ハ甲者ニアラスシテ丙者ナリトス(同上)

〔理由〕 被告ハ詐欺ニ由リ得タル乳井久右衛門外一名ノ増借區許可ヲ取消スヘキモノナル上ハ古河市兵衛ニ對スル圖面訂正命令モ亦取消サレサルヲ得ス而シテ該命令ニシテ取消サル、上ハ古河市兵衛ノ明治二十四年三月三十日附ノ出願ニシテ未タ許可ヲ受ケザリシ部分ハ依然成立スルヲ以テ之レニ對シテ許否ノ指令ヲ爲サ、ルヘカラス果シテ然ラハ古河市兵衛ノ出願

ハ原告出願ニ先立ツヲ以テ鑛業條例ノ規定ニ依リ古河市兵衛ニ許可ヲ與ヘタルハ當然ナリト云フト雖古河市兵衛ニ於テ農商務大臣ノ圖面訂正ノ命令ニ應シ甲第四號證ノ如ク乳井久右衛門外一名ノ許可地ト重複シタル部分ヲ除キ明治二十五年四月四日ヲ以テ更ニ試掘願ヲ差出シタル上ハ同人カ明治二十四年三月三十日附ヲ以テ差出シタル甲第三號證ノ試掘願ハ自然消滅ニ歸シタルモノト言ハサルヘカラス故ニ乳井久右衛門外一名ノ得タル増借區許可取消ノ時期マテハ其許可地ニ對シテハ他ニ何等ノ鑛業出願ナキモノト認ムルヲ以テ相當ナリトス然ラハ原告ニ於テ甲第五號證ナル乳井久右衛門外一名ノ許可取消ノ同人等ニ到達シタル同日即チ明治二十九年二月二十六日ヲ以テ出願シタル甲第六號證銀鑛採掘特許願ハ古河市兵衛ニ對シテハ法律上先願ノ效力ヲ有スルモノト斷定セサルヘカラス然ルニ被告ニ於テ古河市兵衛ヲ以テ先願者ナリト認メ之ニ試掘ノ認可ヲ與ヘタルハ鑛業條例ノ所謂錯誤ニ出テタル處分ニシテ同條例ノ規定ニ背反スル違法ノ處分ナリトス

(同一判例 金鑛試掘認可取消ノ訴 明治三十年第五十五號 明治三十一年四月二日宣告)

○農商務大臣ハ採掘ノ特許カ錯誤ニ出テタルコトヲ發見シタルトキハ利害關係者ヨリ訴願ノ有無ヲ問ハス何時ニテモ之ヲ取消スノ職權ヲ有ス(不法處分取消

ノ訴 明治三十年第二十八號
明治三十一年六月四日宣告

〔理由〕 本件ノ事實ハ先願者安田盈房ノ願書中記載ノ字名公簿ニ符合セサルノ故ヲ以テ所轄
鑛山監督署ハ誤テ出願當時ノ施行細則ヲ引用シ其出願ヲ無効トナシタルニ因リ後願者杉本正
徳カ採掘特許ヲ得タルコト、ナリタルモ安田盈房ハ之ニ服セズ鑛業條例第三十四條ニ依リ農
商務大臣ニ訴願シ杉本正徳ノ特許取消ヲ請求セリ依テ農商務大臣ハ先キニ所轄鑛山監督署カ
安田ノ出願ヲ無効トシタルハ法律上ノ錯誤ナリシコト及其結果トシテ杉本ニ特許ヲ與ヘタル
ハ是亦錯誤ニ由リタルモノナルコトヲ發見シ右二箇ノ處分ヲ取消シ更ニ先願者安田盈房ニ採
掘特許ヲ與ヘタルモノトス而シテ原告ノ主張ハ安田盈房ハ鑛業條例第三十四條ニ依リ訴願ヲ
爲シタルコトナク又假ニ之ヲ爲シタリトスルモ農商務大臣ハ之レカ裁定ヲ爲シタルコトナシ
然ルニ農商務大臣カ之ニ拘ハラヌ安田盈房ニ與ヘタル無効通知ヲ取消シ之ヲ先願者ト爲シタ
ルハ違法ナリト云フニ在レトモ被告提出ノ第二號證ニ依レハ安田盈房ハ訴願ヲ爲シタルコト
明カナルノミナラス假ニ之ヲ爲サ、ルモノトスルモ農商務大臣ハ其處分ノ錯誤ニ出テタルコ
トヲ發見スルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ヘキ職權アルモノナレハ本件農商務大臣
ノ處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス其他雙方陳辯スル所アルモ本案判決ニ必要ナラサルヲ以テ之

カ説明ヲ與ヘス

○ 甲者カ他人ノ鑛區ト一部重複セル場所ニ試掘ヲ出願シ未タ其重複部分ニ對ス
ル減區出願ノ手續ヲ爲サ、ル前ニ該鑛區ニ對スル廢業ノ届出アリタルニ因リ
甲者ニ於テ更ニ區域變更願ヲ提出シ其廢業區ニ該當スル増區ヲ出願シタル場
合ニ在リテハ其區域變更願ハ有效ノ出願ナリ(石炭試掘認可取消ノ訴 明治三十
二年第四十八號
年十二月六日宣告)

〔理由〕 本件所爭ノ要點ハ吉原政道外三名カ他人ノ鑛區ト一部重複セル場所ニ試掘ヲ出願シ
未タ其減區出願ノ手續ヲ爲サ、ル前ニ該鑛區ニ對スル廢業届出テタルニ因リ吉原政道等ニ於テ
區域變更願ナルモノヲ提出シ其廢業鑛區ニ該當スル増區ヲ爲シ更ニ出願シタル場合ニハ其區
域變更願ハ有效ノ出願ナルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ吉原政道等ノ最初ノ出願ハ他人ノ鑛區ニ
對シテハ無効ノ出願ナレハ一旦減區ノ手續ヲ爲スヘキニ其手續ヲ省畧シテ直ニ區域變更願ヲ
以テ廢業鑛區ヲ増シタルモノナレハ被告カ之レニ對シテ認可ヲ與ヘタルハ不當ナリト云フト
雖本件出願ノ如キ他人ノ鑛區ト重複シタル場合ニハ出願人ハ必ス先ツ區域變更願ヲ提出シテ
減區ノ手續ヲ爲スヘシトノ法律上何等ノ規定ナキヲ以テ吉原政道等ニ於テ減區出願ノ手續ヲ

省署シ他人ノ廢業届ト同時ニ最初ノ出願區域中重複ノ故ヲ以テ許可セラレサルヘキ鑛區即チ廢業鑛區ヲ増加シテ更ニ出願シタル區域變更願ハ法律上有效ノ出願ナリト認メサルヲ得ス而シテ右吉原政道等ノ區域變更願ハ廢業届出ト同日即チ明治二十九年八月十八日ニ提出シ原告ノ出願ハ同年十月二日並ニ四日ノ出願ニ係ルヲ以テ吉原等ノ出願ハ當然原告ノ出願ニ對シテ先願ノ效力アルモノト言ハサル可カラス其他原告ニ對シ減區出願ヲ爲サレハ登録稅ヲ脱稅シタルモノナリト云フト雖モ前述説明ノ如ク法律上減區ノ手續ヲ必要トセサル場合ニ於テハ吉原政道等ニ於テ脱稅ノ違法行爲アルモノト言フカラス

○甲者ニ對シテ言渡サレタル刑事ノ判決ハ直接ニ其效力ヲ甲者カ有スル鑛業探掘權ニ及ホスコトナシ(鑛業特許取消ノ訴 明治三十二年第四號 明治三十二年十二月十五日宣告)

○探掘特許ノ取消命令ハ被命令者ニ到達スルニ由テ其效力ヲ生ス(同上)

○鑛業探掘權取消ノ命令ヲ發スルモ被命令者ニ到達セサル間ハ同一ノ區域ニ於ケル他人ノ探掘出願ハ有效ニ成立セス(同上)

〔理由〕原告ニ於テ元乳井久右衛門等カ借區ハ詐偽ニ由テ得タル鑛業權ナルヲ以テ司法裁判ノ確定ト同時ニ既ニ無効ナリ農商務大臣ノ取消ヲ要スルハ之カ手續ヲ爲シタルニ過キス一步

ヲ讓リ論スルモ命令者ト被命令者トノ間ニ在テハ命令ノ效力ハ到達ノ日ヲ以テ發生スト云フヲ得ヘキモ實體ノ效力ハ命令ノ當日ニ在リト云フヘクシテ命令者ト一般人民トノ間ニ在テハ其命令自體ハ何モ關係セス且第八號訴訟事件ノ原告ノ論旨ヲ援用スル旨主張スト雖刑事裁判所ハ乳井久右衛門ノ行爲ニ對シ犯罪アリトシ刑ヲ科シタルニ止ルモノナレハ久右衛門等カ特許セラレシ探掘權ニ對シテハ直チニ裁判ノ效力ヲ及ホスモノニアラス又行政上ノ處分ニシテ本件ノ如キハ當初一定ノ人ニ對シ特ニ探掘ヲ許可シタルモノニシテ其取消シモ亦同人ニ對スルモノナレハ取消命令ノ到達スルニ由テ處分ノ終了ヲ告ルモノナリ故ニ既ニ探掘特許ヲ得タル者アル場合ハ其取消處分ノ終了前他人ヨリ同一ノ場所ニ於テ同一ノ鑛物ヲ探掘センコトヲ出願スルモ無効ノ出願ナリ隨テ處分終了後即チ前鑛業者ノ關係消滅シタル後ノ出願ニ對シ前後ヲ比較スルコトヲ得サルモノトス依テ明治三十年十二月盛岡鑛山監督署ノ裁決及明治三十一年十二月十二日被告カ爲シタル裁定並ニ明治三十一年十月十日被告カ尾山友助ニ對シ第五二二八號ヲ以テ與ヘタル特許ニシテ本件係争ノ點ハ錯誤ニ出タルモノト認ムヘキモノナキヲ以テ共ニ取消スヘキモノニアラス

○甲者ニ對シテ言渡サレタル刑事ノ判決ハ直接ニ其效力ヲ甲者カ有スル鑛業探

掘權ニ及ホスコトナシ(鑛業特許取消事件不當裁定取消ノ訴 明治三十二年十二月十五日
八號) 日宣告

○探掘特許ノ取消命令ハ被命令者ニ到達スルニ由テ其效力ヲ生ス(同上)

○鑛業探掘權取消ノ命令ヲ發スルモ被命令者ニ到達セサル間ハ同一ノ區域ニ於ケル他人ノ探掘出願ハ有效ニ成立セス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ第一本件ノ鑛區ハ乳井久右衛門等カ不正行爲ヲ以テ探掘特許ヲ得其實發覺シ同人等ハ明治二十八年八月二十八日處刑セラレタルモノナレハ權利ヲ存續スルコト能ハス本件ノ場合ノ如キハ當然條例ニ依ラスシテ取消サレ實體上ニ於テ消滅シタルモノナリ第二假令第二ノ議論ハ立タストスルモ原告ハ形式上農商務省ノ取消命令ノ效力ハ行政處分ヲ爲シタル日即チ明治二十九年二月二十二日ヲ以テ發生スヘキモノナリト信ス故ニ原告ノ出願日附ヨリ數日ノ後願ニ係ル尾山友助ノ出願ニ對シ被告カ探掘特許ヲ與ヘタルハ鑛業條例第十六條ニ背ク不當ノ處置ナリト云フト雖刑事裁判所ハ乳井久右衛門ノ行爲ニ對シ犯罪アリトシ刑ヲ科シタルニ止ルモノナレハ久右衛門等カ特許セラレシ探掘權ニ對シテハ直チニ裁判ノ效力ヲ及ホスモノニアラス又行政上ノ處分ニシテ本件ノ如キハ當初一定ノ人ニ對シ特ニ探掘ヲ許

可シタルモノニシテ其取消シモ亦同人ニ對スルモノナレハ取消命令ノ到達スルニ由テ處分ノ結了ヲ告ルモノナリ故ニ既ニ探掘特許ヲ得タル者アル場合ハ其取消處分ノ結了前他人ヨリ同一ノ場所ニ於テ同一ノ鑛物ヲ探掘センコトヲ出願スルモ無効ノ出願ナリ隨テ處分結了後即チ前鑛業者ノ關係消滅シタル後ノ出願ニ對シ前後ヲ比較スルコトヲ得サルモノトス依テ明治三十年十二月盛岡鑛山監督署ノ裁決及明治三十一年十二月十二日被告カ爲シタル裁定並ニ明治三十一年十月十日被告カ尾山友助ニ對シ第五二二八號ヲ以テ與ヘタル特許ニシテ本件係争ノ點ハ錯誤ニ出タルモノト認ムヘキモノナキヲ以テ共ニ取消スヘキモノニアラス

○鑛業條例施行前ニ差出シタル願書ニシテ該法施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ新法ニ依レル願書ト看做シテ處分スヘキモノトス(石炭鑛探掘特許取消ノ訴 明治三十二年第九十八號
明治三十二年十二月二十七日宣告)

〔理由〕 原告第一ノ論點明治二十三年法律第五十五號並ニ同年農商務省令第七號ノ實施期ノ事ハ法制論トシテ格別成法即チ明治十九年勅令第一號公文式ノ規定ニ依レハ赤幡高磨等ノ出願當時ニ在テハ未タ施行ノ日限ニ達セサレハ右法令ハ其當時實施セラレタルモノト云フヲ得ス第二前段ノ如ク法律第五十五號並ニ省令第七號ハ高磨等出願ノ當時實施セラレサリシモノ

ナル以上ハ右法令ニ適合セサル云々ノ原告ノ論旨ハ總テ理由ナキモノナリ又明治二十三年勅令第五百五十一號ニハ「借區ヲ出願スルトキ一願書毎ニ金十五圓」トノミアリテ高磨等ノ願書ハ之ニ牴觸スル所アルヲ見ス第三明治二十八年九月高磨等出願區域中原告ノ部分ト重複ノ箇所ヲ當該官廳ノ命令ニ依リ一旦削除シタルモ其後官廳ハ競願書取調中其錯誤ナルコトヲ發見シタルヲ以テ之ヲ取消シ却テ原告ニ削除ヲ命シタル次第ナルヲ以テ削除命令取消ノ效果トシテ原狀ニ復セシメ先願ト爲シタルハ不當ニ非ス第四ノ論旨ハ假リニ法律第五十五號並ニ省令第七號ハ高磨等ノ出願當時實施セラレサリシモノトスルモ其願書ハ尙ホ舊規則タル工部省ノ令達ニ違背シタル無効ノモノナリト云フニ在レトモ本件處分當時實行ノ明治二十七年農商務省令第六號鐵業條例施行細則第三十七條ニ依レハ以前ニ差出シタル願書ニシテ新法施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ新法ニ依レル願書ト看做シ處分スヘキ旨ノ規定アレハ舊規則ノ手續ニ適合セサルノ一事ヲ以テ無効ノ願書ナリト云フヲ得ス

○鐵業條例施行細則第二十二條ニ依リ願書並ニ圖面ノ補充ヲ命セラレタル出願人カ指定ノ期限内ニ之ヲ提出セザルトキハ出願ノ意思ナキモノト認メテ處分スルコトヲ得ヘシ(石炭試掘認可取消訴訟ニ對スル判定不服ノ訴 明治三十三年第五月二十八日宣告)

百七十三號
十八日宣告

〔理由〕 原告ニ於テ第一訴外人島田幸次郎ノ出願區域ハ鐵業條例ニ規定スル六十萬坪ノ制限ヲ超過スルコトヲ主張スルモ乙第八號證實地臨檢復命書中ニ本願當初出願坪數ハ其實查四十七萬七千三百三十二坪ニシテ區域變更ノ實查坪數ハ四十二萬云々ト記載アルニ依リ之ヲ視ルモ法律上ノ制限額ヲ超過セザルコトヲ知ルヲ得ルノミナラス原告ノ證據トシテ提出スル甲第三號圖ハ幸次郎カ實地ニ於テ案内セシ區域ノ圖ナリト云フモ自家ノ推測ニ出テタルモノニ過キサレハ信ヲ置クニ足ラス第二原告ハ第三點ニ於テ被告提出乙第五號ニ就キ該圖面ノ區域線及基點ニ記載ノ度數ニ依リ調査スルトキハ其圖面區域ノ誤謬ナルコト明瞭トナリ隨テ原告出願區域ハ幸次郎出願區域ニヨリ中斷セラレサル旨ヲ主張シ甲第六號圖ヲ提出スルモ該圖ハ幸次郎出願圖第四號標抗ニ結測スル基點(石)ヨリ起算シ他ノ基點(川又)ヲ斟酌セス測量シタルモノニシテ正確ナル圖ト認ムルコトヲ得サルノミナラス鐵業條例施行細則第十一條ニ依レハ他人ノ認可地ニ對シ中間ニ十間以上ノ距離ヲ置クヘキモノナルニ該圖ニ依リ十間以上ノ距離アルコトヲ證明セザレハ假リニ正確ナリトスルモ中斷セラレストノ主張ハ採用スルヲ得ス然ラハ被告カ其中斷セラレタル區域ニ對シ願書及圖面ノ提出ヲ命シタルニ拘ラス原告ハ期限内

ニ之ヲ提出セサルヲ以テ出願ノ意思ナキモノト認メ幸次郎ニ乙第六號ノ如キ認可ヲ與ヘタルハ不當ノ處分ニアラス其他原告ニ於テ陳辯スル所アルモ幸次郎ノ試掘認可カ錯誤ニ出タリト認ムヘキ點ナキヲ以テ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

○他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル場合ニ於テハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘキモノトス故ニ事實他人ノ試掘認可地タルコトヲ知ラス亦之ヲ知ルニ途ナキ故ヲ以テ試掘人ノ承諾ヲ經サルモ違法ニアラスト謂フヲ得ス(採掘特許取消ノ訴 明治三十三年五月二十八日宣告)

○行政官廳カ職權ニ依リテ與ヘタル認可ノ效力ハ之ヲ取消サ、ル間ハ存在スルモノナルヲ以テ其之ヲ取消シタル處分ハ遡及ノ效力ヲ有セス(同上)

〔理由〕原告ハ鑛業條例第二十二條第一項ニ定メタル試掘人ノ承諾ナルモノハ他人ノ許可地ト重複シタルコトヲ知リタルトキニ於テ之ヲ爲スヘク若シ本件ノ如キ之ヲ知ラサル場合ニハ其出願前ニ必シモ承諾ヲ求ムルノ手續ヲ爲サ、ルモ妨ケナシト云フト雖鑛業條例第二十二條第一項ニ「他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ

採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシト規定シタルハ其出願者ハ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル場合ニ於テ試掘人ノ承諾ヲ經ヘキモノト解釋セサルヘカラス然レハ本件ノ出願ハ原告ニ於テ事實他人ノ試掘認可地タルコト知ラス亦之ヲ知ルニ途ナキ故ヲ以テ試掘人ノ承諾ヲ經サルモ違法ニアラスト謂フヲ得ス又原告ハ鑛山監督署カ明治三十一年五月三十一日附ヲ以テ五十嵐道翁ニ與ヘタル試掘認可ハ錯誤ニ出テタルモノトシ之ヲ取消サレタルモノナレハ其取消處分ハ遡及ノ效力アルヲ以テ該認可ハ全滅ニ歸セリト云フモ行政官廳カ職權ニ依リ與ヘタル認可ノ效力ハ之ヲ取消サ、ル間ハ存在スルモノナレハ其之ヲ取消シタル處分ハ遡及ノ效力ヲ有セサルモノトス故ニ五十嵐道翁ノ試掘認可ハ原告カ本件出願ノ當時ハ未タ全滅ニ歸シタルモノニアラス其他原告被告參加人ニ於テ陳辯スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ説明セス

○取消處分ノ效力ハ特別ノ場合ヲ除ク外既往ニ遡ルモノトス(不當處分取消請求ノ訴 明治三十四年第二百二十六號 明治三十五年五月三十日宣告)

○甲者ノ石炭試掘願ニ對シ却下處分ヲ爲シタルニ際シ乙者カ同一ノ出願ヲ爲シタル後當該官廳カ甲者ニ對スル却下處分ノ錯誤ニ出テタルコトヲ發見シ其處

分ヲ取消シタルトキハ甲者依然先願者ナリ(同上)

〔理由〕 本件所争ノ要點ハ訴外人石内傳外二名カ試掘出願ノ却下處分ヲ受ケタル後原告カ同一區域ニ對シ試掘願書ヲ提出シタル場合ニ於テ行政廳カ該却下處分ノ錯誤ニ出テタルコトヲ發見シ其處分ヲ取消シタルモ尙原告ハ石内傳等ニ對シ先願者トナルヤ否ニ歸着ス而シテ原告ハ石内傳等ノ出願ハ却下處分ニ依リ効力ヲ失フタルモノナルニ付其後取消サル、モ取消處分ハ取消ノ時ヨリ將來ニ對シ効力ヲ生スヘキモノナレハ却下處分ノ有效ナル當時ニ於テ爲シタル原告ノ出願ハ先願ナリト云フト雖行政廳ハ何時タリトモ其處分ヲ取消スノ職權ヲ有スルヲ以テ其取消處分ノ効力ハ特別ノ場合ヲ除クノ外既往ニ遡反シ恰モ取消サレタル處分ナカリシト同一ノ効力ヲ生スヘキモノト謂ハサルヘカラス又鐵業條例第十六條ニ依レハ試掘出願ハ出願日時ノ先後ニ依リ許否ヲ定ムヘキモノナリ而シテ本件ニ於テ石内傳等ハ明治三十年三月三十日ヲ以テ石炭試掘ヲ出願シ原告ハ明治三十三年十二月十一日ヲ以テ之ヲ出願シタルモノナレハ原告ハ後願者タルコト明白ナリ唯原告ハ石内傳等ノ出願ヲ却下セラレタル當時ニ於テ願書ヲ提出シタルモ該却下處分カ其後取消サレタル以上ハ前陳ノ如ク却下處分ナカリシト同一ノ効力ヲ生スヘキモノナルヲ以テ原告ハ石内傳等ニ對シ先願者ナリト謂フヲ得ス然レハ被告

カ石内傳外二名ヲ先願者ト認メ試掘ヲ認可シタルハ不當ノ處分ニ非ス其他雙方ニ於テ辯論スル所アルモ以上ノ如ク斷定シタル以上ハ一々其當否ヲ説明スルノ必要ナキモノトス

○鐵區特許ノ出願ニ際シ一鐵區ト信シテ一通ノ願書ニ認メ之ニ相當印紙ヲ貼用シタル以上ハ其後ニ至リ鐵山監督署ニ於テ實地測量ノ結果其出願區域ハ數鐵區ニ分裂スヘキコトヲ發見スルモ之カ爲メ該願書ヲ以テ不成立ナリト謂フヲ得ス(石油鐵探掘特許取消ノ訴 明治三十四年第四百二號
明治三十五年六月二十三日宣告)

○鐵區特許ノ願書ヲ却下スルコト有ルモ其後ニ至リ之ヲ取消シタルトキハ前願書ハ復活シテ出願ノ時ニ遡リ効力ヲ生スルモノトス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ參加人安部保太カ繼承シタル末吉平三郎外一名ノ出願ハ二鐵區ヲ一願書ニ記載シ一願書分ノ印紙ヲ貼用シタルモノナレハ其當時ノ法令即明治二十七年七月農商務省令第六號鐵業條例施行細則第二十七條第一號及第三十一條第一號ニ違背シ成立要素ヲ具備セサル願書ナリ故ニ東京鐵山監督署ニ於テ之ヲ却下シタルハ相當ノ處分ナルニ被告ニ於テ之ヲ取消サシメタル上更ニ願書ヲ復活シテ特許ヲ與ヘタルハ違法ナリト云フト雖該施行細則第二十七條ニハ鐵業ニ關スル書類ハ一通毎ニ一件ヲ限リ認ムヘントアリ第一條ニハ鐵業條例ニ依

リ差出ス願書(中畧)ニハ相當印紙ヲ貼用スヘシトアリ而シテ前陳ノ出願ハ當初願人ニ於テ一鑛區ト信シ一願書ニ認メ之ニ相當印紙ヲ貼用シタルモノナルモ其後東京鑛山監督署ニ於テ實地測量ノ結果該出願ノ區域數鑛區ニ分裂スヘキコトヲ發見シタルモノニシテ出願ノ當時ニ在リテハ數鑛區ヲ一願書ニ認メタルノ形蹟ナク却テ該細則ノ規定ニ從ヒ一通ニ付一件ヲ認メ之ニ相當印紙ヲ貼用シタルモノト認ムルヲ得ルヲ以テ該願書ハ元來不成立ノモノト謂フヲ得ス又原告ハ該細則第三十二條ヲ援用シテ願書ニ添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スル時ハ出願ヲ無効トストアルニ依リ本件ノ如キ實地測量ノ結果數個所ニ分裂シニ鑛區以上トナリタル事實アルモノハ實地ト著シク相違シタルモノナルヲ以テ東京鑛山監督署ニ於テ之ヲ却下シタルハ相當ナリ隨テ却下處分ヲ取消シ前願書ヲ復活セシムヘキモノニ非スト云フト雖本件ノ出願區域ハ實地測量ノ結果鑛區ノ分裂ヲ生シタルモ大體ニ於テ變動スル所アラサレハ細則ニ所謂著シク實地ト相違シタルモノニ該當セス隨テ該却下處分ハ此理由ニ基キ出願ヲ無効ト爲シタルモノト認ムルヲ得ス而シテ其處分ヲ取消シタル以上ハ前願書ハ復活シテ出願ノ時ニ遡リ效力ヲ生スルモノトス然レハ被告カ參加人ノ繼承シタル明治三十年十月六日附出願ニ對シ特許ヲ與ヘ明治三十一年十月十日附原告ノ出願ヲ排斥シタルハ相當ナルヲ以テ之ヲ取消スヘキ理由

ナキモノトス

○甲者ヨリ提出セシ試掘願ニ添附シタル圖面ハ實測圖ニアラスト認メ更ニ實測圖ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトモ期間内ニ之ヲ提出セサルノ故ヲ以テ其出願却下ノ處分ヲ爲シタル後乙者ハ同一ノ鑛區ニ對スル試掘願ヲ提出シタリ然ルニ甲者ハ其後ニ於テ曩ニ提出シタル圖面ハ實測圖ナルコトヲ上申シ鑛山監督署長ハ調査ノ上其上申ノ正當ナルヲ發見シ甲者ノ出願ヲ却下シタルハ錯誤ニ出テタルモノトシ該處分ヲ取消シ甲者ヲ先願者トシ其試掘願ヲ認可シテ乙者ノ出願ヲ却下シタルハ違法處分ニアラス(硫黃鑛試掘認可取消請求ノ訴 明治三十三年第二百二十號 三十五年十月七日宣告)

〔理由〕原告ハ鈴木忠次カ出願ニ添付シタル圖面ハ畧測圖ニシテ實測圖ニアラサルニ被告カ之ヲ實測圖ナリト認メ却下處分ヲ取消シタルハ不當ナリト主張スルモ本件鈴木忠次カ出願ニ係ル各區域ハ長兼外一名カ明治三十年九月三十日ヲ以テ被告ヨリ試掘認可ヲ受ケ同三十二年九月十六日廢業シテ鈴木忠次ニ繼承セシメタル個所ナルコトハ乙第七號證ニ依リ明カニシテ其長兼外一名カ右出願ニ添付シタル實測圖ト鈴木忠次カ出願ニ添付セル畧測圖ト最初記載シ

タル圖面（乙第一號證）トヲ對照セハ測量ノ基點ヲ始メ測點間ノ間數及角度等ニ至ル迄孰レモ符合スルモノナレハ右長兼外一名カ被告ニ提出シタル實測圖ト同一ナリト認メ得ラル、ノミナラス畧測圖ノ如キハ其大體ヲ示スヲ以テ足ルモノナルニ右鈴木忠次提出ノ圖面ハ特ニ正確ナル角度ヲ明示シ精密ニ調製シアレハ被告カ之ニ畧測圖ト記載シアルハ全ク誤記ニシテ實測圖ナリト認メタルハ不當ニアラス然シテ行政廳ハ何時タリトモ其處分ヲ取消スノ權能アルヲ以テ被告カ鈴木忠次提出ノ圖面ニ畧測圖トアルニ依リ更ニ實測圖ノ提出ヲ命シ其期間經過ノ理由ヲ以テ鈴木リウニ對シ出願却下ノ處分ヲ爲シタルハ錯誤ニ出タルモノトシ同三十三年一月九日右却下處分ヲ取消シタルハ違法ト云フヲ得ス而シテ取消處分ノ效力ハ特別ノ場合ヲ除ク外既往ニ溯及シ恰モ取消サレタル處分ナカリシト同一ノ效力ヲ生スヘキモノトス本件ニ於テハ鈴木忠次ハ明治三十二年九月十六日ヲ以テ試掘ヲ出願シ原告ハ同年十二月二日及六日ヲ以テ出願シタルモノナレハ原告ハ後願者ナルコトハ明カナリ唯原告ハ鈴木忠次ノ出願却下ノ後ニ於テ出願シタルモノ右却下處分カ其後三十三年一月九日ニ於テ取消サレタル上ハ却下處分ナカリシモノト同一ノ效果ヲ生スヘキモノナルニ依リ原告ハ忠次ノ相續人鈴木リウニ對シ先願者ナリト云フヲ得ス然レハ被告カ鈴木リウヲ先願者ト認メ試掘ヲ認可シタルハ不當ノ處

分ニアラス

○行政廳ハ處分ノ錯誤ヲ發見シタル場合ニ於テハ何時タリトモ之ヲ取消スコトヲ得而シテ其取消處分ハ特別ノ場合ヲ除クノ外既往ニ溯リ效力ヲ生スヘキモノトス（不當處分取消ノ訴 明治三十五年第二百三十一號
明治三十五年十二月三日宣告）

〔理由〕原告ハ武部鹿助ノ特許出願ハ適法ノ理由ト形式トヲ具備シタル行政處分ニ依リ無効ニ歸シタルモノナレハ假令該行政處分ノ内容ニ果シテ疎漏錯誤ノ廉アリテ之ヲ復活スヘキ理由ノ存在スルモノトスルモ他ニ利害ノ關係者ナキ場合ハ格別本件ノ如キ原告ニ於テ法律上優先權ヲ有シタル者アル場合ハ單一己人ノ間ニ存スル内部ノ事情ニ基ク前處分取消ノ效果ヲシテ第三者ノ既得ノ順位ヲ奪フニ至ラシムル如キ條理ナシト云フト雖行政廳ハ處分ノ錯誤ヲ發見シタル場合ハ何時タリトモ其處分ヲ取消ノ職權ヲ有スルヲ以テ其取消處分ハ特別ノ場合ヲ除クノ外既往ニ溯リ效力ヲ生スヘキモノニシテ恰モ却下處分ノナカリシト同一ニ歸着ス故ニ第三者ニ利害ノ關係ヲ有スルト否トニ依リ分別アリト謂フヲ得ス然レハ本件ニ於テ武部鹿助ハ明治三十年十二月二日ニ出願シ原告ハ明治三十二年五月八日ニ出願シタルモノナレハ原告ハ武部ニ對シ先願者ニアラサルヲ以テ被告カ武部鹿助ヲ先願者ト認メ之ニ採掘特許ヲ與ヘ

タルハ不當ノ處分ニアラス其他雙方ニ於テ辯スル所アルモ以上ノ通り斷定シタル上ハ一々其當否ヲ説明スル必要ナキモノトス

○石油試掘出願ノ一部カ他人ノ試掘認可地ト重複スルカ爲メ願書圖面ノ修正ヲ命セラレタルトキハ該重複部分ノ出願ハ却下處分ヲ受ケタルト同一ノ效果ヲ生ス(試掘認可取消ノ訴 明治三十五年第三百六十號
明治三十六年三月二十七日宣告)

〔理由〕原告ハ係爭鐵區ニ付明治三十三年五月十九日附ヲ以テ提出シタル石油試掘認可ノ出願ハ假令ヒ當時他人ノ試掘地ト一部重複スル所アリトスルモ該出願ハ却下セラレシテ官廳ニ存在スルモノナレハ有效ニ成立スト云フト雖原告ノ出願ハ他人ノ試掘認可地ト一部重複スルヲ以テ被告ニ於テ鐵業條例施行細則第二十三條ニ依リ願書圖面ノ修正ヲ命令シタル以上ハ恰モ其重複部分ノ出願ハ却下セラレタルト同一ノ處分ナルヲ以テ假令該願書カ被告應ニ存在スルモノヲ以テ出願全部カ有效ニ成立スト謂フヲ得ス又原告ハ假リニ被告主張スル如ク重複部分ニ付テハ出願ノ利益ヲ受ケルコト能ハサルモノトスルモ未タ願書圖面ノ修正ヲ爲サ、ル以前ニ於テ其他人ノ認可カ廢業ニ依リ無効トナリタルトキハ之ト同時ニ原告ノ出願ハ全部效カヲ有スト辯スルモ前段ニ於テ説明スル如ク其願書圖面ハ既ニ修正ヲ命セラレ一部排斥處分

ヲ受ケタルモノナレハ其書類ヲ修正シタルト否トニ依リ復活スヘキモノニアラス其他辯スル所アルモ裁判ニ必要ナキヲ以テ説明セス

○一定ノ期間ヲ超エテ試掘ノ延期ヲ許サ、ルコトハ鐵業條例第九條ノ規定スル所ナレハ試掘人ハ其認可期間中更ニ同一地ニ付キ試掘ノ認可ヲ出願スルコトヲ許サス(硫黃鐵試掘認可取消ニ關スル訴 明治三十五年第三百三十四號
明治三十六年十一月二日宣告)

〔理由〕本件所爭ノ要點ハ自己ノ試掘認可地ニ重複シテ試掘ノ認可ヲ出願スルコトヲ得ルモノナルヤ否ヤニ在リ按スルニ他人ノ試掘期間中其試掘地内ニ於テ同一ノ鐵物ニ付試掘ノ出願ヲ爲スコト能ハサルハ事理ノ當然ニシテ鐵業條例施行細則第二十三條カ試掘ノ出願區域ノ一部カ他人ノ試掘地ト重複スルトキハ鐵山監督署長ハ出願人ヲシテ願書及圖面ヲ修正セシムヘキモノト爲シタルヲ以テ見ルモ疑ヲ容レサル所トス故ニ若シ試掘人カ鐵業條例第九條ニ依リ試掘ノ延期ヲ出願スル場合ノ外仍認可期間中更ニ其土地ニ付試掘ノ認可ヲ出願スルコトヲ得ルモノトセハ一タヒ試掘認可ヲ得タル者ハ他人ノ出願スルコト能ハサル時ニ於テ常ニ自己ノ出願ヲ爲シ以テ常ニ他人ヲ排シテ自ラ先願者トナルコトヲ得ヘクシテ試掘人ハ其意ニ隨ヒ無期限ニ試掘權ヲ延長スルコトヲ得ルニ至ルヘシ此ノ如キハ公益ノ必要ニ因リ試掘ノ延期ヲ一

年以内ニ制限シタル鑛業條例第九條ノ精神ト相容レサルモノナリ鑛業條例カ試掘ノ延期ヲ一箇年以内ニ制限シ且ツ競願ノ場合ニ於テハ先願者ニ許可スヘキモノト爲シタルコトニ依リ考フルトキハ同條例ハ試掘人カ認可期間中更ニ其土地ニ付試掘ノ認可ヲ出願スルコトヲ許サ、ルモノト爲サ、ルヘカラス既ニ試掘人ハ認可期間中更ニ同一地ニ付試掘ノ認可ヲ出願スルコト能ハサルモノトセハ其出願シタル時カ認可終了ノ日ニ在リタルト否トニ依リ適用ニ異同ヲ生スヘキモノニアラサルカ故ニ本件被告ノ處分ハ之ヲ取消スヘキモノニアラス

○錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タル者アル場合ニ於テ利害關係人ヨリ所轄鑛山監督署長ニ對シ其認可ノ取消ヲ請求シタルトキハ爾後其鑛業人カ廢業ヲ爲スモ之カ爲メニ訴訟ノ目的物消滅セリト云フヲ得ス(銅鑛試掘認可ニ付先願者タル順位ノ回復ヲ求ムル訴 明治三十六年第四百七十四號
明治三十七年二月二十六日宣旨)

〔理由〕 本訴主要ノ争點ハ第一蔭山鉦公等カ本件銅鑛試掘出願ニ關シ其代人吉見市衛ニ付與シタル代理權ハ如何ナル範圍ナルカ被告カ蔭山鉦公等ノ銅鑛試掘出願ニ對シ認可ヲ與ヘタルハ錯誤ニ由リ之ヲ與ヘタルモノナルカ(第二)被告カ蔭山鉦公等ニ與ヘタル銅鑛試掘認可ハ同人等ノ廢業ニ因リ消滅シ隨テ本件訴訟ノ目的物ハ消滅シタルモノナルカニ在リ按スルニ(第

一) 蔭山鉦公等カ本件試掘出願ニ關シ其代人吉見市衛ニ付與シタル委任狀ハ其文意分明ヲ欠クモノアリト雖モ「銅鑛試掘認可出願ニ付實測圖ニ代印及其他一切ノ件」ト記載アレハ單ニ實測圖ノ提出ノミヲ委任シタルモノト認メ難ク少クトモ其實測圖ヲ提出シ及ヒ之ヲ修正提出スルコトヲ委任シタルモノト認メサルヲ得ス然レハ被告カ右吉見市衛ヨリ提出セル實測圖ヲ不完備ナリトシ明治三十一年七月六日同人ニ對シ當時ノ鑛業條例施行細則第八條ニ依リ圖面修正ノ命令ヲ發シタルハ吉見市衛ノ代理權内ニ屬スルコトヲ命令シタルモノナリ隨テ同人カ其指定期間内ニ修正圖面ヲ提出セサルヨリ明治三十一年九月二十一日同施行細則第三十二條ニ依リ該銅鑛試掘出願無効ノ通知ヲ爲シタルハ相當ノ處分ニシテ蔭山鉦公等ノ試掘出願ハ此時ニ於テ既ニ無効ニ歸シタルモノナリ然ルニ被告ハ其後明治三十四年七月十三日右蔭山鉦公等ノ試掘出願地ト同一地域ニ付キ原告ヨリ銅鑛試掘認可ノ出願ヲ爲シタルニ拘ハラヌ既ニ無効ニ歸シタル蔭山鉦公等ノ試掘出願ヲ先願ナリトシ明治三十五年十一月二十六日之ニ試掘ノ認可ヲ與ヘタルハ錯誤ニ由リ之ヲ與ヘタルモノニシテ鑛業條例第三十三條ニ依リ取消スヘキ不當ノ處分タルヲ免カレサルモノトス(第二)被告ハ本件蔭山鉦公等ニ與ヘタル試掘認可ハ同人等ノ廢業ニ因リ消滅シ隨テ本件訴訟ノ目的物ハ消滅シタルモノナリト云フモ元來本訴ハ

鑛ニ被告カ爲シタル行政處分ノ當否ヲ爭フモノナレハ蔭山鉦公等カ試掘ヲ廢業シタリトテ訴
訟ノ目的物消滅シタリト云フヘカラサルヲ以テ被告ノ抗辯ハ理由ナキモノトス其他原被陳述
スル所アルモ本件判決ニ必要ナラサルヲ以テ説明ヲ與ヘス

○鑛業條例第三十四條第二項ノ規定ハ其前項ノ前段ナル農商務大臣自ラ詐欺錯
誤ヲ發見シテ採掘特許ヲ取消シタル場合竝ニ後段ナル利害關係者ノ訴願ニ因
リ之ヲ取消シタル場合及ヒ其訴願ヲ採用セサル場合共ニ出訴ヲ許シタルモノ
トス(不當處分取消ノ訴 明治三十六年第四百六十五號
明治三十七年四月十一日宣告)

○他人ノ試掘年限中其試掘地ノ一部ト重複シテ試掘ノ出願ヲ爲シタルトキハ不
適法ニシテ無効ノモノナレハ爾後該年限經過シ權利消滅スルモ尙ホ其出願ハ
無効タルコトヲ免カレス(同上)

〔理由〕 鑛業條例第三十四條第二項ニ前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其裁定ヲ受ケタ
ル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得トアレハ其前項ノ前段ナル農商務大臣
自ラ詐欺錯誤ヲ發見シテ採掘特許ヲ取消シタル場合竝ニ後段ナル利害關係者ノ訴願ニヨリ之
ヲ取消シタル場合及ヒ其訴願ヲ採用セサル場合共ニ出訴ヲ許シタルモノト解釋スヘク單ニ其

後段ナル利害關係者ノ訴願ヲ採用セサル場合ニ限り出訴ヲ許シタルモノト解釋スルヲ得ス然
レハ被告カ本訴農商務大臣自ラ錯誤ヲ發見シテ採掘特許ヲ取消シタル場合ニ於テ原告ニ出訴
ノ權ナシト抗辯スルハ其當ヲ得スト雖モ他人試掘ノ年限中其試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付
試掘ノ出願ヲ爲スヘカラサルコトハ鑛業條例第二十二條ニ於テ他人試掘ノ年限中ハ其試掘地
内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スヲ得サルコトヲ規定シ尙ホ同條例施行細則第二
十三條ニ於テ試掘ノ出願區域ノ一部カ他人ノ試掘地ト重複スルトキハ鑛山監督署長ハ出願人
ヲシテ願書及圖面ヲ修正セシムヘシト規定セルニ依リ分明ナリトス然レハ本訴原告カ西村菜
藏ノ試掘年限中其試掘地ノ一部ト重複シテ試掘ノ出願ヲ爲シタルハ不適法ノ出願ニシテ無効
ノモノナレハ其後西村菜藏ノ試掘年限經過シ其權利消滅スルモ其出願ハ仍ホ無効タルヲ免レ
ス隨テ原告カ當時其重複セルコトヲ發見セラレスシテ試掘ノ認可ヲ得タルモ其認可ハ鑛業條
例第三十三條ニ所謂錯誤ニ因リ試掘ノ認可ヲ得タルモノニシテ同條ニ依リ取消サルヘキモノ
トス之ニ反シ國吉明信外一名ノ試掘認可ハ西村菜藏ノ試掘年限經過シ其權利消滅後同地域ニ
付適法ニ試掘ヲ出願シ之レカ認可ヲ得タルモノニシテ而シテ原告カ本訴ノ採掘特許ハ右國吉
明信外一名カ試掘ノ認可ヲ得タル後同試掘地ノ一部ト重複シテ採掘ヲ出願シ當時其重複タル

コトヲ發見セラレシテ之カ特許ヲ得タルモノナレハ鐵業條例第三十四條ニ所謂錯誤ニ因リ採掘ノ特許ヲ得タルモノニシテ被告カ同條ニ依リ之ヲ取消シタルハ相當ノ處分ナリトス

○錯誤ニ因リ他人ノ試掘認可地ト一部重複シテ試掘ノ認可ヲ得タル者カ後日採掘特許ヲ出願セル場合ニ其重複部分ヲ除去シ更ニ修正圖ヲ提出スヘキ命令ヲ受ケナカラ之カ提出ヲ爲サ、ル爲メ鐵山監督署長ニ於テ其出願ヲ却下シ他ノ出願者ニ試掘認可ヲ與ヘタルハ相當ナリ(認可取消要求ノ訴 明治三十五年第九十五號 明治三十七年五月九日宣)

〔理由〕 本件ノ所争ヲ斷スル要點ハ明治三十二年五月六日及六月二日ヲ以テ被告カ原告ニ與ヘタル試掘認可ハ錯誤ニ由レルモノニアラサルヤ否ヤニ歸着ス按スルニ該試掘認可ハ明治三十年七月十三日ノ出願ニ對シ與ヘタルモノニシテ其試掘地域カ明治二十九年三月三十日ヲ以テ原田長三郎ニ與ヘタル試掘認可地即チ後日ノ中川一介大島六郎ノ試掘出願地ト其一部重複複シ居ルコトハ被告ノ提出ニ係ル參考證ニ徴シ明カナルノミナラス原告モ亦争ハサル所ナリ左レハ原告ノ試掘認可ハ重複部分ヲ除去セサルモノナルヲ以テ錯誤ニ由レルモノト云ハサルヲ得ス而シテ明治三十一年七月十九日ヲ以テ更ニ原田長三郎ニ與ヘタル試掘認可ハ當然正當

ノモノナルカ故ニ其後即チ明治三十三年五月四日原告ニ於テ提出シタル採掘特許ノ出願ハ右原田長三郎ノ試掘認可地ト重複スル部分ヲ除去セサル可カラサルニ事茲ニ出テサルノミナラス被告ヨリ重複部分ヲ除去シ更ニ修正圖ヲ提出ス可キ命令ヲ受ケナカラ其提出ヲ爲サ、ルモノナレハ被告監督署カ之ヲ却下シ中川一介外一名ノ出願ニ對シ試掘認可ヲ與ヘタルハ相當ナリトス

○鐵業條例第二十四條ハ城堡ノ周圍三百間以内ノ場所ハ城堡ト爲ラサル前採掘特許ヲ得タルト否トヲ論セス絶對ニ採掘上使用するルコトヲ許サ、ル法意ナリ(石炭採掘權取消處分取消ノ訴 明治三十七年第七百六十七號 明治三十八年四月二十八日宣告)

〔理由〕 鐵業條例第二十四條ニ「陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若クハ鐵業上使用スルコトヲ得ストアリテ城堡ノ周圍三百間以内ハ城堡ト爲ラサル前採掘特許ヲ得タルト否ラサルトヲ問ハス絶對ニ採掘ニ使用するルコトヲ得サルモノトス本件原告カ採掘特許ヲ得タル肥前國東彼杵郡佐世村ニ於ケル石炭鐵區ハ佐世保要塞ノ周圍二百五十間以内ニ在ルモノナレハ即チ右第二十四條ノ所謂城堡ノ周圍三百間以内ノ場所ナルヲ以テ原告ハ該場所ニ於テ絶對ニ石炭採掘ヲ爲スヲ得サルモノ

トス然レハ被告農商務大臣カ鑛業條例第十九條ニ依リ該採掘特許ヲ取消シタルハ相當ノ處分ナリトス

○同一判例 石炭鑛採掘權取消處分取消ノ訴 明治三十七年第七百三十六號 明治三十八年五月十二日宣告 同上 明治三十八年第七百三十五號 八年五月十五日宣告

○鑛業條例第二十一條ハ試掘年限中試掘人以外ノ者ニ對シ採掘ヲ許サ、ルノ旨趣ナリトス從テ試掘人カ他人ト共同シテ採掘ヲ出願シタル場合ノ如キハ同條ノ規定ニ違背セルモノト云フヲ得ス(硫黃鑛採掘特許取消請求ノ訴 明治三十八年第六百三十七號 月四日宣告)

○鑛業條例施行細則第十五條ハ採掘ノ新舊出願人ハ其願書ニ連名連印スヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ必スシモ自署ヲ要スルノ趣意ニアラス(同上)

〔理由〕 按スルニ本訴主要ノ爭點ハ試掘人本間光義カ松本謙吉外二名ト共同シテ自己ノ試掘地ニ於テ採掘ヲ出願シタルハ鑛業條例第二十一條ニ違背セル無効ノ出願ナリキ又本間光義外三名ノ採掘特許出願人變更願ハ鑛業條例施行細則第十五條ニ依リ出願人ノ自署ヲ要スルヤニアリ原告ハ本間光義等ノ採掘出願ヲ以テ鑛業條例第二十一條ニ違背セル無効ノモノナリト主張スルモ同條ハ試掘年限中試掘人以外ノ者ニ採掘ヲ許サ、ル趣旨ナルヲ以テ本件試掘人カ他人ト共同シテ採掘ヲ出願シタル場合ノ如キハ該條ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス又鑛業條例施行細則第十五條ニ謂フ所ノ連署連印ハ採掘ノ新舊出願人カ其願書ニ連名連印スヘキコトヲ規定シタルニ止リ必スシモ自署スヘキコトヲ規定シタルニアラサルヲ以テ本件採掘特許出願人變更願ハ假令出願人ノ自署ニ非サルモ之ヲ違法無効ナリト云フヲ得ス以上ノ理由カ

ルヲ以テ被告カ本件本間光義外三名ニ對シ採掘特許ヲ與ヘタルハ不當處分ナリト云フヲ得ス
○甲乙二人カ同一ノ地域ニ付キ前後相次テ爲シタル試掘認可ノ出願ニ對シ鑛山監督署長カ乙者ヲ先願者トシ之ニ試掘ノ認可ヲ與ヘタルハ錯誤ニ因ル違法處分ナリトノ判決理由ヲ以テ其認可ヲ取消シタル場合ニ被告署長ニ於テ該判決ノ旨趣ニ基キ甲者ニ對スル不認可ノ指令ヲ取消シ更ニ試掘認可ヲ與ヘタルハ適法ナリ(銅鑛試掘認可取消ノ訴 明治三十八年第八十七號 明治三十九年十月三十一日宣告)

〔理由〕 按スルニ明治三十六年第四百七十四號ノ行政訴訟ハ其原告タル杉山岩三郎ニ於テ本件銅鑛試掘地ニ對シテハ先願者ナルニ被告署カ後願者タル蔭山鉦公等ニ試掘ヲ認可シタルハ不當ナルハ其認可ノ處分ヲ無効トシ且原告ヲ先願者ト爲スヘシトノ判決ヲ求メタルモノナリ

而シテ當行政裁判所ニ於テハ審理ノ結果蔭山鉦公等ノ試掘出願地ト同一地域ニ付キ杉山岩三郎ヨリ試掘認可ノ出願ヲ爲シタルニ拘ラス既ニ無効ニ歸シタル蔭山鉦公等ノ試掘出願ヲ先願ナリトシ之ニ試掘ノ認可ヲ與ヘタルハ錯誤ニ由リ之ヲ與ヘタルモノナリトノ判決理由ヲ以テ蔭山鉦公等ノ銅鑛試掘認可ヲ取消シタルモノナレハ被告署カ該判決ノ趣旨ニ基キ杉山岩三郎ニ對シテ爲シタル不認可ノ指令ヲ取消シ更ニ同人ニ銅鑛試掘認可ヲ與ヘタルハ適法ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナシ隨テ原告本件ノ請求ハ總テ之ヲ採用シ難キモノトス

○鑛業法第三十九條ハ鑛業其物カ公益ヲ害スル場合ニノミ適用スヘキニアラスシテ鎮守府カ新ニ事業ヲ設計シタル爲メ偶或鑛區カ軍用水道ノ水源地ニ當リ軍備計畫上必要ト認めラル、カ如キ場合ニモ適用アルヘキモノトス從テ此場合ニ主務大臣カ該法條ヲ適用シ探掘權ヲ取消シタルハ相當ナリ(不當處分取消請求ノ訴 明治三十九年第十二號 明治四十年四月十日宣告)

〔理由〕 原告ハ鑛業法第三十九條ハ鑛業カ公益ヲ害スル場合ニ適用ス可キモノニシテ本件ノ如キ佐世保鎮守府カ新ニ事業ヲ設計シ鑛業權ヲ妨害スルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス然ルニ被告カ該法條ニ依リ原告ノ探掘權ヲ取消シタルハ不當ナリト云フモ鑛業法第三十九條

ハ原告主張ノ如キ場合ニ適用スヘキノミナラス尙ホ本件ノ如キ係爭鑛區カ鎮守府軍用水道水源地ニ當リ而シテ其水源地ニ付テハ他ニ適當ノ場所ナク之ヲ以テ軍備計畫上必要ナリト認ムル場合ニ該鑛區ニ於テ鑛業ヲ繼續スルハ即チ公益ヲ害スルモノト認ムヘキヲ以テ該法條ヲ適用シタルハ不當ナリト云フヲ得ス然レハ本件被告ノ處分ハ相當ニシテ之ヲ違法ナリトシテ取消スヘキ限リニ在ラス

○鑛物ノ試掘ニ付キ甲者ハ午前零時一分ニ出願シ乙者ハ同日午前零時ニ出願シタル場合ニ於テ當該行政廳カ兩出願ヲ同一時刻ト爲シ抽籤ヲ行ヒ乙者ヲ優先權者ト定メタルハ失當ナレトモ乙者ニシテ現ニ先願者タル以上ハ之ニ對シ認可ヲ與ヘ甲者ニ許可セザリシハ相當ナリトス(不法處分取消請求ノ訴 明治三十八年第三百七十一號明治三十九年第六十七號 六月二十一日宣告)

〔理由〕 本件銅鑛試掘願ニ付原告ノ出願ハ明治三十七年九月三十日午前零時一分ニシテ競願者タル弓削田フサノ出願ハ同日午前零時ナリシコトハ雙方ノ爭ハサル所ナリ按スルニ郵便局ニ於テ零時何分ト唱フルヨリ之ヲ觀レハ本件ニ所謂零時一分トハ零時ヨリ一分後ヲ指シタルモノト解スヘキノミナラス尙ホ乙第一號證ニ依レハ當該郵便局ハ現ニ此ノ如キ取扱ヲ爲シタ

ル事實明瞭ナルヲ以テ原告ノ出願ハ引削田ヲサノ出願ヨリ一分後ナリシモノト斷定セザルヲ得ス然レハ被告カ右兩出願ヲ同一時刻ト爲シ抽籤ヲ行ヒ優先權者ヲ定メタルハ失當ナリト雖モ前段説明ノ如ク現ニ引削田ヲサカ先願者タル以上ハ之ニ對シ認可ヲ與ヘ原告ニ許可セザリシハ相當ナルヲ以テ本件ノ處分ハ取消スヘキ限リニ在ラス

○舊鑛業條例第十九條ニ所謂探掘ノ事業公益ニ害アルトキトハ鑛業其モノカ公益ニ害アル場合ヲ指稱シ既存ノ鑛業ト後發ノ公益的事業ト相兩立セザル場合ノ如キハ之ニ包含セス(石炭鑛探掘權取消處分取消ノ訴 明治三十七年第七百七十二號
明治四十年七月十日宣告)

〔理由〕原告等カ明治二十九年十一月二十日本訴係爭ノ鑛物探掘權ヲ讓受ケ爾來其經營ヲ實施シ來リタルコト被告カ原告等ノ鑛業ハ公益ニ害アルモノトシ明治三十七年六月六日鑛業條例第十九條ニヨリ之ヲ取消シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナレハ判定スヘキ主要ノ爭點ハ同條ノ解釋如何ニ在リ仍テ按スルニ同條ニ所謂探掘ノ事業公益ニ害アルトキトハ鑛業其モノカ公益ニ害アル場合ヲ謂ヒ鑛業其モノカ公益ニ害アルニアラス既存ノ鑛業ト後發ノ公益的事業トカ兩立セザル場合ノ如キハ之ヲ包含セスト解釋スルヲ以テ相當トス然ルニ本件ノ場合ハ政府カ原告等ノ鑛區地ヲ要塞第一地帶區域内ニ編入シ砲臺ヲ新設スル爲メ原告等ノ鑛業ヲ許

スコト能ハスト云フニ在リテ鑛業其モノハ毫モ公益ヲ害スルニアラサレハ被告カ鑛業條例第十九條ニヨリ原告ノ探掘權特許ヲ取消シタルハ其當ヲ得タルモノト爲スヲ得ス依テ本件被告ノ處分ハ之ヲ取消スヲ相當トス

○鑛業法第三十九條ニ所謂鑛業公益ヲ害ストハ鑛業其モノカ自働的ニ公益ヲ侵害スル場合ヲ指稱シ公益的企業自ラ其侵害原因ヲ成ス場合ハ之ニ包含セス(鑛業權ニ對スル不當處分取消請求ノ訴 明治三十九年第二十一號
明治四十年十月十六日宣告)

〔理由〕按スルニ鑛業法第三十九條ニ所謂鑛業公益ヲ害ストハ鑛業其モノカ自働的ニ公益ヲ侵害スル場合ヲ指シ鑛業カ自働的ニ公益ヲ侵害スルニアラスシテ公益的企業自ラ其侵害原因ヲ成ス場合ヲ包含セスト解釋スルヲ相當トス然ルニ本件ハ佐世保鎮守府カ原告ノ鑛區ヲ軍用水源地ニ選定シ該工事設計上原告ノ鑛業ヲ許スコト能ハスト云フニ在リテ原告ノ鑛業カ自働的ニ公益ヲ侵害シタルニアラス佐世保鎮守府ノ公益的企業自ラ其侵害原因ヲ爲スニ過キザルヲ以テ被告カ鑛業法第三十九條ヲ適用シテ原告ノ鑛業權ヲ取消シタルハ其當ヲ得サルモノトス依テ被告ノ取消處分ハ取消スヘキモノトス

○鑛山監督署長カ試掘願ニ對シ鑛業ノ價值ナク又公益ニ害アリトスル正當ノ理

由ナキニ拘ハラズ不許可處分ヲ爲シタルハ違法ナリ(硫黄及燐鑛試掘願拒否取消請求ノ訴 明治三十八年第三百五十九號第三百六十號 明治四十年十一月二十九日宣告)

〔理由〕原告ハ鑛業法第三十二條ニ依リ鑛業ノ出願ヲ拒否スヘキ場合ハ鑛業ノ價值ナキトキ又ハ鑛業カ公益ヲ害スルトキニ限ルモノナリ本件原告ノ出願シタル鑛業ハ價值ナキモノニアラス又毫モ公益ヲ害スルコトナシ然ルニ被告カ鑛業法第三十二條ヲ適用シ本願ヲ拒否シタルハ違法ニ原告ノ權利ヲ傷害シタルモノナリト主張シ甲第一號乃至五號證ヲ提出シ「被告ハ本件出願區域ニ於テ原告ノ稱シテ燐鑛ト爲スモノハ燐分ノ含有尠ナク其多キモ百分中三、六、二〇四ニ過キサルコトハ乙第五號證ニ依リ明カナリ又其地質タルヤ火山岩ヨリ成立セルモノニシテ燐分ヲ吸收スルノ力ナケレハ土地ノ下層ニ於テ多量ニ燐分ノ存在スヘキノ理ナキヲ以テ鑛業ノ價值アルモノト認め難ク且出願地ハ本島唯一ノ産業タル捕鳥ノ場所ナルヲ以テ東京府知事意見ノ如ク鑛業ノ開始ハ其産業ノ廢罷トナリ公益ヲ害スルモノト認め不許可ノ處分ヲ爲シタル次第ニシテ違法ニアラスト答辯シ乙第一號乃至六號證ヲ提出セリ按スルニ本件主要ノ證據タル甲第二號證及乙第三號證ノ分析報告書ニハ孰レモ燐鑛ノ產地鳥島ト記載アルモ果シテ鳥島ノ燐鑛ナルヤ否ヤ知ルニ由ナク假リニ鳥島ノ燐鑛ナリトスルモ出願地内ノ如何ナル場

所又如何ナル地層ニ於テ採取シタルモノナルヤ是亦不明ナルノミナラス該分析表ニ依レハ其鑛物ハ或ル一ノ場所及地層ニ於テ採取シタルモノト認ムヘケレハ之ヲ以テ出願鑛區ノ全體ニ對シ判斷ヲ下スヘキ材料ト爲スニ足ラス故ニ甲第二號證及乙第五號證ハ共ニ本件ノ證據トシテ採用スルヲ得ス尙ホ被告ハ出願地ノ地質ニ付論スル所アルモ口頭ノ陳述ニ止マリ其立證ナキヲ以テ之ヲ認ムルニ由ナシ又被告ハ本件出願ノ鑛業開始ハ捕鳥業ノ廢罷トナリ二者相容レルサモノ、如ク論スルモ乙第三號證ノ如キハ東京府知事ノ意見ニ過キスシテ他ニ之ヲ認ムルニ足ルヘキ證據ナキノミナラス鑛業ト捕鳥業トハ自ラ別種ノモノニシテ殊ニ捕鳥業ハ二年中或ル一定ノ時期ニ限り且近年鳥ノ來集著シク減少シ爲メニ捕鳥業モ從前ノ如ク營業サルコトハ雙方ニ爭ヒナキ事實ナルヲ以テ被告ノ主張ハ採用シ難シ尙ホ雙方ニ於テ論争スル所アルモ孰レモ枝葉ニ屬スルモノナレハ逐一説明セス要スルニ本件ハ被告カ原告ノ出願ニ對シ鑛業ノ價值ナク又公益ヲ害スルモノトセル正當ノ理由アルモノト認め難キヲ以テ鑛業法第三十二條ニ依リ爲シタル被告ノ處分ハ其當ヲ得タルモノト爲スヲ得ス

(三) 漁業ニ關スル件

〇區劃專用ノ慣行届出期限内ニ届出サルモノハ慣行ナキモノナリ(區劃專用捕魚

採藻營業免許拒否不當ノ訴 明治二十四年第二十一號
明治二十四年十月二日宣告

〔理由〕 本件所争ノ海面ハ原告カ從來捕魚採藻營業ノ爲メ専用セシ場所ナルヲ以テ被告ハ其慣行ニ從ヒ原告ニ専用ノ許可ヲ與フヘキハ當然ナルニ甲第三十號證ノ訓令ヲ爲シ原告ノ届書ヲ却下シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ原告ハ明治十九年廣島縣布達乙第二十三號ヲ以テ規定シタル慣行届出期限ニ從ヒ届出テサルモノナレハ同布達但書ニ期限内ニ届出テサルモノハ慣行ナキモノト看做ストアルニ依リ其専用ノ慣例ハ成立セサルモノト謂ハサルヲ得ス然ルニ原告ハ該布達ニ營業ヲ爲スモノトアルヲ以テ現營業者ノミニ關スル規定ニシテ原告ノ如キ當時現營業者ニ非サルモノニハ該當セス又原告ハ一旦届書ヲ差出シタルモ戸長ニ於テ之ヲ却下シタリト云フト雖該布達面ニハ現營業者ニ限ルノ明文ナキノミナラス其書式凡例ニ於テ何年頃海面拜借又ハ區劃専用ヲ許サレ其後自ラ廢棄或ハ取消サレ云々ト指定シアルニ依ルモ原告言フ如ク現營業者ニ限ルモノトハ認メ難シ又其慣行届ハ縣知事ニ差出スヘキモノナレハ戸長カ却下シタルモ原告ハ更ニ之ヲ縣知事ニ差出ノ手續ヲ盡シタルコトナクシテ事茲ニ至リタルモノナレハ本訴ニ於テ戸長カ其届書ヲ却下シタルヲ理由トスルヲ得ス故ニ被告カ甲第三十號證ノ如ク訓令ヲ爲シ原告ノ届書ヲ却下シタルハ違法ノ處置ニアラサルモノトス其他雙方ノ陳

辯多岐ニ涉ルモノアリト雖モ必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス

○水産營業人組合ハ漁業區域ヲ認許スルノ權利ナキヲ以テ其組合ニ加入スルモ

一定ノ漁場ニ於ケル營業免許ヲ得タルモノト謂フ可ラス(維建網營業場許可差

拒ノ訴 明治二十四年第十七號
明治二十四年十月二十二日宣告

〔理由〕 原告ハ甲第五號圖面ノ如ク秋味泊手引岩水面ヨリ沖出四百五十間方位子丑ノ方ハ從

來一定ノ漁業場ナリト云フモ其證據ト認ムルモノナク又明治二十年六月水産物營業人組合ニ加入届ヲ爲シタルトキ該届書ニ其區域ヲ記入シ同組ノ承認ヲ經タリト云フモ同組合ハ漁場區域ヲ認許スルノ權利ナキニ依リ其承認ハ單ニ原告ノ加入届ヲ認メタルニ止マルモノトス故ニ被告カ原告ノ漁場ニ對シ第一號證ノ如ク測定區域ノ割渡方ヲ達シタルハ違法ノ處置ニアラ

○法律規則ニ從ヒ其職權ヲ以テ爲シタル縣知事ノ指令ハ違法ニアラス(兒島灣養

貝營業許可請求ノ訴 明治二十四年第十八號
明治二十四年十二月十八日宣告

〔理由〕 原告代理人陳述ノ要點ハ原告等ハ從來ノ養貝營業者ナルヲ以テ甲第五號證ノ如ク養貝地ノ拜借ヲ再願シタルニ被告ハ尙ホ多分ノ空地アルニモ拘ラス同業者ノ組合ニ加入スレハ

之ヲ許シ否ラサレハ之ヲ許サスト云フハ不當ナリト云フニ在レトモ本件被告ノ處分タル甲第六號證ノ指令ノ如キハ法律規則ノ範圍内ニ於テ其職權ヲ以テ爲シタル者ニシテ其處分ハ違法ノ處分ナリト云フヲ得ス假令ヒ原告言フ如ク果シテ尙ホ海面空地ノ場所アリトスルモ又同業者ノ組合ニアラサレハ借區營業ヲ許可セサルモ之ヲ以テ被告ノ指令ヲ取消ス可キ理由ト爲スヲ得ス

○水産物取締規則第六條ニ隣接漁業者謂ハレナク故障ヲ唱フルトキハ其理由ヲ副申シテ願書ヲ進達スルコトヲ得トアルヲ理由トシ隣接漁業人ノ連署ナキ漁業願ヲ拒否シタル處分ヲ不當ナリト謂フヲ得ス(不當處分取消ノ訴 明治二十五年第一月二十四日宣告)

○建網漁業ハ水産物取締規則ニ依レハ無期限ナルモ同漁業ニ對シ一旦有期免許ヲ得タル者ハ其期間限り漁業權ヲ有スヘキモノトス(同上)

○有期ノ建網漁業免許ヲ得タル者ハ其期間滿了ニ至レハ更ニ其免許ヲ受クルノ手續ヲ盡スヘキモノトス(同上)

〔理由〕 原告カ本件被告ノ處分ヲ不當トスル理由ノ要點ハ被告カ原告ノ建網漁業願書ニ隣

接漁業人中木崎源右衛門ノ連署ナキヲ以テ許可ヲ爲サルハ明治二十一年北海道廳令第十八號水産物取締規則第六條ノ旨ニ違フモノナリ而シテ被告ハ源右衛門カ連署ヲ拒ミタルハ妨害アルカ爲ナリト述レトモ其實然ルニアラス又原告出願ノ漁業ハ水産物取締規則第十三條無期限許可ノ漁業ニ對スルモノニシテ原告ハ曩ニ二箇年間ノ許可ヲ得タル漁業滿期前ニ於テ其繼續願ヲ爲シタルニ被告カ之ヲ拒否シタルハ不當ナリト云フニ在リト雖モ水産物取締規則第六條中隣接漁業者謂ハレナク故障ヲ唱フル時ハ其理由ヲ副申シテ願書ヲ進達スルコトヲ得トアルハ出願者ニ便益ヲ與ヘタルマテニシテ其連署ヲ缺キタル場合ニ於ケル處分ノ方法ハ該規則ノ規定スル所ニアラサレハ同規則ニ依リ之レカ當否ヲ論スルヲ得ス又建網漁業ハ水産物取締規則第十三條無期限ノ部ニ屬スト雖漁業免許ニ有期無期ヲ分チタルハ許可ノ限度ヲ示シタルモノニシテ漁業人ノ都合ニ依リ限度以内ニ期限ヲ設ケ漁業免許ヲ受ケタルモノハ其期間限り漁業權ヲ有スルモノタルハ固ヨリナレハ原告ノ如キ有限免許ヲ受ケタルモノニシテ其期限滿了スルトキハ更ニ免許ヲ受クヘキコト新ニ漁業免許ヲ受クルモノト異ナルナキヲ以テ原告ハ無限ノ漁業權ヲ有スルモノト主張スルヲ得ス故ニ被告カ原告ニ與ヘタル指令ハ處分ノ當ヲ失フモノニアラス

○甲村民ノ捕介採藻營業免許ヲ取消シ更ニ該營業ヲ爲スノ慣行ナキ乙村民ニ其營業ヲ免許シタルハ不當ノ處分タルヲ免レス(採藻捕介營業區域免許不當處分取消ノ訴 明治二十五年第五十七號 明治二十六年十月二十七日宣告)

〔理由〕 被告ニ於テ本件ハ明治十七年ノ處分ニ基キタル訴願ノ裁決ニ依リテ處分シタルナリ其十七年ノ處分ハ原告カ行政裁判所法規定ノ出訴期限内ニ出訴ヲ爲サ、ルヲ以テ既ニ確定シタルモノナリト云フト雖モ採藻免許ニ關シテハ明治二十一年九月原告カ提出シタル採藻願書ヲ被告ニ於テ之レヲ受理シ數年間調査ヲ盡シタル上其願ヲ拒否セシヨリ原告ニ於テ訴願ノ末本訴ヲ提起シタルモノナリ又捕介業ハ八木人民ノ訴願ニ對シ岩手縣知事カ裁決ヲ以テ罷ニ原告ニ與ヘタル免許ヲ取消シタルヲ被告ニ於テ執行シタルカ爲メ本訴ヲ提起スルニ至リタルモノナレハ岩手縣知事ノ裁決カ十七年ノ處分ヲ是認シタルト否トニ拘ラス新ニ處分ヲ經タルモノニシテ未タ處分ノ確定シタルト云フヘカラス而シテ本件被告カ捕介採藻營業免許ヲ參加人八木ニ與ヘタル理由ノ要領ハ論争區域ニ關シ原告宿戶ニハ營業ヲ爲シタル慣行ノ認ムヘキナクシテ八木ハ宿戶ニ比シ從來漁業採藻税金及收穫ノ多額ナルト論所カ宿戶陸地ノ境域ニ伴ハス八木ノ所屬内ニ在ル等ヲ以テ八木ニ慣例アルヲ認定シタルト云フモノナレトモ漁業採藻税

及收穫ノ多寡ハ以テ營業場境界ノ何レニ在ルヲ判スルニ足ラス又被告カ營業場境界ト定メタル大島ト中ノ島トノ中間ハ直チニ八木宿戶兩字ノ陸地境界ニ相當スルモノアラサルニ依リ論所カ八木ノ所屬内ニ在ルモノト謂フ可ラス且八木カ明治十六年十二月岩手縣令ニ提出シタル採藻願ヲ閱スレハ其但書ニ第三地割ハ宿戶ニ協同採藻スル慣例有之候得ハ云々之ニ入會採藻スルモ拒ミ候等ハ決シテ仕間敷トアリ又原告第十二號證明治二十一年十一月被告ノ尋問ニ對シ八木カ論所ヲ以テ入會採藻ニ相違ナシト答ヘタルコトアルヲ視ルニ從來論所ニ於ケル營業權ハ八木ニ於テ專有シタルモノト認ムルヲ得サルノミナラス捕介採藻業ハ種市村各字ニ於テ何レモ入會採藻ヲ爲シタルコトナシトハ本訴ノ審問ニ對シ原告宿戶及參加人八木ノ答フル所ナレハ八木宿戶兩字人民カ入會採藻ヲ爲シタル慣例ナキコトモ亦知ルヘキニ依リ被告カ論所ヲ以テ八木ノ營業場ト定メタルハ一モ慣例ノ據ル所ナキモノトス而シテ實地ヲ檢スルニ論所大島等ハ被告カ原告宿戶ノ營業場ト認メタル大濱地先キ中ノ島北ノ島等ト密接聯繫シ其論所中ノ南方ナル末尾ノ僅少部分ハ八木ノ陸地先キナル海面ニ連及スルアルモ論所其他一簇ノ岩礁ハ宿戶海岸ニ沿フテ存スルノミナラス被告ノ異議ナキ宿戶ニ屬スル中ノ島北ノ島ナル名稱ヨリシテ之ヲ推スモ原告ノ所謂相ノ間分ケ南ノ岬ナル營業場ハ確然タル慣例ノ存在スルモノアルニ

アラスンハ以北僅ニ八木ノ地先キニ係屬スルノ故ヲ以テ宿戸ニ屬スルモノト認ムヘクシテ之
カ分割ヲ爲シ難シ然ルニ被告ハ原告ノ願ヲ拒否シ認ムヘキ慣例ナキノ八木ニ向テ之ヲ分割シ
更ニ境界ヲ設ケテ營業ヲ免許シタルハ處分ノ當ヲ得タルモノニアラス

○一旦許可シタル漁業免許ヲ取消シ又ハ其位置變更等ヲ命ヌルニハ其漁業カ公
益ニ害アリト認ムヘキ相當ノ事實アルヲ要ス(鯨建網營業免許ノ取消變更ニ關
スル違法命令取消ノ訴 明治二十六年第四百二十六號
明治二十七年四月二十七日宣告)

○漁業者各自ノ收利上ヨリ互ニ投網ノ位置ヲ爭フヲ以テ公益ニ害ヲ與ヘタルモ
ノト謂フ可ラス(同上)

〔理由〕 被告ニ於テ公益視察ハ無形中ニ存シ苟モ妨害アリト視察シ必要ヲ認メハ被告ハ之レ
ヲ黙々ニ付スル能ハス法律ノ許ス限リ宜シク處置セサル可カラサルノ責任ヲ有シ之レヲ實施
スルハ職分上爲ス所ノ權能ナリト云ヒ又曩キニ山縣中谷ノ兩人ニ許可シタル建網場ハ釧路地
方鯨漁業上ノ公益ニ妨害ヲ與ヘタルモノナレハ北海道水産物取締規則ヲ適用シ處分シタルモ
ノナルユエ違法處分ノ爲メ原告ノ權利ヲ毀損シタル事實ナシト云フト雖モ本件原告ノ鯨建網
漁業ヲ既ニ許可シタル後之レカ位置變更等ヲ命ヌルニハ公益ヲ妨害スト認ム可キ相當ノ事實

無カル可カラス而シテ被告ニ於テ其ノ妨害ヲ與ヘタリト爲スコトハ漁業者各自ノ收利上ヨ
リ互ニ投網ノ位置ヲ爭フニ過キサレハ之レヲ以テ公益ニ妨害ヲ與ヘタルモノト謂フ可カラ
ス 依テ被告カ北海道水産物取締規則第十三條ヲ適用シ原告ニ對シテ爲シタル命令ハ失當ナリト

○漁業免許ヲ拒否シタル處分ヲ不當ナリト主張スルニハ單ニ其處分不穩當ナリ
ト云フニ止マラス進テ法律規則ニ違背スルコトヲ證明セサルヘカラス(營業免
許不當處分取消ノ訴 明治二十七年第十五號
明治二十七年六月七日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ被告ハ明治二十年十二月十五日附願書ニ對シ許否ノ指令ヲ爲サスシテ同
二十二年九月二日附ノ願書ニ對シ處分ヲナシタル爲メ原告ヲシテ後願者トナラシメタルハ不
當ナリ又縱令先願者アリタリトスルモ本件漁場ニ巨額ノ資本ヲ投シタルノ緣故ヲ以テ原告ニ
免許ヲ與フヘキハ當然ナルニ被告ノ處分玆ニ出テサルハ不當ナリト云フト雖原告ハ單ニ本件
處分ノ穩當ナラサルコトヲ主張スルニ止マリテ其處分ノ明治二十一年北海道廳令第十八號水
産物取締規則ノ條項ニ違背スルコトヲ證明セサルノミナラス之ヲ其他ノ法令ニ照ラスモ違法
ノ處分ナルコトヲ認ムルヲ得ス故ニ被告カ本件漁業免許ヲ拒否シタル處分ハ不當ナリト謂フ

ヲ得ス

○人民ノ既得權ヲ毀損セサル行政廳ノ指令又ハ縣達ハ行政裁判上取消スヘキモノニアラス(縣達及指令取消請求ノ訴 明治二十六年第四十七號 明治二十八年二月二十七日宣告)

〔理由〕 被告ニ於テ大瀬廣會根ノ兩瀬ハ加世田村民川畑清兵衛外二百五十五名カ當該官廳ノ聽許ヲ得タル専用ノ漁場ナリシコトハ事實上爭フ可カラス同村民ハ舊鹿兒島藩制ニ從ヒ該兩瀬ニ於ケル漁業ノ特權ヲ與ヘラレ其權利ヲ實行シ義務ヲ負擔シ明治七年四月ニ至リ古來ノ慣例ニ基キ其區域ヲ明確ニシ更ニ官廳ノ聽許ヲ得テ漁業ヲ繼續セシモノナリ鯽漁業ハ他ノ漁業ト大ニ其趣ヲ異ニシ數年間數萬ノ金額ヲ消費セサレハ其目的ヲ達シ難シ故ニ古來ヨリ加世田村民ハ資金ヲ募集シ組合ヲ設ケ明治十九年本縣漁業組合準則ニ依リ組合規約ノ認可ヲ願出タルニ因リ之ニ認可ヲ與タリト云フト雖被告及被告從參加人ノ舉證中明治十五年以前ニ在ル者ハ特定ノ鯽漁業ニ關スル者ニシテ舊鹿兒島藩ノ特許モ亦之ニ外ナラサレハ加世田村民ハ舊來大瀬廣會根ニ於テ特ニ鯽漁業ヲ爲シ來リタルノ慣行アル者ナリト認ムルニ足ル證左ナキモノトス而シテ原告ハ阿多郡田布施村字新川沖合ニ在ル大瀬廣會根ノ兩瀬ハ嘉永六年三月ノ裁決ヲ以テ我漁業權ヲ縮少セラレ加世田村トノ入會漁場ト爲リ爾來漁業ヲ繼續シタルハ甲第三號

證ノ如ク被告ニ於テモ明治二十一年鯽釣漁業ノ出願ニ對シ原告等三名ハ慣行アル者ナルヲ以テ本廳ヘ出願ニ及ハスト云ヒ且其理由ヲモ説明シタルコトアル次第ナルニ明治二十六年一月ニ至リ達ニ第五號ヲ以テ爲シタル縣達ハ既得ノ漁業權ヲ拒否シ尙該兩瀬ハ加世田村専用漁場ノ如ク見做シ川畑清兵衛等ノ鯽漁業組合ノ出願ニ認可ヲ與ヘタルハ不當ナル旨主張スト雖甲第二號證嘉永六年ノ裁決ニ記載スル漁場ハ今瀬外三箇瀬トアリテ外三箇瀬ハ何所ニ適當スルヤヲ判別スルニ由ナク且其要旨ニ至リテモ加世田田布施兩村ニ漁場ノ良否ニ從ヒ相互隔日ニ其良所ニ乘入レ漁業ヲ爲ス可ク又鯽網ノ敷入ヲ爲ス可カラサルコトヲ命示シタルニ過キサレハ之ヲ以テ直チニ大瀬廣會根ニ於ケル鯽漁業ノ入會ヲ認許シタルモノナリトハ認メ難ク又甲第三號證明治十三年ニ係ル其一中村三太郎ノ鑑札願ハ新規鯖釣營業ニシテ其漁場ハ字新川字伊作諸々ト記シ其二平助ノ鑑札願ハ新規鯖釣營業ニシテ其漁場ハ字新川字伊作諸々ト記シ津島吉左衛門外六名ノ鑑札願ハ釣漁業新規營業ニシテ其漁場ハ字松山うん字新瀬字大瀬戸並小瀬戸沖合諸所ト記シ其諸所ナルモノハ共ニ一定ノ名稱アル場所ヲ指示シタルモノト認難ク且新規營業云々ニ依レハ舊來慣行アリシモノニアラサルノミナラス本件ニ關スル大瀬廣會根ニ於ケル慣行ヲ觀ルノ證ト爲スニ足ラス又甲第四號證明治二十一年ノ原告等三名ハ慣行ア

ル者ナル旨ノ指令及甲第六號證同上ノ理由書ハ本件係争ノ達ニ第五號縣達ノ由來スル所ナレハ之ヲ以テ從來慣行アルノ證ト爲スヘキモノニアラス其他舉證中原告カ大瀬廣會根ニ於テ加世田村ト入會シテ鱒漁業ヲ爲スノ慣行ヲ有セシコトヲ認ム可キモノナキヲ以テ其既得權ヲ毀損セラレタリト謂フ可カラス隨テ指令ニ第五一號ニ對シ異議ヲ主張スルコトヲ得ヌ又原告從參加人ハ東加世田村及田布施村沖合ニ在ル大瀬廣會根ノ兩瀬ハ記憶ス可カラサル年代ヨリ加世田布施兩村ニ於テ鱒其他ノ漁業ヲ爲シ來リシヲ一時中止セシモ明治十五年度ヨリ更ニ鱒釣漁業ヲ爲スコト、ナリ兩村各浦々ヨリ出漁スル場所ナルニ被告カ達ニ第五號ヲ以テ原告ハ大瀬廣會根ニ於テ漁業ノ慣行ナキモノト達シ指令ニ第五一號ヲ以テ川畑清兵衛等カ不正ニ締結シタル鱒漁業組合規約ヲ認可シタルハ其結果從參加人等ヲシテ該兩瀬ニ於テ漁業ヲ爲スノ權ヲ失却スルニ至ラシムル不當ノ處分ナリト云フト雖大瀬廣會根ニ於テ加世田田布施兩村カ入會シテ鱒漁業ヲ爲スノ慣行アリト認ム可キ證據ナキハ前ニ述ブルカ如ク尙原告從參加人ハ甲第三號證ノ出願並ニ指令及三箇瀬ニ於テハ慣行ナキモノト心得可キ旨ノ達ニ第五號縣達ニ關係ナク且被告カ指令ニ第五一號ヲ以テ川畑清兵衛外二百五十五名ニ與ヘタル認可ハ鱒漁業組合規約ヲ認可シタルモノニシテ組合ノ人員及其資格等ヲ限定セシモノニアラサルニ因リ之

カ爲メ該兩瀬ニ於テ漁業ヲ爲スノ權ヲ失却スルニ至レリトスルノ因山ナキモノトス故ニ被告答辯ノ一部ハ其當ヲ失スト雖達ニ第五號縣達及指令ニ第五一號指令ハ共ニ原告並ニ原告從參加人ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト認ム可キ事項ナキヲ以テ取消ス可キモノニアラス

○建網漁業ノ免許ハ其場所限リ許可ヲ受ケタルモノナレハ之ヲ廢業スルト同時ニ他ノ場所ニ就キ漁業ノ出願ヲ爲スモ前ノ免許ノ效力ヲシテ之ニ及ホスヲ得ス故ニ該組合規約ニ定ムル建網數ヲ超過セサルノ一事ハ以テ新タニ出願シタル漁業ヲ許可スヘキノ理由アルモノト爲スヲ得ス(鱒漁業絞粕身缺胴鱒製造兼業願ニ對スル不當處分取消請求ノ訴 明治二十七年第七十九號 明治二十八年三月二十日宣旨)

○行政廳ノ處分ニシテ法律命令ニ違反シタリト認ムヘキ點ナキニ於テハ之ヲ不當ノ處分ト云フヲ得ス(同上)

〔理由〕 被告カ本件營業願ヲ拒否シタル理由ノ一トシテ原告ノ願ハ增毛郡漁業組合規約第四十八條ニ牴觸スルモノナリ其四十八條ハ建網數ヲ制限シタルニ止マラス建網ノ位置ヲモ制限シタルモノナリト云フト雖組合規約第四十八條ニハ當組合中ニ於テ鱒差網出願ノ數ハ一萬二千七百六十八放ヲ以テ限リトシ鱒鱒建網數ハ明治二十四年四月十五日マテニ出願シタルヲ

以テ限リトシ云々トアリテ一モ位置ノ制限ニ涉ルモノナキニ依リ右第四十八條ハ建網ノ位置ヲモ制限シタリト謂フヲ得ス又原告ニ於テ規約第四十八條ノ定數ヲ超過セサルモノ即チ原告營業願ノ如キ他ノ一方ノ建網ヲ廢シ一方ニ設クルモノハ被告ニ於テ拒否スルヲ得サルモノナリト云フト雖建網漁業ノ免許ハ其場所限リ許可ヲ受ケタルモノナレハ一方ヲ廢スルヲ以テ其免許ノ效力ヲ他ニ及ホスヲ得ス故ニ規約第四十八條ノ定數ニ超過セサルノミヲ以テ許可スヘキノ理由アルモノト爲スヲ得ス而シテ本件營業願ノ處分ハ被告ニ於テ答辯ノ一理由トシテ被告第一號證ノ如ク處分ノ際増毛郡漁業組合頭取ノ意見ヲ問ヒ原告ノ建網位置カ魚道ヲ遮リ他人ノ營業ヲ害スルモノト認メタルヲ以テ許可セザリシナリト申立之ニ對シ原告ハ隣網ノ距離及被告カ許可シタル前例ヲ舉ケテ陳辯スル所アリト雖被告ノ處分ヲ以テ法律命令ニ違反シタリト認ムヘキノ點ナキニ依リ本件被告ノ處分ヲ不當ナリト謂フヲ得ス

○舊藩廳ノ裁定ニヨリテ確定シタル權利ハ之ヲ拋棄シタルカ若クハ舊慣ヲ變更シタルノ事實ナケレハ依然既得ノ權利ヲ保有ス(捕介採藻營業免許一部取消ニ關スル處分取消ノ訴 明治二十七年第五十號
明治二十八年六月十日宣告)

〔理由〕 原告ハ甲第七號證ニ依リ小友村ニハ浮魚ノミ入會ノ權アリト云ヒ甲第八號證根付魚

海草等ハ濱切漁事候様トアルニ依リ捕魚ノ外捕介採藻ハ專ラ原告村ノ漁權ニ屬スト云フト雖甲第七號證ハ原告村當時ノ願書ニ止マレハ其事實ヲ證スルニ足ラス甲第八號證ハ舊藩廳ノ下知書ナルモ甲第九號證及乙第十四號證ノ如ク同一ノ事件ニ付更ニ藩廳ノ裁定ヲ經タルヲ觀レハ甲第八號證ハ確定シタル裁定ト爲スヲ得ス而シテ甲第九號證乙第十四號證ニ依レハ其第二項ニ小漁ノ分入會ニ是又可仕候事但海草カキシウリマリコ岩村ノ分可爲濱切事トアリ然ラハ小漁ナルモノハ甲第七號證原告カ當時主張セル浮魚ノミニ限ルトノ申立ヲ採用セスシテ三種ヲ取除ク外捕介業ヲモ包含セシメタルノ意義ナルヲ知ルヘキノミナラス其但書ハ被告乙第八號證當時小友村ノ申立ヲ認可シテ海草外三種ニ限リ廣田村ノ濱切漁事ト定メタルヲ知ルヘシ又原告ハ甲第三十八號證甲第四十一號證甲第四十三號證等ヲ以テ小友村ニ入會ノ慣例ナキヲ知ルヘシト申立竝ニ原告ノ漁業免許ニ對シ小友村カ曾テ異議ヲ唱ヘサルハ小友村ニ入會漁業ノ慣例ナキヲ視ルニ足レリト云フモ甲第九號證乙第十四號證即藩廳ノ裁定ニ依リテ確定シタル權利ヲ小友村ニ於テ拋棄シタルカ若クハ維新後舊慣ヲ變更シタル事實ヲ證スルモノナキ以上ハ論所ニ對シ小友村ニ入會漁業ノ權利ナシト認ムルヲ得ス故ニ本件ニ對スル被告ノ處分ハ其當ヲ失フモノニアラス

- 漁業ノ免許ニ就テハ先願效ヲ付與スル法則ナシ(漁業免許並ニ漁業拒絶ノ不法處分取消ノ訴 明治二十八年第六十七號 明治二十八年十二月二十八日宣告)
- 追完セシムルコトヲ得ル願書ハ全然無効ニアラス(同上)
- 事務取扱ニ關スル内規ニ違反スル處分ハ必スシモ當事者ノ權利ヲ毀損スルモノニアラス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テハ明治二十六年五月二十六日原告提出ニ係ル内保村字「ノボン」ノ立岩ニ於ケル紅鱒建網漁業願ヲ却下シ同年五月八日谷茂平出願ニ係ル同一漁業願ヲ許可シタル被告ノ處分ハ不法ナリトシ第一谷茂平カ漁業願書ニ添附シテ郡役所ニ差出セシ副願書ハ隣接漁業者タル原告ニ連署ヲ求メタレトモ原告ハ之ニ應セス拒絶ノ理由書ヲモ差出サ、ル旨虛偽ノ陳述ヲ記載セルモノニテ北海道水産物取締規則第六條末段ニ該當セサル無効ノ出願ナリト主張スレトモ元來漁業免許ニ就テハ先願效ヲ付與セル法則ナキヲ以テ先願者ハ必ス免許ヲ得ヘキモノト限ラス行政廳ノ見込ヲ以テ出願ノ前後ニ據ラサルコトアルモ之ヲ以テ直チニ違法ノ處分ナリト謂フヲ得サルノミナラス谷茂平ノ漁業願書ニハ原告ニ連署ヲ求メタレトモ原告之ニ應セス拒絶ノ理由書ヲモ差出サ、ル旨記載セル副願書ヲ添附セルカ故ニ北海道水産物取締規則第六條ノ方式ヲ備ヘ且ツ其受附日附ハ明治二十六年五月八日ナルヲ以テ原告ノ出願ニ先ツ有效ノ願書ナリトス然ルニ原告ハ右副願書記載ノ事項ヲ以テ虛偽ノ陳述ナリト云フト雖モ北海道水産物取締規則第六條ハ行政廳ノ事務取扱ニ關スル規定ニシテ隣接漁業者ニ對シ副申事項ノ反對ヲ證明シ以テ出願ヲ無効タラシムル權利ヲ與ヘタルモノニアラス左レハ被告ニ於テ調査ノ結果谷茂平ノ副申事項ヲ以テ眞實ナリト信認セシ以上ハ有效ナル漁業願書トシテ處分ヲ爲セシハ當然ニシテ原告ハ之ニ對シ容喙スル權利ナキモノトス然ラハ則チ其副申事項ノ果シテ虛偽ナルヤ否ヤ並ニ該爭點ニ關スル原告ノ甲第十號證乃至甲第十四號證ハ茲ニ之ヲ説明スル必要ナキモノトス第二明治二十六年五月附谷茂平ノ漁業願書ハ其手續ヲ誤リタル爲メ一旦却下セラレ其出願タル全ク消滅ニ歸シ當初ヨリ之レ無カリシモノト同然ナリ茂平ハ更ニ同年八月中副願書ヲ差出シ先キニ却下セラレタル漁業願書ヲ追完セントスレトモ是レ新ナル出願ニシテ爲メニ最初出願ノ日時ニ溯リ其ノ效力ヲ保持スルモノニアラスト主張スレトモ甲第四號證並ニ甲第十一號證ノ二等ニ却下ノ文字ヲ使用セル一事ヲ以テ原告ノ主張ヲ證明スルニ足ラサルノミナラス現ニ乙第四號證ニ依レハ隣接漁業者ノ連署ヲ受ケシムル爲メ差戻シタルモノナルコト明瞭ナルヲ以テ茂平カ八月ニ差出セシ願書ハ最初出願ノ日ニ溯リテ其效

カヲ有スルモノトス原告ハ又完全ナル原告ノ願書ヲ差措キ不完全ナル谷茂平ノ出願ニ對シ其不備ヲ訂正セシメタル上許可ヲ與ヘシ被告ノ處置ハ不當ナリト云ヘトモ追完セシムルコトヲ得ル願書ハ全然無效ニアラサルヲ以テ被告カ其不備ヲ補正セシメタル上出願ノ先後ニ依リ處分ヲ爲セシハ洪シテ不當ニアラス第三原告ノ出願セシ場所ハ立岩ヨリ卯ノ方位ニ當ル沖出三百間ニシテ谷茂平ノ出願セシハ同所ヨリ巳午ノ方位ニ當ル沖出三百間ナリ即チ出願ノ方位ヲ異ニセルヲ以テ各其方位ニ付キ先願效ヲ有スルモノナルニ原告ノ出願ヲ却下シ谷茂平ノ出願ヲ許可セシハ不當ナリト主張スレトモ其出願ノ場所ハ同一字名中ニ在リテ互ニ相接近セル個所ナルヲ以テ設令方位ニ於テ多少異ナル所アレトモ是レ亦二者相接近シ相當ノ間隔ヲ有セザルヲ以テ先願者タル谷茂平ニ許可ヲ與フル以上ハ勢ヒ原告ノ出願ヲ却下セサルヲ得ス況ンヤ乙第六號證ノ一ニ依レハ茂平ノ出願セシ方位モ亦原告ト異ナラサルニ於テヤ故ニ原告ノ此點ニ於ケル主張モ亦其理由ナキモノトス第四出願地ト隣接漁網トノ距離ハ五百間以上ヲ隔ツルコトヲ要スルハ漁業組合並ニ被告ノ認ムル所ナリ而シテ谷茂平ノ出願地ハ原告カ明治二十二年中許可ヲ得シ隣接漁網ニ對シ此間隔ナキニモ拘ラス之ヲ許可セシハ即チ原告ノ既得漁業權ヲ毀損シタル不當ノ處分ナリト主張スルトモ五百間以上ノ間隔ヲ要ストノ點ハ畢竟事務取

ニ關スル内規ニ過キササルヲ以テ原告ハ自己ノ權利ヲ毀損セラレタルモノトシテ之ヲ援用スルコトヲ得サルモノトス第五「ウルモベツ」海面ノ地理ハ谷茂平ノ熟知セル所ナルヲ以テ最初出願ニ際シ隣網トノ間隔一里以外ナリト記載シ北海道水產物取締規則第六條但書ニ該當スルモノトセシハ先願書ノ位置ヲ得ンカ爲メ故意ニ出テタルモノナリト主張スレトモ被告カ谷茂平ニ許可ヲ與ヘシハ茂平ノ出願ヲ以テ該則但書ニ該當スルモノトシテ處分ヲ爲シタルモノニアラス即チ相當ノ手續ヲ經テ訂正ヲ爲サシメタルニ依リシモノナルカ故ニ其果シテ故意ニ出テタルモノナルヤ否ヤヲ究ムル必要ナキモノトス其他雙方辯論並ニ立證スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ一々説明ヲ與ヘス

○漁業營業願ハ出願ノ先後ニ拘ラス之ヲ許否スルモ違法ノ處分ニアラス(不當處分取消ノ訴 明治二十九年第四十六號 明治二十九年六月二十五日宣告)

〔理由〕原告ハ漁業營業願ハ先ツ漁業組合事務所ニ差出シ事務所ヨリ戶長役場ニ進達スル慣例ナレハ出願ノ先後ハ願書ヲ事務所ニ差出ス日時ヲ以テ定ムヘキモノナリ而シテ飯田富五郎カ願書ヲ事務所ニ差出シタルハ原告出願ノ翌日ニシテ即チ後願者ナルニ被告カ之ニ許可ヲ與ヘ原告ノ出願ヲ拒否シタルハ違法ノ處分ナリト云フト雖北海道水產物取締規則及其他ノ法令

中漁業營業願ハ出願ノ先後ヲ以テ其許可ヲ定ムヘキ規定ナキニ依リ出願ノ先後ニ拘ラス之ヲ
許可スルコトアルモ其處分ヲ以テ直ニ違法ナリト云フヲ得ス從テ被告カ原告ノ出願ヲ拒否シ
タルハ先願權ヲ侵害シタル違法ノ處分ト云フヲ得サルナリ

○大敷網漁業ヲ營マントスル者ハ管轄官廳ニ出願シテ其許可ヲ受クヘキモノト
ス訓令取消訴願ノ裁決不服ノ訴 明治二十七年第八十一號
明治二十九年七月三日宣告

〔理由〕 原告ハ本訴大敷網撤回ニ關スル被告ノ訓令ハ適法ノ委任ヲ受ケスシテ發シタル越權
ノ處分ナリト云フト雖明治二十二年高知縣令第百二十二號ヲ以テ定メタル郡市長委任條件中
其第二十三項ニ捕魚ノ爲メ魚梁瀬張八重ノ類構造願ノ事トアリ本件大敷網ニ關スル事件ノ如
キモ同項規定ノ委任範圍内ニ包含スルモノト解釋スルヲ適當ナリトス故ニ被告ノ發シタル大
敷網撤回ノ訓令ハ違法ノ行政處分ナリト言フヲ得ス又原告ハ適法ノ委任アリテ被告カ之レヲ
發シタルモノト假定スルモ該訓令ハ舊慣ニ從ヒ從來ノ範圍内ニ於テ捕魚シ來リタル原告等ノ
權利ヲ害シタルモノナリト云フト雖大敷網漁業ノ如キハ一定ノ海面ヲ區畫使用シテ捕魚ヲ爲
スモノナレハ原告ニ於テ該漁業ヲ營マントスルトキハ明治八年太政官布告第百九十五號ニ依
リ管轄官廳ニ願出シテ其許可ヲ得サルヘカラス然ルニ原告ハ甲第七號證周防形樫ノ浦兩部落

契約證第二條ノ如ク各自ノ境界内ニ於テ大敷網ヲ敷設スルモ異議ナキコトヲ確約シ此契約ニ
基キ甲第八號證大敷網布設願寫ノ如ク出願シ其許可ヲ取タリト云フト雖甲第八號證ハ願書ノ
本書ニ非サレハ該證中明治二十三年七月八日附村長代理助役溝淵政亮與書證印ノ上同日進達
濟及ヒ明治二十三年同月二十五日開置ト成ル本紙同綴ト記載シアルモ被告ニ於テ該願書ヲ受
理セス隨テ之レニ對シテ何等ノ指令ヲ與ヘタルコトナシト抗辯スル以上ハ他ニ確證ナキ限リ
ハ甲第八號證ノ如キ願書並ニ許可ノ指令アリタルモノト認ムルヲ得ス又原告ハ甲第四號證乃
至甲第六號證等ヲ以テ原告等ニ海面漁業ノ舊慣アルコトヲ主張スト雖該證ハ本件大敷網漁業
ニ關スル願書指令ナリト認メ難キモノナレハ之レヲ以テ原告ハ大敷網ヲ敷設シ漁業ヲ爲スノ
權利アリトノ證據ト爲スニ足ラス故ニ被告ノ發シタル幟訓令第九一號ハ適法ノ訓令ニシテ之
レヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

○漁業權ハ沿岸人民ノ所有ニ屬スヘキモノニアラス(阿賀早出兩川漁場營業免許
ニ關スル訴 明治二十九年第四十四號
明治二十九年十二月二十八日宣告)

○縣知事ハ人民ノ漁業願ヲ許否スルノ權アリ(同上)

○漁業免許ヲ得タル甲者ニ違法ノ所爲アリトノ事實ヲ同一ノ漁場ニ於ケル漁業

○ 免許ヲ乙者ニ許可スルノ理由ト爲スコトヲ得ス(同上)

○ 同一ノ漁場ニ對シ數名ノ漁業出願者アル場合ニ於テハ必スシモ出願ノ前後ニ依リテ其許否ヲ決定スヘキ法令ナシ(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ第一漁業權ハ明治九年太政官達ニ基キ法律上當然從來ノ慣習アル漁業者ニ屬スヘキモノニシテ知事ノ職權ハ其權利ノ有無ヲ確認スルニ止マルモノナルコトヲ主張スルモ漁業權ハ沿岸人民ノ所有ニ屬スヘキモノニアラス而シテ知事ハ法律規則ニ依リ人民ノ出願ニ對シ免許ヲ與ヘ若シクハ之ヲ拒否スルノ權アルモノトス第二原告ハ被告ノ指令ハ取締規則ニ違背スルモノナリ該規則ニ依レハ漁業ヲ營ム者ニ許可スヘキ筈ナルニ被告カ免許ヲ與ヘタル服部幾七等ハ自ラ營業セスシテ其權利ヲ他人ニ公賣シタルモノナリト云フト雖モ縱令服部幾七等ニ此ノ如キ所爲アリトスルモ其所爲ハ或ハ幾七等ノ得タル免許ニ影響ヲ及ホスコトアルモ之ヲ以テ本件原告ノ出願ニ對シ免許ヲ與フヘキ理由ト爲スヲ得ス第三原告ハ曩ニ漁業ノ免許ヲ得タル後明治二十一年中一旦廢業ヲ願出タレトモ其願タル當分種川ヲ廢シ時期ヲ以テ更ニ出願スルノ意ニシテ被告ハ之ヲ聞届ケタルモノナレハ被告ハ今回ノ出願ニ對シ原告ニ許可ヲ與フヘキ義務アリト云フト雖甲ニ號證ニ依ルモ被告ハ廢業ノ上申ニ對シ「聞届」ノ指令ヲ爲シスルモノニシテ原告將來ノ出願ニ對シ許可ヲ與フルコトヲ約シタルモノニアラス又原告ハ願書ニ休業トアリタルヲ廢業ト改メタルハ總代ノ一人タル宮川藤太郎越權ノ所爲ナリト云フト雖其後總代全體ノ連署ヲ以テ提出シタル乙第四號證ニ依レハ種川廢業云々トアリテ同一ニ之ヲ承認シタルモノナルヲ知ルニ足ル第四原告ハ服部幾七等ノ出願ニ對シ先願者ナルコトヲ主張スルモ本件漁業ノ許否ニ付テハ出願ノ先後ニ依リ決スヘキ法令アラサレハ是亦々被告ノ處分ヲ違法ナリトスルノ理由トスルヲ得サルモノトス

○ 漁業取締規則ニ新規漁業ヲ爲サントスル者ハ關係市町村ノ漁業者總代並組合頭取ノ支障ナキ旨ノ保證ヲ添ヘテ願出ツヘキ旨ノ規定アルニモ拘ハラズ其保證ヲ添ヘズシテ提出シタル漁業願ヲ郡長カ拒否シタルハ不當ニアラス(綱網營業免許拒絕ニ關スル不法處分取消ノ訴 明治三十年第六十八號 明治三十年十二月一日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ本件ハ縣令第五十九號第四條ニ謂フ所ノ慣行ナキ漁業ニ屬スルヲ以テ其近接地タル町村ノ保證ヲ得レハ足ルモノニシテ故ラニ利害ノ關係ナキ他町村ノ保證ヲ求ムルヲ要セスト主張スルト雖モ縣令第五十九號漁業取締規則第四條ハ一般ノ通則ニシテ本件新規漁業免許出願ノ手續ハ同規則第十七條二項ノ規定ニ依ルヘキモノナリ而テ同項ニ新規漁業ヲ

爲サントスル者ハ前項明記ノ外尙其關係市町村ノ漁業者總代並ニ組合頭取ノ支障ナキ旨ノ保證ヲ添ヘ願出ツヘシトアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ其關係漁業者ナルモノハ原告主張ノ如ク單ニ近接地タル沿岸町村ニ限ラスシテ其海面ノ區域内ニ於テ漁業ヲ爲スノ權利アル者ハ悉ク關係漁業者ナリト認メサルヲ得ス又原告ハ新規出願ニ付キ沿岸町村ノ外他市町村ノ保證ヲ要セサルハ縣令第五十九號第九條及縣令第六十號ノ趣意ヲ對照スレハ明白ニシテ縣下一般ノ實例タルハ甲第二號證ノ如キ其一ナリト云フト雖モ縣令第五十九號第九條及縣令第六十號ハ漁業組合ニ關スル規定ニシテ本件ニ關係ナク又甲第二號證ハ他郡内ノ慣例ヲ原告カ問合シタルモノニ止リ本件海面ノ關係者ヲ明示シタルモノニアラサレハ是亦證據ト爲スニ足ラス其他論辯スル所アルモ本件裁判ニ必要ヲ認メサルヲ以テ説明セス

○從來ノ漁權ヲ確認シ且漁業ヲ營ム方法ニ關スル命令ヲ發セラレタシトノ請求ニ對シ知事カ詮議ニ及ヒ難キ旨ノ指令ヲ爲シタルハ營業免許ノ取消ニアラス
〔理由〕 原告ハ本件被告縣知事ノ指令ハ原告カ既得ノ營業權ヲ取消シタルモノナリト云フト雖モ原告ノ出願ハ從來漁權ヲ有スル場所ニ於テ更ニ其權利ヲ確認シ且糾造ヒ順番協定ノ命令

明治三十年十一月十一號
明治三十年十二月十七日宣旨

ヲ請求スルモノニシテ被告ハ之ニ對シテ詮議ニ及ヒ難シトノ指令ヲ爲シタルニ過キサレハ原告カ新ナル請求ヲ許容セサルニ止マリ既得ノ營業權ニ對シ何等ノ處分ヲモ與ヘタルモノニアラサルヲ以テ其營業權ヲ取消タルモノト云フヲ得ス隨テ本件ハ明治二十三年法律第六號ノ三ニ該當セサルモノトス其他原被雙方辯論スル所アルモ裁判ニ必要ナキニ依リ説明ヲ付セス

○北海道水産物取締規則ニ所謂公益トハ國家的の公共ノ利益ノミヲ指シタルニアラスシテ一地方ニ於ケル公衆ノ利益ヲモ包含ス(漁業免許取消ニ付テノ不法處分取消ノ訴) 明治三十年第五十一號
明治三十一年七月五日宣旨

○一旦許可シタル漁業免許ヲ公益ニ害アルモノト認メテ之ヲ取消シタルハ違法ニアラス(同上)

〔理由〕 原告ハ北海道水産物取締規則ニ於テ公益トアルハ國家的の公共ノ利益ヲ指シタルモノニシテ其利益カ公衆全般ニ及フ場合ヲ云フナリ本件魚族ノ蕃殖ヲ妨害スルカ如キハ其利害ノ關係僅ニ原告ト谷五郎松兩人ノ利害ニ限ルモノニシテ公益ヲ害シタルト云フヘカラサル旨ヲ主張スルモ公益トハ國家的の公共ノ利益ノミヲ指スニアラス一地方ニ於ケル公益ヲモ包含スルハ勿論ナリ而シテ原告ノ漁業方法カ魚族ノ蕃殖ヲ妨害スルモノトセハ其利害ノ關係ハ原告主

張ノ如ク僅ニ兩人ノ利害ニ止ラスシテ該地方物産ノ一種ヲ全滅シ又ハ其産額ヲ減殺スルモノ
ニシテ一地方ノ公益ヲ將來永遠ニ妨害スルモノナリ又原告ハ假令公益ノ妨害中ニ魚族蕃殖ノ
妨害ヲ含蓄スルモノトスルモ原告ノ漁業カ魚族ノ蕃殖ヲ妨ケタル事實ナシ所謂濫獲酷漁ト稱
スルハ同業者タル谷五郎松ノ申告ヲ盲信シ愛憎ノ心ヲ以テ之ヲ速斷シタルモノナリト云フト
雖原告カ當初出願ノ際副申書ニ申立タル漁業方法以外ノ漁具ヲ使用シテ業ヲ營ミタルハ事實
ナリ而シテ原告ハ此漁業方法ハ原告ノ見込ヲ開申シタルニ止マリ本件漁業許可ノ條件ニアラ
スト云フト雖許可ノ條件ナルヤ否ハ必要ナキヲ以テ之ヲ説明セサルモ當初ノ漁業方法以外ノ
方法ヲ以テ漁業ヲ爲シタルカ爲メ魚族ノ蕃殖ヲ妨クルニ於テハ公益ヲ妨害シタルモノナリ而
シテ被告ハ右ノ事實及二十八年ニ於テ收穫高ノ俄然百六石餘ニ上リタル等ノ事實ニ徴シ原告
ノ漁業方法ヲ以テ魚族ノ蕃殖ヲ妨害スルモノト認メ取締規則第十三條但書ニ依リ漁業免許ヲ
取消シタルモノナレハ之ヲ違法處分ナリト謂フヲ得ス

○ 訴願ニ對スル裁決ヲ爲スニ當リ何人ノ意見ヲ採テ其材料ニ供スルモ裁決者ノ

自由ニ屬ス(鯨漁業絞船身缺胴鯨製造兼業願ニ關スル訴 明治三十三年第三十三號)

〔理由〕 第一原告ハ被告カ無資格ナル頭取ノ陳述ニ基キ裁決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フト

雖モ何人ノ意見ヲ採用スルモ被告ノ隨意ナレハ無資格者ノ意見ヲ採用シタリトテ其裁決ヲ不
當ナリト謂フヲ得ス第二原告ハ明治二十九年五月二十一日附應指令第一四四九號ヲ見ルニ明
治二十九年五月十二日附甲第二一七號上申鯨差網制限ノ件當分詮議ニ及ヒ難シトアリ然ルニ
郡長カ之ニ拘ハラス許否ヲ決定セシハ該指令ニ違背スルモノナリト云フト雖モ被告第一號證
ヲ見ルニ右上申ハ昔前郡力盡村漁業組合區域内鯨差網制限ノ件ニシテ本訴ニハ關係ナキモノ
ナリ第三原告ハ被告カ現在ノ網數ニ超加スルトキハ漁業上ノ安寧ヲ破リ魚族ノ繁殖ヲ害シ云
々ト主張スルニ拘ハラス明治三十一年四月七日千五百放ノ多數ノ鯨差網ヲ増毛郡漁業組合頭
取松江喜藏ニ許可セシハ偏頗ノ處置ナリト云フト雖モ右ハ其狀況ノ變更シタル爲メ即被告
第二號證明治三十年十一月ノ「鯨建網入會漁業取締規則」ト被告第三號證明治三十年十二月ノ
「鯨其他建網漁業願制限」トニ因リ海面ニ餘地ヲ生シタル爲メ許可セシモノト認ムレハ之ヲ偏
頗ノ處置ナリト謂フヲ得ス其他原被雙方ニ於テ陳述スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ
説明セス

○ 入會稼業ノ慣例ヲ認メ稼業免許ヲ與ヘシハ違法ニアラス(入會捕介營業不當處

分取消ノ訴 明治三十年第三十四號
明治三十一年十月十六日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テハ古來上納金品其他難破船始末費用等ノ負擔ヲ爲シ重茂村地先海岸第一號字川代ヨリ第二十三號字尻高迄ノ區域ニ於テ捕介採藻ノ業ヲ營ミ嘗テ鰈ヶ崎及宮古町民ニ對シテ第十四號ヨリ第二十三號迄ノ入會漁業ヲ許シタル外其他ニ對シテハ更ニ入會ヲ許シタルコト無キニ由リ第一號ヨリ第十四號ハ原告專有ノ區域ナルニモ拘ラス東中北閉伊郡長ニ於テ飯岡村住民ノ願意ヲ容レ兩回ニ第一號ヨリ第八號ノ内字サネタシ迄入會稼業ノ免許ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フト雖モ甲第一號證ハ見取圖ニシテ證據トスルノ價值ナク甲第四號證乃至甲第七號證ハ金品上納等ニ關スル書類ニシテ其ノ成立ハ真正ナリ且ツ其負擔ハ重茂村地先海岸ニ於ケル捕介採藻ノ權利ニ伴フモノナリトスルモ他村住民ノ入會ヲ排除シテ原告專ラ斯ノ權利ヲ有スル證據ト爲スニ足ラス甲第八號證乃至第十號證ハ重茂村地先海岸ノ一部分ニ付鰈ヶ崎及宮古町住民ニ入會ノ承諾ヲ與ヘシ關係書類ニシテ該區域ハ論所ノ區域ト場所ヲ異ニスルカ故ニ該部分ニ於テ偶原告ニ全權アリト見ルコトヲ得可シトスルモ之ヲ以テ他ノ部分ニ於テモ亦爾ラサル可ラスト云フヲ得サルニ付論所カ原告ノ專有稼業場ナリトノ主張ヲ確ムルコトヲ得ヌ甲第十一號證ハ難破船救助始末書類ニシテ漁業權ニ重要ナル關係ヲ有スルモノト認メ難ク甲第十二號證ノ鑑札ハ原告ノ專有權ヲ認メテ與ヘタルモノニアラサレハ是亦原告ノ

主張ヲ證明シ難シ要スルニ論所カ原告ノ專有稼業場ナリトノコトハ一モ證據ノ見ル可キモノ無キヲ以テ東中北閉伊郡長ニ於テ元飯岡村漁民カ論所ニテ入會稼業ヲ爲セシ慣例アルヲ認メ明治二十八年岩手縣令第十五號第六條ニ依リ右漁民ニ稼業免許ヲ與ヘシハ違法ニアラス

○ 追鯨ノ慣行ヲ證明セサルニ因リ之ヲ認メサルハ不當ニアラス(鯨建網漁業ニ關スル訴 明治三十一年第七十三號 明治三十一年十二月十四日宣告)

〔理由〕 本訴ノ要點ハ係争ノ海面ニ於テ從來原告ニ追鯨ノ慣行アリヤ否ヤヲ判斷スルニアリ原告ハ甲號數證ヲ提出シテ慣行ノ事實ヲ證セントスルモ甲第一號證ハ本件漁場指定願書甲第二號證ハ右出願ニ際シ戸長ノ副申書甲第三號乃至甲第八號證ハ磯谷郡漁業組合人中一二ノ者カ明治二十二年同二十三年ニ於テ岩内郡沿岸ニテ漁業ヲ爲シ其納稅手續ニ關スル書類其他提出シタル書證ハ何レモ薄弱ナル間接ノモノニシテ一モ原告主張ノ事實ヲ確認スヘキ證據ト爲スニ足ラス然レハ被告カ本件鯨建網入會漁場指定願ニ對シ追鯨ノ慣行ナキモノトシテ之ヲ却下シタルハ不法ノ處分ナリト云フヲ得ス

○ 新ナル漁業願ニハ關係村ノ保證ヲ要スル場合ニ於テ郡長カ其保證ヲ缺キタルヲ以テ漁業免許ノ取消ヲ爲シタルハ違法ノ處分ニアラス(鯛網營業許可取消ノ

訴 明治三十一年第三百十六號
明治三十二年二月六日宣告

〔理由〕 原告ノ主張ハ阿野鶴足郡ノ沖合鯛漁場タル網代場ト釣漁場トハ往古ヨリ慣行上一定ノ區域ヲ有スルモノナレハ網營業者ト釣營業者カ互ニ入會漁業スル如キハ事實上決シテ有ルヘカラサルノミナラス網營業者ハ網代場ヲ目的トシ釣營業者ハ網代場ヲ除ク外東西ハ勿論南北自在ニ營業スルモノナレハ釣營業カ網營業ニ影響ヲ及ホスノ理ナシト云フニ在レトモ原告主張ノ如キ慣行上ノ區域ハ其舉證中一モ之ヲ認ムヘキモノナク第九號證海圖面等ニ依レハ原告ノ所謂兩漁場ノ區域ハ單ニ釣漁業ニ對スル各網代場ノ區劃ニ該當スルモノト認定セサルヲ得ス然ラハ原告ノ出願ハ網代場以外ノ釣漁場ニ於テ自在ニ網漁業ヲ爲サントスルモノナレハ釣漁業者ノ外尙ホ同業者タル關係村中笠居村ノ保證ヲ要スヘキニ其之ヲ缺キタルハ水産取締規則第四條ニ違背スルヲ以テ被告カ之ヲ理由トシテ既ニ與ヘタル許可ヲ取消シタルハ違法ノ處分ト云フヲ得ス

○ 村受稼業習慣ノ立證不備不法處分取消ノ訴

明治三十一年第八十號
明治三十二年三月二十七日宣告

〔理由〕 原告ハ本件漁業ハ古來村受稼業ノ習慣アルモノナリト主張スルモ其立證スル甲第四號證蝦場永代賣渡證文ハ蝦場賣買ノ證據ニ止マリ村受稼業ノ證據ト爲スニ足ラサルノミナラ

ス寧ロ反對ノ事實即該漁業權ハ或數人ニ於テ之ヲ專有シ村民全體ニ屬セサルヲ認ムヘク甲第五號證川漁鑑札ノ百姓共ハ當時數名ノ瀬主ナル者アリテ漁業權ヲ專有セシヲ以テ村民全體ヲ指シタルモノト認メ難ク甲第六號證村補錢請取證ハ其金額ノ領收ヲ證シタルノミニシテ他ニ何等ノ記載ナキニ依リ如何ナル事情アリテ瀬主ヨリ之ヲ與ヘタルモノカ知ルヘカラサレハ是亦證據ト爲スニ足ラス其他原告ニ於テ立證スル所アルモ證據トシテ採用スヘキモノナシ又原被告トモ尙陳述スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス

○ 請求ノ目的タル漁業免許カ其效力ヲ失シタル時ハ訴訟ノ目的物ハ消滅シタル

モノトス(築漁許可取消要求ノ訴 明治三十一年第三十三號
明治三十二年六月十四日宣告)

〔理由〕 原告ハ本訴ノ築漁ハ被告カ連年免許ノ主意ヲ以テ許可ヲ與ヘタルモノナレハ其居村ノ如キハ平常ニ在リテハ農產物ニ害ヲ被リ一朝大雨アレハ洪水堤防ヲ決潰スルノ虞アルニ依リ該免許ノ取消シヲ求ムト云フニ在リト雖モ乙第二號證明治二十一年滋賀縣令第十六號湖川漁魚採藻泥取締規則ヲ按スルニ其第九條ニ但實際ノ狀況ニ依リ差支ナキ箇所ハ特ニ毎年免許スルコトアルヘシトアリテ其時々利害ヲ詮考シテ許可否スルモノナレハ毎年繼續シテ許可ヲ與フルモノト云フヲ得ス而シテ其第三條ニ前條免許期限ヲ定ムル左ノ如シニ第一類網罟築流

シ簀張網ハ前(自一月至六月)後(自七月至十二月)二期ニ分テ免許スヘシトアリ本件ハ其後期ニ屬スルモノニシテ明治三十一年十月ヨリ同年十二月ニ至ル時期ニ於テ免許ヲ與ヘタルモノニシテ本年一月以後ハ全ク其效力ヲ有セサルニ依リ原告カ取消ヲ請求スル訴訟ノ目的物ハ既ニ消滅シタルモノナルニ付本訴ハ棄却スヘキモノトス

○適法ノ手續ニ山リテ得タル漁業免許ノ取消ヲ命シタルハ違法ノ處分ナリ(漁場不當處分取消ノ訴 明治三十二年第二十二號
明治三十三年七月七日宣告)

〔理由〕 被告ニ於テ本件ノ漁場ニ付テハ小島みん及濱谷小二郎ノ兩名相前後シテ鯨建網ノ漁業ヲ出願セシニ「みん」ノ願書ニハ北海道廳令第四條及第六條ニ於テ必要トスル組合頭取及隣接漁業者ノ連署ナク又最初百五十間ノ距離ニ於テ二統ノ建網ヲ設ケント欲シ後之ヲ一統ニ訂正スル場合ニ於テハ更ニ關係人ノ連署ヲ要スルニ之ヲ爲サハル等適法ノ手續ニ違背セリ之ニ反シ小二郎ノ出願ハ完全ニシテ缺點ナキニモ拘ハラズ宗谷外三郡長ニ於テ小二郎ノ出願ヲ拒否シ「みん」ニ漁業ヲ許可シタルハ錯誤ニ出テタル處分ナリト主張スルモ同廳令第七條中ニ組合頭取等故障ヲ唱フルモ其理由ヲ調査シ連署ノ有無ニ拘ハラズ許可スルコトアルヘシトアレハ關係人カ故障ヲ唱ヘタル場合ニ於テ其理由ヲ副申シタルトキハ連署ナキ願書ニ對シ漁業ヲ

許可スルモ其處分ヲ以テ錯誤ニ出タルモノト謂フヘカラス又願書訂正ノ場合ニ於テ更ニ關係人ノ連署ヲ要スト云フモ廳令中如何ナル條項ニ依リ之ヲ要スルヤヲ知ルニ由ナシ而シテ原告ハ「みん」カ漁業免許ヲ得タル後廢業届ヲ爲スト同時ニ同一場所ニ對シ更ニ漁業ヲ出願シタルモノニシテ原告ノ願書ニ缺點ナキコトハ被告ノ爭ハサル所ナリ然ラハ原告ハ適法ノ出願ニ由リ漁業免許ヲ受ケタルモノナレハ其免許ハ有效ニシテ取消スヘキ理由ナキモノトス

○北海道廳令第八十三號ハ隣接漁場ニ對スル距離ヲ規定シ檜山郡漁業組合申合規約第五十條第八項ハ村界ニ對スル建網建設ノ制限區域ヲ指定シタルモノニシテ兩者相牴觸スルモノニアラス(不當裁決及指令取消ノ訴 明治三十三年第二十二號
明治三十三年九月二十六日宣告)

〔理由〕 本件原告被告カ爭フ所ノ要點ハ北海道廳令第八十三號ノ施行ニ依リ檜山郡漁業組合申合規約第五十條第八項ハ消滅ニ歸シタルヤ否ニ在リ按スルニ現行ノ組合規約中本令ニ牴觸スル條項ハ其施行ノ日ヨリ自然ニ效力ヲ失フヘキハ原告主張ノ如クニシテ被告ニ於テモ爭ハサル所ナリ然レトモ本件ノ爭點ニ關シテハ兩者其制限ノ旨趣ヲ異ニシ廳令ニ在リテハ隣接漁場ニ對スル距離ヲ規定シ組合規約ハ村界ニ對スル建網建設ノ制限區域ヲ指定シタルモノナレ

ハ之ヲ兩立セシムルモ其間ニ牴觸スル所ナキヲ以テ組合規約第五十條第八項ハ尙ホ其效力ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス從テ支廳長ノ指令及被告ノ裁決亦違法ナリト云フヲ得ス

○成規ノ手續ヲ經テ差出シタル漁業願ヲ正當ノ理由ナク拒否シタルハ違法處分ニ由リ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ傷害シタルモノト謂ハサルヘカラス(營業免許ニ係ル不當裁決及處分取消ノ訴 明治三十二年第二百十九號
明治三十三年十二月二十四日宣告)

○魚族ヲ濫獲シテ其蕃殖ヲ妨害ストノ理由ヲ以テ漁業願ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ト謂フヘカラス(同上)

〔理由〕 本件原告被告力爭フ所ノ要旨ハ下ノ三點ニ歸着ス第一點被告ハ漁業願ヲ許否スルハ行政廳ノ職權ニ屬スルモノニシテ其許可ヲ得サレハ漁業權ヲ生スルコトナシ故ニ未タ許可ヲ得サル以前ニ在テハ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリト云フヲ得ス從テ原告ニ訴權ナシト主張スルモ明治二十三年法律第六號ニ於テ營業免許ノ拒否ニ付キ出訴ヲ許シタル以上ハ成規ニ適合スル出願ニ對シ正當ノ理由ナク拒否シタル場合ノ如キハ即チ違法處分ニ由リ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ傷害セラレタルモノナレハ原告ニ訴權ナシト云フヲ得ス第二點被告ハ増網底止スル所ナキノ結果ハ魚族ヲ濫獲シテ蕃殖ヲ妨害スルノ虞アルヲ以テ網數制限ノ必要ヲ

認メ明治二十九年以來一切増網ヲ拒否シタルハ公益保護上必要ノ處分ナリト云フモ魚族蕃殖ノ狀態ニ付専門技術家カ頻リニ研究シテ、アル今日ニ於テハ漁獲ノ多寡ニ依テ容易ニ蕃殖上ノ利害ヲ判斷シ得ヘキモノニアラス若シ被告主張ノ如ク魚族保護上原告ノ出願ヲ拒否スヘキモノトセハ之ト同時ニ漁獲ノ現狀ヲ維持セサルヘカラス然ルニ今後益漁獲ノ増加ヲ計ル爲メ古來慣用ノ行成網ヲ角網ニ改良セントスル結果豊澤ソヨ外二名ニ對シ漁場ノ移轉ヲ許可セサルヘカラス至ルモ尙且漁具ノ改良ヲ遂行シタル實跡ニ徴シテ之ヲ觀ルモ支廳長ノ處分カ公益保護上必要ノ處分ト認ムルヲ得ス第三點被告ハ原告カ建網ヲ出願シタル位置ハ追鯨場トシテ入會漁場ヲ設置セシムルノ豫定地ナリシヲ以テ常設ノ建網ヲ營業セントスル出願ヲ拒否シタルハ公益保護上相當ナリト云フモ厚田郡漁業組合ノ出願ヲ待テ入會漁場ヲ設置シタルノミナラス豊澤ソヨ外二名ノ如キハ許可ヲ待テ入會漁場豫定地ニ其漁場ヲ移轉シタル實跡ニ徴スルモ又豫メ其位置ヲ公示セザリシ所ヨリ觀ルモ被告主張ノ如ク原告ノ出願當時ニ於テ豫メ指定セラレタル入會漁場ト認ムルヲ得ス況ンヤ原告出願ノ場所ニ於テ許可ヲ與フルモ猶ホ入會漁場ニ十分ナル餘地存在スルニ於テハ其出願ヲ拒否シタルヲ以テ公益保護上相當ナリト云フヲ得ス

（同一判例）營業免許ニ係ル不當裁決及處分取消ノ訴 明治三十二年第五百二十五號第二百二十號乃至第二百二十三號 明治三十四年五月二十日宣告

○府縣知事ハ公益上必要ナリト認ムルトキハ流網漁業ノ許可ヲ取消シ之ニ關スル工作物ノ除去ヲ命スルコトヲ得ヘシ（天龍川漁業許可取消ニ關スル不當處分取消請求ノ訴 明治三十三年第五百九十八號 明治三十四年五月二十日宣告）

〔理由〕原告ハ本件流網漁業ハ毫モ流水ノ疏通等ヲ妨ケ諏訪湖沿岸ニ損害ヲ及ボス如キ有害ノモノニ非ス其湖畔耕地ノ浸水ノ如キハ降雨ノ爲メ河川出水ノ結果ニシテ全ク天災ニ原因スルモノナリト主張スルモ本件流網ヲ設置スル諏訪湖ノ吐口字釜口ハ河幅五十間内外平水ニテ二尺三四寸増水ニテ四尺五六寸位ニシテ本件流網設置ノ方法ハ左右兩岸ヨリ河ノ中央迄交互三列ニ設置シ其一系列ニハ臨檢見取圖ノ如キ補網ノ長サ四間餘全體ノ長サ九間餘ナル五六ノ網ヲ并列シ其各列ノ距離僅ニ三十間内外ニ過キサルコトハ乙第一號證平野村長ヨリ諏訪郡役所ヘ提出シタル圖及ヒ檢證調書ニ依リ明ナリ又乙第四號證ニ依レハ列ノ一端ナル河ノ中央ノ杭ヲ始メ各網間ニ杭ヲ樹テ以テ之ヲ支ヘ凡ソ一列ニ付テ長サ四五尺ノ杭六七本ヲ要スルモノニシテ之ヲ雨潦濁流ニ際シテ施行スルモノナレハ水草等ノ漂流シ來リテ網及其支杭ニ掛ルモノ

甚多カルヘキコトハ右臨檢調書ニ參照シテ推知スルヲ得ヘキナリ然シテ諏訪湖ノ地勢ヲ按スルニ之ニ注入スル河川ハ宮川砥川其他數川アリ沿岸ニハ湖南村中洲村其他村落ノ耕地アリテ孰レモ湖水ノ平水面ニ比シ纔カニ一尺内外ノ高サヲ有スルニ過キス而シテ湖水ノ吐口ハ單ニ天龍川釜口ノ一方ノミニシテ殊ニ其吐口即チ本件流網設置ノ場所ハ乙第二號證及臨檢調書ノ如ク頗ル緩勾配ナレハ降雨出水ノ際ニ在リテ一時ニ諸川ヨリ水ヲ注入シ湖水ノ水位ヲ高メ沿岸ノ耕地ヲ浸水スルコトハ免カル可ラサルモノトス斯ノ如キ狀況ナルヲ以テ諏訪湖吐口ノ排水ニ就テハ最モ注意ヲ要シ苟モ排水ヲ妨クルモノハ公益上之ヲ除去シ以テ湖畔耕地ノ被害ヲ除カサル可ラス然シテ本件流網ノ如キハ前段説述ノ如キ數個ノ網ヲ各所ニ設置シ其支杭モ又數十本ヲ要スルモノナレハ自然吐口ノ流勢ヲ弱メ風雨出水ノ際之ヲ設置スルニ於テハ之カ爲メ排水ヲ妨ケ沿岸耕地ニ浸水ノ害ヲ與フル一ノ原因ト爲ルヘキモノト認メサルヲ得ス故ニ本件原告ノ流網漁業ノ許可ヲ取消シ工作物ヲ除去セシムルハ公益上必要ナルニ因リ被告ノ爲シタル處分ハ相當ナリトス

○明治二十一年北海道廳令第十八號北海道水產物取締規則第一條ニハ漁業ト其製造業トハ之ヲ兼スルヘカラサルノ規定ナシ（鱈漁業製造兼業願拒否指令取

消請求ノ訴 明治三十三年第三百六十六號
明治三十四年五月二十八日宣告

○内示訓令及ヒ回答ノ如キハ上級行政廳カ下級行政廳ニ對シ執務ノ方針ヲ示シタルニ過キスシテ法規タルノ效力ナキモノナレハ關係行政廳以外ノ者ヨリ之カ適用ヲ請求スルノ權利ナシ(同上)

〔理由〕原告ニ於テハ漁業ト其製造業トハ必ス之ヲ兼業トシテ出願スヘク從テ山本久右衛門ノ製造業ニ其要件タル乾場ヲ缺ク場合ニ於テハ同人ノ漁業願モ俱ニ之ヲ不成立ト看做シ原告ノ漁業製造兼業願ヲ先願トシテ處分スヘキモノナリト主張シ明治二十二年北海道廳告示第二十二號同年三月十九日附同廳内示明治二十三年三月六日附同廳訓令號外及明治三十年六月五日附同廳内務部ヨリ増毛外五郡役所宛回答ヲ援用スレトモ明治二十一年北海道廳令第十八號北海道水產物取締規則第一條ニハ漁業若ハ水產物ヲ製造セントスル者ハ云々ト規定シ漁業ト其製造業トハ之ヲ兼不サルヘカラサル規定ナク同年同廳告示第二十二號書式ニハ何漁業(製造)(兼業)願トアリテ製造及兼業ナル文字ニ括弧ヲ施シタルヲ以テ見レハ三個ノ書式ヲ併合シテ示シタルモノニテ原告主張ノ利益ニ解スヘカラサルノミナラス却テ漁業ト製造トヲ兼業トセサル出願アルヲ認ムヘク其他内示訓令及回答ノ如キハ上級行政廳カ下級行政廳ニ對シテ

執務ノ方針ヲ示シタルニ過キスシテ法規タルノ效力ナキモノナレハ關係行政廳以外ノ者ヨリ之レカ適用ヲ請求スルノ權利ナシ又原告ハ山本久右衛門ノ願書ニハ同人ノ捺印ナク形式ニ於テ缺クル所アルモノナリト云ヘトモ同人ノ出願ハ代人ヲ以テ爲シタルモノナレハ本人ノ捺印ナキハ當然ニシテ形式ニ於テモ缺クル所ナシ然レハ被告ノ裁決ハ相當ニシテ原告ノ請求ハ理由ナキモノトス

○成規ニ適合スル營業ノ出願ニ對シ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒否シタルハ即チ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ傷害スル違法處分ナリトス(鮭地曳網漁業出願ニ關スル不當處分取消ノ訴 明治三十三年第九十一號
明治三十四年十月二十八日宣告)

〔理由〕第一被告ハ漁業願ヲ許否スルハ行政廳ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ其許可ヲ得ザレハ漁業權ノ生スルコトナシ故ニ未タ許可ヲ得サル以前ニ在テハ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリト云フヲ得ス隨テ原告ニ訴權ナシト主張スルモ明治二十三年法律第六號ニ於テ營業免許ノ拒否ニ付キ出訴ヲ許シタル以上ハ成規ニ適合スル出願ニ對シ正當ノ理由ナク拒否シタル場合ノ如キハ即チ違法處分ニ由リ營業免許ヲ得ヘキ權利ヲ傷害セラレタルモノト云ハサルヲ得ス左レハ原告カ正當ノ理由ナクシテ拒否セラレタリトスル以上ハ訴權ナシト云フヲ

得ス第二原告ハ原告出願ノ海面ニハ差網漁業ノ許可ヲ得タル者ナシ被告カ許可者アリト云フハ字五厘澤ニシテ原告出願ノ場所ト同一ニ非スト云フモ乙第一號證ノ營業個所トアル欄内ニ柳崎村海面トアルヲ以テ看レハ中村鶴松外十二名ノ者ニ差網漁業ヲ許可シタル場所ハ字五厘澤ノミノ一區域ニ非スシテ柳崎村海面一圓ナリト認メサルヲ得ス而シテ原告出願ノ場所即チ字濱中ノ柳崎村海面ノ一部分ナルコトハ原告ノ提出ニ係ル附屬甲第一號證ノ一及四並ニ附屬甲第二號三號及四號證ニ依リ明ナルノミナラス原告ニ於テモ嘗テ爭ハサル所ナルヲ以テ該場所ハ既ニ差網漁業者ノ許可セラレタル者アリテ其海底ノ沙漠ニシテ鯨ノ群來スル場所ナルト否トハ暫ク措キ差網ヲ以テ漁業ヲ營ミ得ル場所ナルコトハ掩テ可ラサル事實ナリト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ該場所ニ於テ地曳網ヲ許可スルトキハ差網及地曳網ハ共ニ流動漁具ナルノミナラス異種類ノ網ナルヲ以テ此兩網間ニ紛雜ヲ生シ殊ニ地曳網ヲ曳揚クルニ際シ差網ヲ捲キ去ル虞アリテ相互間ノ漁業ヲ妨ケ隨テ公共ノ利害ニ關係ヲ及ホスモノナリト認メサルヲ得ス依テ被告カ爲シタル指令ハ之ヲ取消スヘキ理由ナシ其他工藤嘉四郎ニ地曳網ヲ許可シタルトノ事實ハ乙第四號證ノ一乃至三ニ依リ明ナル如ク錯誤ニ出テタルモノト云ハサルヲ得ス

○北海道廳令ヲ以テ定ムル方式ニ違背セル漁業願ヲ却下シタル支廳長ノ處分ハ

正當ナリ(鮭漁業ニ關スル訴 明治三十四年第四百九十七號 明治三十五年二月十七日宣告)

○漁業願書ノ却下處分ニ付キ法定ノ期間ナシ從テ其處分遲延ノ爲メ出願者ニ不利益ヲ醸スコトアルモ之ヲ以テ違法ナリト謂フヲ得ス(同上)

〔理由〕原告ニ於テ北海道廳令ハ漁業ヲ營マント欲スル者ハ廳令ニ基キ出願セヨ許可ヲ與フヘシトノ旨趣ナリ故ニ苟モ人民ニ於テ出願スル以上ハ書類ノ添附ナク又其記載方法カ廳令ニ適合セサルモ行政廳ニ於テ之ヲ許可スルノ義務アリト云フト雖漁業ヲ爲サントスル者ハ廳令第二條ニ基キ成規ノ書式ニ依リ願書ヲ作り第三條ノ戶籍證明書ヲ添附セサルヘカラス然ルニ原告ノ願書ハ其附屬圖面ニ沖出間數及方位ノ記載ナク又總代二名ヲ除クノ外願人ノ戶籍證明書ヲ添附セサルハ廳令ニ適合スル有效ノ願書ナリト謂フヘカラス然ラハ小樽支廳長ニ於テ之ヲ不適法ナリトシテ却下シ又被告ニ於テ其處分ヲ不當ニアラスト裁決シタルハ共ニ違法ニアラス隨テ取消スヘキ理由ナキモノトス尙原告ハ小樽支廳長ニ於テ願書ヲ殆ト一箇年間留メ置キ新規出願ヲ許サ、ルノ廳令公布後ニ於テ之ヲ却下シ爲ニ原告ヲシテ更ニ再願ノ機會ヲ失ハシメタルハ不當ナリ云フト雖漁業願書ノ却下處分ニ付法定ノ期間アラサレハ縱令其處分ノ遅引シタル爲メ原告ノ不利益ヲ醸シタリトスルモ之ヲ違法ナリト謂フヲ得ス

○明治三十四年北海道廳令第一號第一條ニ許可セラルヘキモノトシテ列記シタル漁網ノ中建網地曳網及刺網ニ付テハ同令第二條各號ノ場合又ハ時期ニ於テノミ出願スルコトヲ得ヘキモノトス(鯨角網漁業停止不當處分取消ノ訴 明治三十四年第二百二十八號 五年二月二十八日宣告)

〔理由〕原告ハ明治三十四年北海道廳令第一號第二條ノ規定ハ同令第一條ニ對スル除外例ニシテ即チ第二條ニ依ルトキハ許可セラレサルモノト雖モ第三條各號ノ一ニ該當スル場合ニ在テハ特ニ許可セラル可キコトヲ規定シタルモノナリト云フト雖モ廳令第二條ノ規定ヲ閱スルニ建網地曳網及刺網漁業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限り出願スルコトヲ得トアルニ依レハ第一條ニ許可セラル可キモノトシテ列記シタル漁網中建網地曳網刺網ニ付テハ第二條各號ノ場合又ハ時期ニ於テノミ出願シ得ヘキコトヲ規定シタルモノト解セサルヲ得ス而シテ原告ノ出願カ廳令第二條各號ノ何レニモ該當セサルモノナルコトハ原告ニ於テモ爭ハサル所ナルヲ以テ被告檜山支廳長カ廳令ニ牴觸スルモノナリトシ之ヲ却下シタルハ相當ニシテ違法ノ處分ナリト云フヲ得ス

○明治三十四年北海道廳令鯨保護規則第二條第一號ニ所謂特ニ指定シタル場所トハ同規則第一條ニ指定シタル區域ヲ指シタルモノニアラスシテ第一條ノ漁業地方ニ於テモ特ニ指定シタル場所ニアラサレハ漁業ヲ出願スルコトヲ得サルノ旨趣ナリトス(漁業願ニ對スル不當裁決取消並ニ不當處分取消請求ノ訴 明治三十五年第二百一十一號乃至第二百二十八號 明治三十五年十一月十日宣告)

〔理由〕原告ニ於テ明治三十四年北海道廳令鯨保護規則第二條第一號ニ特ニ指定シタル場所トアルハ廳令第一條ニ指定シタル區域ヲ指シタルモノナリト云フト雖モ第一條ニハ渡島後志石狩云々トアリテ漁網ノ種類ニ依リ許可スヘキ漁業地方ヲ一般ニ指定シタルニ過キス而シテ第二條ニ至リ建網地曳網及刺網漁業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限り出願スルコトヲ得第一特ニ指定シタル場所ニ於テ漁業ヲ爲サントスル者トアルハ第一條ノ漁業地方ニ於テモ特ニ指定シタル場所ニ非サレハ漁業ヲ出願スルコトヲ得サルノ旨趣ナリト解釋セサルヘカラス然ルニ本件原告出願ノ漁業區域ハ石狩國濱益郡ノ沿海ニシテ第一條ノ漁業地方ニ屬スルモ第二條ノ要件タル特ニ指定セラレタル場所ニ非サルヲ以テ被告カ原告ノ要求ヲ排斥シタルハ不當ノ裁決ナリト謂フヲ得ス尙原告ハ假リニ被告ノ解釋ノ如ク原告出願地ハ特ニ指定セラレタル場所ニ非ストスルモ原告出願地ノ如キ特ニ指定セラレサル場所ニ於テ他人カ漁業免許ヲ得

タル事實ニ徴スレハ被告ハ自己ノ解釋ノ誤謬ナルコトヲ事實ノ上ニ自認スルモノニシテ却テ原告ノ解釋ヲ正當ニ實施スルモノナルコトヲ主張スルモ果シテ此ノ如キ事實アリトセハ該漁業免許ハ廳令第一條第二條ニ違反シタル不當處分ナリト謂ハサルヘカラス故ニ原告ハ之ヲ以テ漁業免許ヲ要求スルノ理由ト爲スコトヲ得ス

(同一判例 不當裁決取消ノ訴 明治三十五年第三百二十三號 明治三十六年二月二十三日宣告)

○建網ト建網トノ距離ニ關スル規定ハ建網ト地引網トノ場合ニ適用スヘキモノニアラス(漁業免許取消ノ訴 明治三十五年第四百七十二號 明治三十六年二月九日宣告)

(理由) 明治二十八年嚴手縣令第十五號第十條ニ一、建網類 隣漁網トノ距高千間以上二、地引網類 隣漁網トノ距高六百間以上トアルハ一ハ甲建網ト乙建網トノ距離ニハ甲地引網ト乙地引網トノ距離ヲ規定シタルモノナルコト其文面上明白ナリ然ルニ本件堀田熊次郎外二名ノ漁網ハ建網又原告ノ漁網ハ建網ニシテ本條ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラサレハ假ニ彼此漁場ノ間ニ千間ノ距離ナシトスルモ之ヲ以テ被告カ堀田等ニ與ヘタル許可ヲ違法ナリト謂フヲ得ス

○定置漁業者ノ漁場免許ハ縱令相隣レル所ノ區畫漁業者ニ對シ隣網距離ヲ減縮

スルモ營業ノ區域ヲ減縮シタリト謂フヲ得サルヲ以テ營業免許ノ一部ヲ取消シタルモノニ非ス(漁場區域ニ關スル訴 明治三十五年第四百十七號 明治三十六年二月十六日宣告)

(理由) 原告ハ本件海面東第十八號漁場ニ於テ其第十九號トノ間ニ八十二間又其第十七號トノ間ニ七十五間ノ距離ヲ以テ營業免許ヲ受ケ居リタルニ岩内支廳長カ該十九號トノ距離ヲ七十六間五分ニ又第十七號トノ距離ヲ六十九間ニ減縮シタルハ營業免許ノ一部ヲ取消サレタルモノナリト主張スルモ原告カ免許ヲ受ケタル漁業ハ特定ノ位置ニ網ヲ投シ以テ漁ヲ捕獲スルノ漁業ニシテ所謂定置漁業ナルヲ以テ彼ノ區畫漁業ノ如ク一定ノ區域ヲ設ケ其範圍ヲ占有シテ漁業ヲ爲スモノニ非サレハ假リニ原告主張ノ如キ隣網ノ距離ヲ減縮セラレタル事實アリトスルモ營業ノ區域ヲ減縮シタリト謂フヲ得サレハ營業免許ノ一部ヲ取消シタルモノニ非ス然レハ本訴ハ明治二十三年法律第六號第三ニ所謂營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ニ該當セスト斷定セサルヘカラス

○漁業出願ニシテ法令ノ規定ニ違背スルコトナキモ公益保持ノ必要ヲ認メテ之ヲ拒否スルハ違法ニアラス(鰈漁業願不當處分及不當裁決取消ノ訴 明治三十五年第四百七十八號 明治三十六年四月二十七日宣告)

〔理由〕 原告出願ノ個所タル蠟燭岩ハ乙第三號證實測圖ニ依レハ沿岸ヲ距ル三百三十八間三尺ノ沖合ニ在ルヲ以テ出願ノ如キ方位沖出ヲ以テ施網セハ恰モ蠟燭岩ニ依リ陸地ニ入ルノ關門ヲ設クルノ觀アリ隨テ回遊魚族ハ擧テ網ニ罹リ他ニ分配セラルハナク獨リ其利ヲ壟斷スルノ虞アリ故ニ原告ノ出願ハ法令ノ規定ニ違背スルコトナキモ被告ニ於テ公益保持ノ必要ヲ認め原告ノ出願ヲ拒否シタルハ違法ナリト謂フヲ得ス

○舊來與ヘラレタル漁業免許ト雖モ行政廳ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ其免許ヲ取消シ又ハ漁業區域ヲ減縮セシムルコトヲ得漁業權傷害取消ノ訴
明治三十五年第三百九號
 明治三十六年五月二十七日宣告

〔理由〕 本訴ハ第一海面埋立鹽田開墾事業ナルモノハ公益上必要ナルモノナルヤ否第二舊來漁業免許ハ公益上必要アル場合ニ於テハ行政廳ハ其免許ヲ取消又ハ免許區域ヲ縮少セシムルノ職權アルヤ否ヲ決スルニ在リ第一被告ニ於テ訴外人吉田利助外一名ニ許可シタル海面埋立鹽田開墾事業ハ原告ノ陳述ニ依ルモ反別五十三町四反歩餘ニシテ廣大ナル有益地ヲ得ヘキモノナレハ假令該事業ハ一二私人ノ營利ニ屬スルモノトスルモ殖産上必要ナル土地ヲ築造スルモノナルヲ以テ被告力之ヲ公益上必要ト認メタルハ不當ニアラス第二舊來與ヘラレタル漁業

免許ハ行政廳ニ於テ公益上必要アリト認ムル場合ニ在リテハ其免許ヲ取消又ハ漁業區域ヲ減縮セシメ得ヘキモノナレハ被告ニ於テ吉田利助外一名ノ出願ニ係ル海面埋立鹽田開墾事業ヲ認メ公益上必要トシ許可シタル結果原告ノ漁業場ノ幾部分ヲ縮少セシメタルモ不法ノ處分ト謂フヲ得ス

○漁業免許ノ拒否ニ對シ農商務大臣ニ訴願ヲ爲シタルモ其裁決前之ヲ取下ケタルトキハ該件ニ關シ行政訴訟ヲ提起スルモ行政裁判法第十七條第三項ニ違背スルモノニアラス(定置漁業免許願不認可處分ニ對スル異議ノ訴
明治三十六年五月二十七日宣告

〔理由〕 原告ハ本件漁業免許ノ拒否ニ對シ農商務大臣ニ訴願ヲ爲シタルモ其裁決前右取下願書ヲ差出シタルハ被告モ認ムル所ニシテ既ニ其訴願ヲ取消シタルモノナレハ行政裁判法第十七條第三項ニ違背スルモノニ非ス被告乙第一號證ニ據レハ原告カ本件坪網ヲ定置セントスル場所ハ被告ニ於テ魚族保護ノ爲メ釣其他一切ノ漁獲ヲ禁シタル禁漁區ニ接近スルヲ以テ該漁業ハ水産蕃殖ニ妨害アリト認メサルヲ得ス從テ被告ノ處置ハ不當ナリト謂フヲ得ス尙原告ニ於テ被告ハ適法ノ出願ニ對シテハ之ヲ許可セサルヘカラスト云フト雖被告ハ漁業法施行規則

第八條ニ依リ公益ニ害アリト認ムル漁業ハ之ヲ免許セサルヲ得ルモノナリ

○公益ヲ害スヘキ事實ヲ認定シ漁業ヲ免許セサルハ違法ニアラス(漁業不免許不當處分並不當裁決取消請求ノ訴 明治三十六年第五百十六號
明治三十六年十月二十八日宣旨)

(理由) 原告ニ於テ原告漁業出願ノ箇所タル前漁業者カ從來何等ノ支障ナク漁業ヲ實施シタル事實ニ徴スルモ公益ニ害ナキニ被告カ之ヲ免許セサルハ不當ナリト云フト雖原告出願漁場附近ノ地勢タル實測圖ニ徴シ黃金岬及之ニ對スル寶島トヲ以テ一小灣ヲ爲ス所ナルコト明カナレハ漁船ノ繫留又ハ風波ノ避難ニ便ナル箇所ナルヲ推知スルニ足ル然レハ被告ニ於テ漁場所轄町長ノ上申書ヲ參酌シ本件出願ノ箇所ニ漁業ヲ免許スルハ事實公益ヲ害スルモノト認定シ不免許ノ處分ヲ爲シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

○漁業免許期間指定ノ申請違法許可取消ノ訴 明治三十六年第五百一十一號
明治三十七年十月十日宣旨

(理由) 按スルニ原告提出甲號證中ノ主要ナル第二號證ノ二大敷網鑑札ニハ角島沿海ト記シ網代ノ字名ヲ明記セス第八號證ハ波戸村長兵衛カ明治十二年ヨリ明治二十三年ニ至ルマテ毎年大敷網税金ヲ上納シタルコト第九號證ノ一ハ角島ニ於テ夏大敷網壹川差免サレタルコト第十一號證ハ同四川免許セラレタルコト等ヲ見得ヘキニ止リ共ニ漁業セシ網代ノ記載ナク第九

號證ノ二ハ同壹川角島通り瀬ニ於テ漁業免許ヲ得タル事實ヲ見得ヘキモ各證共本件係争ノ網代字(シケンネ)ニ關スルモノト認メ難ク却テ被告提出ノ乙號證ノ第五號證文化十二亥七月二十七日ノ運上銀受取書ニ(シケンネ)外四箇所ニ於テ島戸浦漁民カ夏大敷網ノ漁業ヲ爲セシ跡アリ第一號證明治十一年福富喜兵衛カ大敷網營業ヲ出願シ許可ヲ得タル書面ニハ字しけ戸瀬ノ記載アルノミナラス第七號證明治十九年十一月四日豊浦郡役所ヨリ山口縣收稅部ニ對スル回答書添付ノ別紙ニ神田下村字島戸浦ハしけ戸瀬網代外四網代ノ使用權ヲ有シ角島ハ笠岩網代使用權ヲ有シ其使用者ハ兩者共入札ヲ以テ定ムル等慣行ノ有様ヲ明瞭ニ記シアルニ由レハ島戸浦カ舊來シケンネ網代ノ關係者ナリシヲ知ルニ足レリ此ニ由テ之ヲ觀レハ原告第二號證ノ二大敷網漁業鑑札ハ他ニ特定ノ場所即チ字(シケンネ)網代ナリシコトヲ參照スヘキ證據ナキ限リハ島戸浦使用字しけ戸瀬外四網代以外ノ角島沿海ニ於テ該業ノ免許ヲ得タルモノト推定スルヲ相當トス依テ原告ノ該鑑札ヲ以テ同證ノ三添附圖ニ字(シケンネ)ト記載シ漁業ノ免許期間ヲ申請シタルヲ被告ニ於テ漁業法第三十三條ニ該當セサルモノトシ申請書ヲ却下シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス其他雙方辯論スル所アルモ裁判ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ付セス

○一定ノ漁場ニ於テ漁業權ヲ有セサルカ爲メ免許期間指定ノ申請ヲ却下セラレタル者ハ同一漁場ニ於テ他人カ受ケタル漁業免許ニ對シ取消ヲ求ムルノ權利ヲ有セス(違法許可取消ノ訴 明治三十六年第四百五十七號
明治三十七年十月十日宣告)

〔理由〕 按スルニ原告ハ當廳明治三十六年第二百五十一號訴訟事件ニ於テ角島村字「シケソネ」網代ニ於テハ漁業權ヲ有セサルニ因リ免許期間指定ノ申請書ヲ却下セラレタルハ違法處分ナリト謂フヲ得ストノ理由ヲ以テ判決ヲ受ケタルモノナリ然レハ本件被告カ明治三十六年六月一日神田下村島戸浦漁業組合ニ與ヘタル定第九十五號ノ免許ニ對シ原告ハ之カ取消ヲ求ムヘキ權利ヲ有セサルモノトス

○明治三十年北海道廳令第八十三號鮭鯉鱒鮠鮪建網漁業願制限第四條ニ準據シテ鮪大謀網漁業ノ免許ヲ得タル者ハ漁場區域トシテ漁具裝置ノ場所ヨリ左右二千間ノ距離ヲ保有シ得ヘキモノトス從テ支廳長カ其漁場ヨリ一千間以内ニ於テ他人ニ鮪大謀網漁業ノ免許ヲ與ヘタルハ不法ナリ(不當裁決取消ノ訴 明治三十六年第五百三十五號
三十七年十月十二日宣告)

〔理由〕 按スルニ明治三十年北海道廳令第八十三號鮭鯉鱒鮠鮪建網漁業願制限第四條ニ鮪建

網漁業ヲ出願シ得ヘキ距離ノ間數ヲ二千間ト規定シアリテ原告ハ該制限ニ照ラシ鮪大謀網漁業ノ免許ヲ得タルモノナレハ左右二千間ノ距離ヲ保有シ得ヘキハ當然ナリ而シテ本件壽都支廳長カ小町佐吉外二名ニ與ヘタル鮪大謀網漁業ノ免許ハ原告ノ權利ヲ侵害スルモノナリトスル訴願ニ對シ被告ハ該廳令第八十三號ノ規定アル所以ヲ考慮セス單ニ鮪大謀網漁業ニ關スル規定ナキヲ以テ壽都支廳長ノ處分ハ不法ニアラストノ理由ヲ以テ裁決ヲ爲シタリ然レトモ鮪大謀網漁業ノ構造ハ殆ト鮪大謀網漁業ト同一ノ構造ナルハ被告ノ認ムル所ナレハ之カ漁業ヲ原告ノ漁場ヨリ一千間以内(原告ハ三百餘間ト云)ニ於テ許可シタルハ原告ノ漁業權利ヲ侵害スルモノト認ムヘキモノナルヲ以テ該裁決ハ其當ヲ得サルモノトス

○漁業免許期間ノ指定(漁業免許取消請求ノ訴 明治三十六年第四百六十九號
明治三十七年十一月十四日宣告)

〔理由〕 本件所争ノ要點ハ係爭海面ニ於ケル漁業免許ハ佃島漁業者全體ニ許可セラレタルモノナリヤ將タ細川源次郎外數名ノ個人ニ許可セラレタルモノナリヤノ一點ニ歸着ス原告ハ佃島漁業者全體ニ許可セラレタルモノナリト云フモ甲第一號證營業願書ニハ出願人トシテ細川源次郎外數名ノ記名捺印アルノミニシテ何等佃島漁業者全體ヲ代表シテ出願シタルモノト認メ得ヘキ形跡ナク甲第二號證許可狀ニハ京橋區佃島漁業者總代細川重右衛門外十一名トアル

モ之ヲ前照甲第一號證營業願書並ニ乙第三號證東京府廳備付ノ臺帳願人氏名ノ欄ニ「細川源次郎外十一名(共同營業)」トアルニ照シ又乙第四號證ニ「該出願者ノ外他ハ皆不同意ニ付云々」トアルニ徴スルトキハ甲第二號證ノ漁業者總代ナル文字ハ被告云フカ如ク誤記タルニ過キス然レハ係争海面ニ於ケル漁業免許ハ佃島漁業者全體ニ許可セラレタルニ非スシテ細川源次郎外數名ノ個人ニ許可セラレタルモノト認ムルヲ相當ナリトス故ニ被告カ細川源次郎外數名ニ對シ與ヘタル免許期間ノ指定ハ其當ヲ得タルモノニシテ原告ノ權利ヲ傷害シタルモノニ非ス

○原告カ漁業免許取消ノ請求ヲ爲シタル場合ニ主務官廳ニ於テ既ニ其許可ヲ取消シ之ヲ公布セル以上ハ訴訟ノ目的ハ消滅ニ歸シタルモノトス(漁業免許取消請求ノ訴 明治三十六年第四百七十一號
明治三十七年十一月十四日宣告)

〔理由〕 本件ニ於テ原告カ取消ヲ求ムル漁業免許ノ許可ハ被告ニ於テ既ニ之ヲ取消シ其旨ヲ公布シタル事實ハ原告ニ於テモ争ハサル所ナルヲ以テ本件ノ目的ハ既ニ消滅ニ歸シタルモノトス

(同一判例 漁業免許取消請求ノ訴 明治三十七年第四百六十六號
明治三十七年十一月十四日宣告)

○漁業免許期間ノ指定漁業免許取消請求ノ訴 明治三十六年第四百七十號

〔理由〕 本件所争ノ要點ハ係争海面ニ於ケル漁業免許ハ佃島漁業者全體ニ許可セラレタルモノナルヲ將タ細川源次郎外數名ノ個人ニ許可セラレタルモノナルヤノ一點ニ歸着ス原告ハ佃島漁業者全體ニ許可セラレタルモノナリト云フモ其事實ヲ證スルニ足ル可キ舉證ヲ爲サハルノミナラス甲第四號證ナル契約書ニ依レハ却テ細川源次郎外數名ノ個人ニ許可セラレタルモノナルコト明カナリト云ハサルヲ得ス左レハ被告カ細川源次郎外數名ニ對シ與ヘタル免許期間ノ指定ハ其當ヲ得タルモノニシテ原告ノ權利ヲ傷害シタルモノニ非ス

○府縣知事ニ對シ漁業權許可及ヒ之ニ附隨スル告示取消ノ訴訟ヲ提起シタル後其漁業權ノ享有者カ權利ヲ拋棄セシトキハ訴訟ノ目的ハ消滅ニ歸シタルモノトス(藤波沖臺網漁業不當告示處分取消ノ訴 明治三十七年第四百九十一號
明治三十七年十二月二十二日宣告)

〔理由〕 原告ノ請求ハ被告石川縣知事ヨリ同縣鳳至郡三波村字藤波沖ニ於テ臺網漁業ノ許可ヲ得テ其業ヲ營ミツ、アリ本年モ亦漁期前ニ於テ繼續許可ノ出願ヲ爲セシニ被告石川縣知事ハ其許可ヲ與フルト同時ニ同一區域内ニ於テ臺網漁業權ヲ訴外人水元源一郎ニ許可シ以テ原告ノ既得權ヲ侵害セシニ由リ水元源一郎ニ與ヘタル不當許可告示處分ノ取消ヲ求ム尙ホ本案

ハ被告カ原告ノ漁業權ヲ侵害セル告示ノ當否ヲ爭フモノナリト云ヒ「被告ハ原告ノ請求ハ素ヨリ理由ナキナリ殊ニ其目的トスル漁業權ハ享受者水元源一郎ノ拋棄ニ依リ消滅シ隨テ訴訟ノ效力ナキモノナリト云フニ在リテ原告ノ目的ハ被告カ水元源一郎ニ與ヘタル漁業權許可及之ニ附隨スル告示ノ取消ヲ請求スルモノナレハ同人ノ漁業權拋棄ニ由リ訴訟ノ目的物ハ消滅セシモノナリ隨テ該告示ノ當否モ亦判決ヲ與フヘキ限リニ在ラス

○漁業者カ從來ノ慣行ニ依リ水面ニ漁具ヲ定置シテ漁業ヲ營ミタルコトヲ主張シ其免許ヲ出願セル場合ニ當該行政廳ニ於テ從來ノ慣行ナシト認ムル以上ハ之ヲ拒否スルモ不法ニアラス(定置漁業免許不許可ノ處分取消ノ訴 明治三十七年五月二十六日宣告)

〔理由〕原告ハ本件水面ニ於テ從來ノ慣行ニ依リ漁具ヲ定置シ漁業ヲ營ミ來レリト主張スルモ其主要ノ證據タル甲第三號證ハ所轄村長カ原告ノ慣行漁業證明願ニ對シ單ニ其慣行ヲ有スル旨ヲ證明シタルニ過キスシテ別ニ根據アル證明ニアラサレハ之ニ依リ該慣行アルモノト認ムルヲ得ス又其甲第四號證水揚帳ハ假リニ真正ノモノナリトスルモ原告等ノ漁獲セシ魚類員數及ヒ代價ヲ記載シタルニ過キスシテ何レノ場所ニ於テ漁獲シタルカ之ヲ知ルニ由ナケレハ

本件水面ニ於テ漁獲セシモノト認ムルヲ得ス其他ノ甲號諸證一モ原告ノ主張ヲ證スルニ足ルモノナキヲ以テ原告ハ本件水面ニ於テ從來ノ慣行ニ依リ漁具ヲ定置シ漁業ヲ營ミ來レルモノト認ムルヲ得ス隨ツテ被告カ本件ノ漁業免許ヲ拒否シタルヲ以テ不法ト爲スヲ得ス又原告ハ被告ニ於テ本件漁業ノ慣行ヲ分明ナラストセハ新規ノ出願トシテ免許ヲ與フヘキモノナリト云フモ行政官廳ハ斯ル場合ニ於テ必スシモ新規出願トシテ免許ヲ與ヘサルヘカラサルモノニアラサルヲ以テ本件漁業免許ノ出願ニシテ從來ノ慣行ナシト認ムル上ハ之レカ免許ヲ拒否スルモ不法ト爲スヲ得ス此他原被論爭スル所アルモ本件判決ニ必要ナラサルヲ以テ説明ヲ與ヘス

○漁業法施行前ニ於テ捕魚採藻ノ爲メ海面ヲ使用セントスル者ハ管轄官廳ニ願出テ其許可ヲ受ケサルヘカラス而シテ其許可書ハ當該官廳ノ例規ニ據リタルモノニアラサレハ之ヲ以テ漁業免許ノ證據トスルヲ得ス(定置漁場免許期間指定不許可裁決不服ノ訴 明治三十七年第七十二號 明治三十八年七月五日宣告)

〔理由〕原告ハ甲第一號證ハ當時ノ法規ニ依レル適法ノ許可書ナリト云フモ明治十五年札幌縣分課章程ハ各課署ニ對スル訓達ニシテ縣廳内部ニ於ケル事務擔當ノ區分ヲ定メタルモノニ

過キサルニ反シ當時捕魚採藻ノ爲メ海面ヲ使用セントスル者ハ明治八年太政官第百九十五號ノ布告ニ依リ管轄官廳ニ願出テ其許可ヲ受ケサル可カラス而シテ管轄官廳タル札幌縣ニ在テハ札幌縣例規ナルモノアリテ人民ノ出願ニ對スル指令ハ總テ此例規ニ依リ願書ノ餘白ニ指令文及年月日並ニ長官名ヲ朱記シ官印及割印ヲ捺捺スル手續ニ據リタルモノナリ然ルニ甲第一號證ハ此手續ニ據ラサルモノナル以テ適法ノ許可書ト認ムルヲ得ス又原告ハ甲第二號證ノ如ク明治十五年以來同十九年ニ至ル迄甲第一號證ノ漁業ニ對スル現品稅ヲ納付シ來リタル者ニシテ此事實ニ依ルモ甲第一號證許可ノ適法ナルコト明カナリト云フモ右納稅カ果シテ甲第一號證漁業ニ對スモルノナルヤ甲第二號證ノミニテハ之ヲ知ルニ由ナキニ依リ之ヲ以テ直チニ甲第一號證ノ效力如何ヲ決スルコトヲ得ス其他原告ニ於テ尙ホ陳辯スル所アルモ逐一説明ヲ與フルノ必要ナシ

○漁場ノ區域(漁業免許取消請求ノ訴) 明治三十七年第一千三十一號
明治三十八年十二月十三日宣告

〔理由〕 本件所爭ノ要點ハ從來原告カ海苔藻建養殖業ヲ營ミ來リタル海面ノ赤崎村トノ境界ハ盛川川口ノ中央ヲ基點トシ之ヨリ百六十五度五分ノ方位ニ當ル一直線ナルヤ將タ同基點ヨリ三江島東磯際ヲ見通シタル一直線ナルヤニ在リ按スルニ甲第一號證ハ明治九年十二月成立

ニシテ該證ニ「一兩年ヨリ一村共有ヲ以テ柴海苔製造開産試居候ニ付云々」トアリ又甲第二號證ニ「氣仙郡大船渡村第一號ノ内字欠ノ下一海面一町四反八畝十二步云々右ハ從來海苔採場取設村內共同罷在候ニ付云々」トアリ又甲第三號證ニ「氣仙郡大船渡村地內第一號ノ内欠ノ下向云々右漁業明治十四年ヨリ向五箇年季御免許被下度云々」トアリ又甲第四號證ニ「氣仙郡大船渡村地內第一號ノ内字欠ノ下云々右ハ明治十八年度ヨリ大船渡村共同無年限稼方仕度云々」ト記載シアルニ依レハ原告カ字欠ノ下(係爭漁場)ニ於テ海苔採取ニ着手シタルハ明治七八年ニシテ其後繼續シテ營業シ來リタルコトハ知ルニ足ルモ赤崎村トノ境界ハ盛川川口ノ中心ヲ基點トシ百六十五度五分ニ當ル一直線ナリトノコトハ之ヲ知ルニ由ナシ之ニ反シ丙第一號證ハ明治三年十二月成立ノ大船渡赤崎入會海和熟證ト題セルモノニシテ本證ニハ大船渡村漁師總代同百姓代同組頭大組頭赤崎村漁師總代同百姓代同組頭同大組頭及近郷ノ庄屋年寄大庄屋並江刺縣廳ノ柴田權少屬等ノ調印アルモノアレハ信ヲ置クニ足ル而シテ本證ニ「三江島東磯際川口見通シ海境ニ付鹽滿干ニカハはらす地付海草類雙方馴合入會漁事可仕事トアリ又丙第二號證ナル丙第一號證ノ附屬圖ニ盛川川口ノ中央ヨリ三江島東岸ヲ見通シ一直青線ヲ劃シ其青線上ニ青經引三郷島東波打際境ト記載シアルニ依レハ既ニ明治三年ニ於テ大船

渡村ト赤崎村トノ漁業境界ハ盛川川口ノ中央ヨリ三江島東磯際ヲ見通シタル一直線ト協定シ居タルコト明ナリ然レハ前顯説明ノ如ク明治七八年ニ於テ原告カ初メテ着手シタル海苔採取營業區域ノ赤崎村トノ境界ハ原告主張ノ如ク盛川川口ノ中心ヲ基點トシ百六十五度五分ニ當ル一直線ニアラスシテ被告及從參加人申立ノ如ク同基點ヨリ三江島東磯際ヲ見通シタル一直線ナリト云ハサルヲ得ス既ニ主要ノ爭點斯ノ如クナル以上ハ曩ニ被告カ從參加組合ニ與ヘタル漁業免許ハ相當ナルヲ以テ原告ノ主張ハ採用スルニ由ナキモノトス

○行政官廳カ從來ノ慣行ニ依ラサル新規ノ漁業免許ヲ與ヘタル場合ト雖モ他人ノ漁業權ヲ侵害セサル以上ハ之ヲ目シテ違法處分ナリト云フヲ得ス(漁業免許取消請求ノ訴 明治三十六年第四百五十三號
明治三十八年十二月二十五日宣告)

〔理由〕原告ハ甲第一號證ヲ提出シ被告カ從參加人ニ與ヘタル本訴漁業免許ハ慣行ニ依ラサル新規免許ニシテ原告カ既得漁業ノ魚道ヲ侵害スル違法處分ナリト云フモ甲第一號證ハ文政三年ノ裁許繪圖ナレハ該證成立後新タニ漁業ノ慣行ヲ生シタルコトナシト謂フヘカラス隨テ該證ニ記載ナキヲ以テ直チニ漁業ノ慣行ナキモノト斷定シ難シ而シテ被告カ從參加人成生漁業組合理事水島小兵衛ニ與ヘタル斷刺網ノ漁業斷刺網定置漁業落付大敷網ノ漁業斷刺網ノ漁業

業從參加人水島小兵衛外九名ニ與ヘタル鰹刺網ノ漁業同市瀬平右衛門ニ與ヘタル柔魚落付網ノ漁業同高井幸太郎ニ與ヘタル鰹ノ落網ノ漁業同上野定吉外一名ニ與ヘタル鰹落網ノ漁業ニ付テハ被告ハ乙第一號證乙第二號證ノ如ク實地ニ就キ慣行ノ有無等ヲ調査シ所轄村長ノ上申ニ參照シ從參加人ニ從來漁業ノ慣行アル事實ヲ認メ漁業法第三十四條ニ依リ免許ヲ與ヘタルモノニシテ其免許ニ不當ト認ムヘキ點ナケレハ之ヲ違法處分ナリト謂フヲ得ス又被告カ從參加人上野貞藏外五名ニ與ヘタル柔魚落網付締網漁業同高井增藏外一名ニ與ヘタル鰹刺網ノ漁業ハ慣行ニ依ラサル新規免許ナルモ漁業法其他ノ法令中新規ノ免許ヲ與フヘカラサル規定ナク且被告ハ實地ニ就キ原告漁業ノ魚道ヲ侵害セサルコトヲ認メ免許ヲ與ヘタルモノナレハ之ヲ違法處分ナリト謂フヲ得ス

○行政官廳ハ誤謬ニ因テ漁業免許ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正スル權能ヲ有スルモノトス(命令取消ニ關スル訴 明治三十八年第四百五十五號
明治三十九年七月六日宣告)

○行政官廳カ漁業免許ヲ與ヘタル後誤謬ヲ發見シテ之ヲ訂正シタル場合ト雖モ其訂正命令ニシテ實質上一部ノ免許ヲ拒否セシモノナルトキハ被處分者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得(同上)

○漁業法第九條ハ漁業免許カ正當ニ與ヘラレタル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ誤謬ヲ訂正スルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニアラス(同上)

〔理由〕按スル一、從參加人ハ訂正命令ノ取消ヲ求ムルモノニ對シ行政訴訟ノ提起ヲ許サレタル規定ナキヲ以テ本訴ハ不合法ナリト云フモ被告ノ答辯ニ依レハ甲第三號證京都府達第一號ハ誤謬ノ訂正ノミナラス漁業法第九條ニ依リ公益上必要ヲ認メタルニ依リ發セラレタルモノナリト云フニ在レハ原告ハ漁業法第九條ノ處分ヲ受ケタルモノト云フヲ得ヘキハ論ヲ俟タサルノミナラス元來右達ナルモノハ形式ニ於テハ先キニ誤テ與ヘタル免許ノ一部ヲ改正シタルモノナルモ其實質ニ至テハ一部ノ免許ヲ根本ヨリ與フ可ラサルモノトシテ之ヲ拒否シタル趣旨ニ外ナラサレハ原告カ漁業法第二十三條ニ依リ本訴ヲ提起シ得ヘキハ當然ナルヲ以テ此點ニ對スル從參加人ノ主張ハ之ヲ採用セス二、原告ハ最初與ヘラレタル明治三十六年五月六日附ノ漁業免許ハ誤謬ニ出テタルモノニ非スト云フモ該免許ハ慣行ニ因リ與ヘラレタルモノニシテ被告ハ調査ノ結果免許狀ニ記載ノ如キ慣行ナキコトヲ發見シタリト主張シ而シテ別ニ其慣行アリシ事實ヲ認メ得ヘキ證據ナキ上ハ被告カ沖出シ間數四十五間及柔魚落付締網ノ慣行ノ存在ヲ否認シ以テ誤謬ニ出テタリトノ主張ハ不當ナリト認ムルヲ得ス原告ハ此點ニ關シ

甲第四號證及甲第五號證ヲ提出スルモ根據ナキ證明書又ハ一片ノ陳情書ニ過キサレヲ以テ有カノ證據ト爲スニ足ラス三、原告ハ假リニ誤謬アリシトスルモ被告ハ漁業法第九條ノ如キ場合ノ外之ヲ訂正スル權限ヲ有セスト主張スルモ本件係争ノ命令ハ最初ノ免許カ元誤謬ニ因テ不合法ニ與ヘラレタルモノナルカ故ニ其本然ノ趣旨ニ歸セシムルニ出テタルモノニ過キサレハ別段ノ規定ナキ限リハ之ヲ訂正スルハ被告ノ權能ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス而シテ漁業法第九條ノ如キハ免許カ正當ニ與ヘラレタル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ誤謬訂正ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス四、原告ハ最初本件ノ漁業免許ヲ出願シタルハ必スシモ從來ノ慣行ニ基キタルモノニ非ス居村地先海面ニ於テ漁業法第三條ノ定置網ノ漁業免許ヲ出願シタルモノナレハ被告ハ慣行ナシトノ一事ヲ以テ拒否シ得ヘキモノニアラスシテ其有無如何ニ拘ラス許可スヘキモノナリト主張スルモ本訴ハ甲第三號證ノ訂正命令ノ取消ヲ目的トスルモノニシテ其根本タル甲第二號證ノ二ノ漁業免許ハ一ニ慣行ニ因テ與ヘラレタルモノナルコト免許狀ノ文詞ニ依リ明白ナレハ其訂正ヲ不法ナリトシテ之レカ取消ヲ求ムルニ當リ慣行ノ如何ニ拘ラス出願ヲ許可セラルヘキモノナリトノ原告論旨ハ本件ノ訴旨ニ副ハサル失當ノモノトス以上説明ノ如ク被告カ誤謬ノ訂正ヲ爲スノ權能ヲ有スルモノト認メタル上ハ被告カ本件ノ

處分ハ相當ニシテ取消スヘキ限ニ在ラス從テ其他ノ論點ニ對シテハ説明スルノ必要ナシトス
○北海道漁業取締規則第二十三條ニ第十七條規定ノ外第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用ストアルハ各種ノ漁業ニ適應スル條項ヲ適用スヘキ趣意ニシテ即チ鯨ノ定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニハ之ニ付キ定メタル第十七條ノ規定ヲ適用シ又鯉鱒ノ定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニハ同漁業ノ免許出願ニ付キ定メタル第十九條ノ規定ヲ適用スヘシトノ旨趣ニ外ナラス(不當免許取消ノ訴 明治三十七年第五百八十三號
明治三十九年三月三十日宣告)

〔理由〕 按スルニ本件所爭ノ要點ハ北海道漁業取締規則第二十三條ノ解釋如何ニ在リ而シテ被告ハ該條ニ於テ第十七條ノ規定ヲ適用セラレタル結果鯉鱒漁業ニ關スル第十五條第四號但書ヲ適用セサルヘカラスト云フモ該第二十三條ハ「定置漁業特別漁業ノ漁場區域ノ變更ニ付テハ」トアリテ博ク各種ノ漁場區域變更ノ場合ニ適用スヘキ第十七條及第十九條乃至第二十三條及之ニ關係スル條項ニ參照スルニ各種漁業ニ付キ漁場ノ制限距離ニ關スル特別ノ規定アリテ各種漁業ニ付キ右ノ諸條ヲ悉ク適用スル能ハサルコト明カナレハ右第二十三條ニ「第十七條規定ノ外第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用ストアルハ各種ノ漁業ニ適應スル條項ヲ

適用スヘキモノト解釋セサルヘカラス即チ鯨ノ定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニハ之レニ付キ定メタル第十七條ノ規定ヲ適用スヘク鯉鱒ノ定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニハ同漁業ノ免許出願ニ付キ定メタル第十九條ノ規定ヲ適用スヘシトノ旨趣ニ外ナラス然レハ被告カ本件北見株式會社ノ出願ニ係ル鯉鱒漁業ノ漁場區域變更ニ鯉鱒漁業ニ付キ定メタル第十七條ノ規定ヲ適用シテ免許ヲ與ヘタルハ違法ノ處分ナリトス而シテ此違法處分タル北見株式會社ノ漁場區域變更ノ爲メ原告ノ免許ヲ得タル漁業ニ障害ヲ來タスコトハ被告モ爭ハサル所ナレハ原告ハ被告ノ違法處分ニ因リ權利ヲ傷害セラレタルモノト謂ハサルヲ得ス

○漁業權傷害ノ取消ヲ求ムルモノト斷定シ得ル以上ハ訴ノ原因變更ニアラス(漁業免許違法許可取消ノ訴 明治三十八年第二百八十七號
明治三十九年十二月二十四日宣告)

〔理由〕 按スルニ原告ノ陳述ハ書面及口頭ニ於テ區々一定セサル點モアリ其趣旨明瞭ヲ缺ク所アルモ本訴狀ニ「漁業免許違法許可取消ノ訴」トアリテ甲第一、二號證及甲第四號證ヲ其主要ノ證據ト爲シ又訴狀ノ理由ノ部ニ「イロ線以北ハ慣行上原告ノ權利ニ屬スル區域云々原告ノ權利ヲ傷害シタルモノナリ云々」其事實ノ部ニ「申ノ正中見通線以北ハ原告ノ地先海面ニ屬シ往古ヨリ慣行上原告ノ部落ニ於テ進退收益シ來リシ處云々」トアリテ孰レモ原告ニ屬

スル慣行上ノ權利ヲ主張シ而シテ原告カ一定ノ申立ヲ訂正シテ「同年同月同日附ヲ以テ原告ニ下付シタル區劃漁業免許狀ニ掲ケタル漁場ヲ該圖面イロノ線ニ至ル迄訂正擴張スヘク」トアルヲ削除スル以前ニ在リテハ其請求原因ヲ明カニスル爲メ訴狀ニ原告カ區劃漁業ヲ出願シ之ヲ拒否セラレタル事實ヲ掲載スルノ必要アリシコト明ナリ又原告ハ口頭辯論ニ於テ再追申書中「換言スレハ云々」ノコトハ削除スルモ差支ナク原告ハ何所マテモ慣行上權利アルモノナレハ漁業法ノ如何ニ拘ハラサルナリト陳述セリ是等ヲ綜合スレハ本訴ノ趣旨ハ係争海面ハ原告ノ地先ニシテ古來ノ慣行ニ依リ原告ニ屬スル漁業ノ權利ヲ被告ノ違法處分ニ依リ傷害セラレタリトシテ其取消ヲ請求スルニアルモノト斷定スヘク而シテ果シテ原告主張ノ如キ權利ノ存在スルヤ否又其種類ノ如何ハ此判決ニ於テ判斷スヘキ限リニアラサレハ結局原告ハ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト認ムルヲ得ス

○漁業免許ニハ必ズ一定ノ期間ヲ附スヘキモノニシテ二者相離ルヘカラサルモノトス從テ漁業免許ノ期間滿了ニ際シ其期間ヲ更新セル場合ニ於テハ漁業法第二十四條ニ依リ該處分ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルルコトヲ得不法漁業期間更新許可處分取消要求ノ訴

明治三十八年第三百四十五號第三百五十八號
明治四十年二月二十二日宣告

○漁業法ニ所謂期間ノ更新ハ先ニ與ヘタル免許ノ期間滿了ニ際シテ更ニ期間ヲ新ニシ免許ヲ與フルノ旨趣ニ外ナラサレハ期間滿了ノ翌日更新ノ指令ヲ爲スモ不法ニアラス(同上)

〔理由〕 按スルニ本訴裁判上ノ要點ハ一、原告ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ルヤ否二、被告カ明治三十八年七月一日ニ於テ同年六月三十日ニ期間滿了シタル從參加人廣谷八郎ノ漁業免許ニ對シテ期間ヲ更新シタルハ不法ナリヤ否三、明治三十五年青森縣令第六十二號漁業取締規則第三條第三項ニ所謂特別ノ事由アリヤ否ノ三點ニ在リ一、(對從參加人主張ノ一)漁業法第六條ニ「漁業免許ノ期間ハ二十箇年以内トス」同法施行規則第二十八條第二項ニ「免許狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ」其八號ニ「免許期間」トアリ是等ノ規定ニ依レハ漁業免許ニハ必ズ一定ノ期間ヲ附スヘキモノナルコト明ニシテ二者相離ルヘカラサルモノナリ而シテ本件ハ明治三十八年六月三十日期間滿了シタル從參加人ノ漁業免許ニ對シ其期間ヲ更新セラレタルト同時ニ更ニ免許ヲ付與セラレタルモノト認ムヘキヲ以テ漁業法第二十四條ニ依リ本訴ヲ提起スルヲ得サルモノト云フヲ得ス(對其二)行政處分ノ非違ニ付上級廳ノ監督スヘキハ從參加人陳述ノ如クナルモ漁業法第二十四條ノ如ク行政訴訟ヲ提起スルコトヲ許シタル規定アル以上ハ

原告ニ訴權ナシト云フヲ得ス(對其二)漁業取締規則第三條第三項ハ現實特別ノ事由存在スル場合ニ限り適用スヘキモノニシテ實際ニ於テ何等特別ノ事由ナキニ拘ハラズ被告カ擅ニ處分スル如キハ法ノ趣旨ニアラスト解釋スルヲ相當トス從テ被告ノ處分ノ適法ナルヤ否ヤニ付原告カ判斷ヲ請フコトヲ得ルハ當然ナリトス(對其四)原告ハ違法處分ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリト主張シテ出訴シタルモノナリ而シテ其主張ノ當否ハ裁判ニ依リ決スヘキモノナレハ假令其主張カ正當ナラストスルモ之レカ爲メ原告ニ訴權ナシト云フヲ得ス二、原告ハ被告カ明治三十八年七月一日ニ於テ同年六月三十日ニ期間ノ満了シタル從參加人ノ漁業免許ニ對シテ期間ヲ更新シタルハ不法ナリト云フモ期間更新ノ免許ヲ得ントスルニ當リ三箇月前ニ申請スヘキコトハ漁業法施行規則第三十二條ノ規定スル所ナレトモ其申請ニ對シテ指令ヲ爲スヘキ期日ニ付何等ノ規定ナク必竟漁業法ニ所謂期間ノ更新ナルモノハ先キニ與ラレタル免許ノ期間満了ニ際シ更ニ期間ヲ新ニシテ免許ヲ與フルノ趣旨ニ外ナラサレハ本件ノ如ク免許期間ノ満了ニ際シ期間更新ノ指令ヲ爲シタルモノハ不法ナリト云フヲ得ス三、被告及從參加人ハ原告ノ大謀網ノ前方ニ魚道ヲ遮斷スヘキ海藻ノ繁茂セルトノコト及從參加人ハ最先ノ鮪建網使用者ナルトノコトヲ以テ特別ノ事由ナリト主張スルモ其主張ノ如キ海藻ノ繁茂セサルコトハ

實地檢證ノ結果及本件ノ鑑定書ニ徴シ明ナリ又鮪建網使用ノ前後ノ如キハ本件係争ノ鮪大謀網ニ關係ナキヲ以テ是等ハ孰レモ漁業取締規則第三條ニ所謂特別ノ事由ト爲スヲ得ス然レトモ原告ノ大謀網ハ沖出間數ニ於テ從參加人ノ大謀網ヨリ百十五間延長セル事實及從參加人ノ角網カ原告ノ後網ナルコトノ二點ハ漁業上最重要ニシテ且適切ノ事柄ニ屬シ尙當裁判所ノ命シタル鑑定人ノ鑑定ハ鑑定事項ニ對シ明斷ヲ欠キ或ハ鑑定ノ趣旨一貫セサル所アリテ其全部ヲ採用スルヲ得サルモ其末段ニ於テ「從參加人ノ大謀網ハ岸ニ沿ヒテ來游セル鮪ノ捕獲ヲ主トシ原告ノ大謀網ハ前者ニ比スレハ沖出ノ延長セルト地形ノ廣濶ナルトニ由リテ沖合ヨリ斜メニ岸ニ來游セル鮪ノ捕獲ヲ主トシ互ニ現事態ヲ維持セルモノト認ム」トアルハ採用スルニ足ルモノト認ムルカ故ニ被告カ以上ノ二點ヲ以テ特別ノ事由ト爲シタルハ相當ニシテ不法ニアラス結局本件被告ノ處分ハ之ヲ不法ナリト認ムヘキ理由ナキヲ以テ取消スヘキ限ニ非ス

○漁業法第二十三條第二項ニハ廣ク前項ノ處分ニ依リ云々トアルヲ以テ漁業免許更新ノ拒否ニ對シテモ亦行政訴訟ノ提起ヲ許シタルモノトス(漁業免許期間更新違法處分取消並漁業免許拒否處分取消ノ訴 明治三十九年第八十七號 明治四十年三月十一日宣告)

〔理由〕 按スルニ本件ニ就テハ先行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノナルヤ否ヲ決セサルヘカラス

被告從參加人ハ漁業法第二十三條第二項ニ前項ノ處分ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリト
スルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得トアルハ第八條第九條若クハ第十四條第二項ノ處分
ヲ受ケタル場合ニ限ルモノニシテ免許若クハ更新ノ拒否ノ處分ニ對シテ行政訴訟ヲ提起シ得
ルモノニアラスト云フト雖漁業法第二十三條第二項ニハ廣ク前項ノ處分ニ依リ云々トアルヲ
以テ更新ノ拒否ニ對シテモ行政訴訟ノ提起ヲ許シタルモノト認メサルヲ得ス又被告從參加人
ハ本件ニハ權利ノ侵害ナキニヨリ行政訴訟ヲ提起シ得ルモノニアラスト云フト雖原告ハ違法
處分ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリト主張シテ出訴シタルモノニテ其主張ノ當否ハ裁判ニ依リ
決スヘキモノナレハ假令其主張ヲ正當ナラストスルモ之カ爲原告ニ訴權ナシト云フヲ得ス如
此本件ニ就テハ原告ハ訴權ヲ有スルモノナルニヨリ更ニ進シテ本件訴訟ノ目的タル行政處分
ノ當否ヲ考フルニ原告ハ被告從參加人ノ漁業免許期間ハ割書ノ如ク明治三十九年一月迄ニシ
テ同年五月ニ至リ被告從參加人ニ更新ノ許可ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フト雖免許狀ニ四個
年ト明記シ之ニ明治三十五年十二月ヨリ明治三十九年一月迄ト割書シタルハ免許期間ハ四個
年間ニシテ割書ハ只漁業時期ヲ示シタルニ過キスト認メ得ラルハニヨリ被告ハ免許期間經過
後ニ更新ノ許可ヲ與ヘタルモノニアラス故ニ其被告ノ處分ハ之ヲ取消スヘキ限ニアラス尙原

被告兩造ノ間ニ免許期間經過後ニ更新ヲ與ヘ得ルヤ否ニツキ辯論スル所アルモ既ニ被告處分ニ
シテ免許期間中ニ與ヘタルモノト決スル以上ハ其點ニツキ説明ヲ與フルノ必要ナシ

○漁業法第五條第二項ノ「從來ノ慣行」ナル文詞ハ「古キ時ヨリノ慣行」ヲ指稱セルモ
ノトス(不當處分取消請求ノ訴 明治三十九年第五百十號
明治四十年五月三十一日宣告)

○漁業組合カ古來川役ヲ上納セシ事實アルモ川役ハ必スシモ專用漁業ノミニ賦
課シタルモノニアラサレハ之ヲ以テ漁場獨占ノ證據ト爲スヲ得ス(同上)

〔理由〕 按スルニ漁業法第五條第二項ノ「從來ノ慣行」ナル文詞ハ「古キ時ヨリノ慣行」ノ義
ナルコトハ疑ヲ容レサル所ナリ然ルニ本件漁業組合規約第三十三條第三十四條カ原告ノ主張
スル如ク假リニ水面獨占ノ規定ナリトスルモ之カ認可ハ畢竟近時ニ於ケル行政處分タルニ過
キスシテ別ニ古キ時ヨリノ慣行ノ存在カ證明セラレサル以上ハ單ニ之ノミヲ以テハ專用漁業
ノ權アリトスルヲ得ス原告ハ寛文正徳明和ノ頃ヨリ川役ヲ上納シタルノ事實ヲ以テ專用漁業
ノ慣行アリタルコトヲ證セントスルモ川役ハ必スシモ專用漁業ノミニ賦課シタルモノニアラ
サレハ漁場獨占ノ證據トナラス之ヲ要スルニ原告カ矢田川水面ニ於テ從來ノ慣行ニ依リ專用
漁業權ヲ有ストノ主張ハ何等之ヲ證明スルモノナシ其他原被告ニ於テ種々陳辯スル所アルモ

孰レモ漁業法ニ所謂從來ノ慣行ニ關係ナキモノナレハ説明ヲ與フルノ要ナシ

○行政官廳ノ免許ニ依リ新ニ漁業權ヲ得ントスル行爲ハ漁業組合規則第十九條ノ所謂漁業權ノ得喪ヲ目的トスル行爲ニ包含セス從テ漁業組合ノ理事ハ總會ノ議決ヲ經ルコトナク單獨ニテ有效ニ漁業免許ヲ出願シ又ハ其出願ヲ取下ケ得ルモノトス(漁業權傷害鮪網免許許可取消請求ノ訴 明治三十九年第二十五號 明治四十年七月五日宣告)

〔理由〕原告ハ其組合ノ前理事タル高梨文太郎カ組合總會ノ決議ヲ經ス先キニ提出セル漁業免許ノ願書ヲ取り下ケ同時ニ其競願者タル西郷町大字東町漁業組合理事ト協議ノ上共同出願ヲ爲シタル行爲ハ漁業組合規則第十九條ノ規定ニ牴觸スルヲ以テ其取下竝ニ出願ハ凡テ無効ニシテ取消スヘキモノナリト云フト雖モ本件ノ如キ行政官廳ノ免許ニ依リ新ニ漁業權ヲ得ントスル場合ノ如キハ同條ニ所謂漁業權ノ得喪ヲ目的トスル行爲中ニ包含セス從テ漁業組合ノ理事ハ總會ノ議決ヲ經ルコトナク單獨ニテ有效ニ漁業免許ヲ出願シ又ハ其出願ヲ取下クルコトヲ得ルモノトス然レハ原告組合ノ理事タリシ高梨文太郎ノ爲シタル漁業免許ノ出願竝ニ其出願ノ取下ハ共ニ有效ナルヲ以テ被告カ其取下ヲ認め共同出願ヲ許可シタル處分ハ何レモ正當ニシテ取消スヘキ限ニアラス其他原告及被告ニ於テ種々陳辯スル所アルモ本訴ノ争點ニ關

係ナシト認ムルヲ以テ説明ヲ與ヘス

○漁業免許カ更新ニ依リ當初ノ期限後ニ繼續スルハ唯事實上ノ現象タルニ過キスシテ法理上ニ於テハ前免許ハ期限滿了ト同時ニ消滅スルモノトス(區劃漁業第一種海苔蒔殖養殖業共同免許取消ノ訴 明治三十七年第二百十號 明治四十年十一月六日宣告)

○公有水面使用ノ許可處分ニ對シテハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(同上)

〔理由〕按スルニ漁業免許カ更新ニ依リテ當初ノ期限後ニ繼續スルハ單ニ事實上ノ現象タルニ過キスシテ法理上ニ於テハ前ノ免許ハ期間滿了ト共ニ消滅シ更新ニ依リテ得タル免許ハ全然之ト別物タリ故ニ本件争訟第一ノ目的物タル漁業共同免許ハ今日ニ於テハ既ニ消滅セリ又公有水面使用ノ許可ニ對シテハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ之ヲ要スルニ原告ノ主張ハ共ニ其理由ナキモノナリ此他原被告及從參加人ハ或ハ漁業免許手續ノ當否ニ付テ或ハ漁業權ノ有無ニ付テ相争フ所アルモ既ニ訴訟ノ目的物消滅シタル以上ハ之ヲ説明スルノ要ナシ

○漁業保護區域ノ遠近ハ海面ノ形勢潮流ノ模様及ヒ魚道如何ニ依リ決スヘキ事

○實問題ナレハ他縣ニ於ケル實例ヲ以テ直ニ斷定ノ資料ト爲スコトヲ得ス(鮭飼付漁業免許取消請求ノ訴 明治四十年第八十號第八十一號
明治四十年十一月八日宣告)

〔理由〕 被告カ尾鷲水産株式會社ニ許可シタル鮭飼付漁場ハ尾鷲町孫島正東方約千五百間、原告宮崎和右衛門漁場ヲ距ル約千八百四十九間、原告九木浦漁業組合ノ漁場ヲ距ル約千八百十九間ノ海面ナルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナレハ本件ニ於テ判斷スヘキ主要ノ爭點ハ本件飼付漁業ヲ實行スルトキハ原告等ノ漁場ニ回遊スヘキ鮭ノ魚道ヲ遮斷シ若クハ之ヲ變更シテ原告等ノ漁獲ヲ害スルモノナルヤ約言セハ右鮭飼付漁業ハ原告等ノ漁業ト相容レサルモノナルヤ否ニアリ仍テ按スルニ被告ハ乙第五號證ヲ以テ鮭飼付漁業ニ付キ最先ノ經驗ヲ有スル鹿兒島縣ニ於テハ一千間ヲ以テ充分ナル保護區域トナスカ故ニ約二千間ヲ距ル本件飼付漁業ハ決シテ原告等ノ漁業ト相容レサルモノニ非サル旨主張スレトモ保護區域ノ遠近ハ海面ノ形勢、潮流ノ模様及魚道如何ニヨリ決スヘキ事實問題ナレハ他縣ニ於ケル實例ヲ以テ直チニ本件ノ場合ヲ斷定スル資料トナスヲ得ス今實地檢證ノ結果及甲第一號證ニヨレハ本件飼付漁場ハ北、寺島崎ト南、九木崎ト相抱擁シテ成レル尾鷲灣ノ殆ント中央ニ位シ其近傍殊ニ原告等ノ漁場ニ面シタル海面ハ魚族群集シ好個ノ漁業區域ナルコトハ之ヲ認メ得ヘク而シテ此魚族ハ

本件飼付漁場及其近傍ヲ經テ回遊シ鮭モ亦同一ノ進行ヲ執ルコトハ鑑定人北原多作ノ鑑定書ニ「鮭ハ寺島崎東面ノ海ヨリ直チニ桃頭島沖ヲ經テ原告等カ大敷網布設シ九木崎側面ヲ突クモノヲ以テ主線トナス寺島崎ヨリ尾鷲灣ヲ迂回スルモノハ桃頭島北面ニ於テ主線ニ合スルモ一小派ニ過キス」トノ記載ヲ信用シテ之ヲ認メ得ヘシ又同鑑定書中「本件飼付業ヲ開始シ撒餌ヲ爲ストキハ鮭回遊ノ常道ヲ亂スベク(中略)即チ其撒餌ハ潮流ニ從テ東南ニ流レ魚群ヲ灣外ニ導クヘシ」トアリ之ニ依テ飼付漁場ニ於テ撒餌ヲ爲ストキハ鮭ノ魚道ヲ變更シ終ニ原告等ノ漁業ヲ害スルニ至ルコトモ亦之ヲ認ムルヲ得ヘシ從テ原告等ノ漁場ニ回遊スル鮭ハ乙第四號證ノ如ク概ネ南方海面ヨリ進行スルモノナレハ本件飼付漁業ハ毫モ原告等ノ漁業ニ妨害ヲ與フルモノニアラストノ被告ノ主張ハ採用セス然ラハ則チ本件飼付漁業ハ原告等ノ漁業ト相容レサルモノナルコト明カナレハ漁業法施行細則第八條ニヨリ之ヲ許可スヘカラサルモノナルニ被告ノ措置茲ニ出テス之ヲ許可シタルハ失當ナリトス

○從來ノ慣行ニ因ル漁業者ニシテ漁業法第三十四條第二項ニ依リ免許ヲ出願シタル者ハ其許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間從前ノ如ク漁業ヲ爲シ得ルニ止マリ他ノ漁業者ヲ排斥スルコトヲ得ス(區劃漁業不當免許取消請求ノ訴 明治四十年十一月
明治四十年十一月)

第三十二號
二十九日宣告

〔理由〕 漁業法第三十四條第二項ニハ前項ノ漁業者ハ其免許ヲ出願シタル者ニ在リテハ許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間(中略)仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得トアルノミナレハ出願者ハ從前ノ如ク漁業ヲ爲シ得ルニ止マリ是ヲ以テ他ノ漁業者ヲ排斥シ得ルモノト解スルヲ得サルヲ以テ被告カ山田彦藏及江波村漁業組合ニ區劃漁業ノ免許ヲ與ヘタルハ違法ナリト云フヲ得ス

○北海道漁業取締規則第二十四條ニハ唯「免許ヲ受ケ」云々トアリテ何等ノ制限ナケレハ純然タル漁業免許ハ勿論變更免許モ亦之ニ包含セルモノトス(漁場區域變更願ニ關スル訴 明治四十年第六十八號 明治四十年十二月二十三日宣告)

〔理由〕 按スルニ北海道漁業取締規則第二十四條ニハ「本令施行前免許ヲ受ケ」云々トアリ而シテ原告提出ノ第三號證及ヒ第五號證ノ如ク原告ノ漁場區域變更申請ニハ明治三十八年四月十日免許札主定第三號漁場云々又札主定第三號ニハ定置漁業免許狀明治三十八年四月十日トアルニ依レハ原告ノ申請ハ右取締規則施行後ニ受ケタル免許ニ對スルモノナルコト明カナルヲ以テ被告カ令第二十四條ヲ適用セザリシハ相當ナリトス然ルニ原告ハ明治三十八年

四月十一日ノ免許ハ變更免許ニシテ右第二十四條ニ所謂免許ニ包含セラレサルモノナレハ該二十四條ヲ適用セラルヘキ旨論スルモ其ノ第二十四條ニハ唯免許トアリテ何等ノ制限ナク而シテ免許狀ニハ「定置漁業免許狀」ト題シ「前記漁業ヲ免許ス」トアリテ純然タル漁業免許ナレハ令第二十四條ニ包含セララル、モノト解釋スヘキハ當然ナルヲ以テ原告ノ論旨ハ採用セ

ス
○專用漁業慣行證明ノ不備(臺網類定置漁業免許取消ノ訴 明治三十九年第六十六號 明治四十一年二月三日宣告)

〔理由〕 原告ハ從來係争場所ニ於テ專用漁業ノ慣行アリト主張スルモ甲第五號證ノ一ハ明治二十二年ヨリ同二十六年迄五箇年間ノ海面使用願ニ止マリ同證ノ二及甲第六號證ハ普通ノ漁業鑑札ニ過キサレハ該證ニ據リ專用漁業ノ慣行アルコトヲ推定シ難キヲ以テ他ニ確證ナキ以上係争場所ニ於ケル原告カ專用漁業ノ權利ヲ認ムルヲ得ス又原告ハ甲第五、六號證ノ如ク從來係争場所ニ於テ漁業ニ從事シ一定ノ漁業權ヲ有スルモノナレハ他人ノ定置漁業ヲ拒ムヘキ理由アリト云フモ該證ハ原告ニ對シ係争場所ノ獨占ヲ許シタルモノト認メ難キヲ以テ被告カ早川村漁業組合ニ對シ係争場所ニ亘リテ臺網根拵網定置ノ免許ヲ與ヘタル處分ハ原告ノ權利ヲ傷害シタルモノト云フヲ得ス既ニ此點ニ於テ原告ノ請求ヲ排斥スルニ足ルヲ以テ其他ノ争

點ニ付テハ説明セス

○採藻泥權ヲ有スル者ト雖モ專用權ヲ有スルニアラザレハ其水面ニ於テ他人ノ採藻採泥ヲ妨止シ得サルモノトス(不當告示取消請求ノ訴 明治四十年第五十八號 明治四十一年二月八日宣告)

〔理由〕 按スルニ本訴原告請求ノ趣旨ハ滋賀縣告示第六十七號カ栗見出在家ヲ採藻泥權部落中ニ編入告示シタルハ原告等採藻泥權ノ一部ヲ侵害シタルモノナレハ法律第六百六號第三ニヨリ右栗見出在家ノ文字ノ取消ヲ求ムト云フニアルヲ以テ原告等ノ請求ヲ貫徹センニハ其有スル採藻泥權ハ他人ヲシテ中之海ニ於テ採藻採泥ヲ爲サシメサル專用權ナラサルヘカラス然ルニ原告ハ漁業法ニ所謂水面專用權ヲ主張スルモノニアラスシテ明治三十五年滋賀縣令第二十九號第十八條ニヨリ與ヘラレタル採藻泥權ヲ本訴請求ノ根據トナスモノナルコト原告等自ラ陳述スル所ナレトモ原告等ノ權利カ果シテ同條ニヨリ與ヘラレタルモノナルコト明瞭ナラサルヲ以テ他人ノ採藻泥權ヲ排斥スル專用權ナルコトヲ認ムル能ハス原告等ハ甲第一號證近江水産組合蒲生郡出張所細則ニヨリ專有權ノ立證トナセトモ同證ハ唯原告カ採藻泥權ヲ有スルコトヲ認メ得ルニ止リ專用權ヲ有スル事實ヲ認ムルニ足ラス此ノ如ク原告等ノ權利ハ他人ヲ排斥スルカナキ以上ハ栗見出在家カ中之海採藻泥權部落中ニ編入セラレタリトモ毫モ原告等

ノ權利ヲ害スルモノニアラス然レハ原告カ告示第六十七號ハ原告等ノ漁業權ヲ害スルモノトシ法律第六百六號ニヨリ爲シタル本訴請求ハ失當ナルモノトス

○專用漁場ナリトノ證明ノ不備漁業免許違法許可取消ノ訴

明治四十年第七十號 明治四十一年三月十日宣告

〔理由〕 原告陳述ノ要旨ハ本件免許漁場ハ原告等兩漁業組合ノ地域内ニ屬シ從來他村漁民ト共同稼業ヲ爲シタリシコトナカリシカ明治二十八年東中北閉伊郡長ノ告知ニ依リ飯岡浦漁業組合員ニ鮑漁業ヲ爲サシメ以テ今日ニ至リシト雖該漁業ハ總テ原告組合ノ支配下ニ於テ其規約ヲ遵守シ漁業セシメタルモノニシテ慣行ニ依リ共同漁業權ヲ有シタルモノニ非ルヲ以テ明治四十年三月七日附第二三四號專用漁業免許狀ニ飯岡浦漁業組合員ノ鮑入會漁業ノ條件ヲ附シタルハ違法ナルヲ以テ之レカ取消ヲ請求スト謂フニ在リ」被告答辯ノ要旨ハ本件漁場ニ就テハ明治二十八年中其當時ノ所轄行政廳ナル東中北閉伊郡長カ原告等ト飯岡浦漁業組合カ鮑漁業入會ノ慣例アルヲ認メ入會稼業ノ免許ヲ與ヘタルモノニシテ其當時原告重茂村漁民ハ之ヲ不當トシ行政訴訟ヲ提起シタリシカ明治三十一年十月三日原告ノ請求相立タル旨判決アリ爾來其趣旨ニ從ヒ入會漁業ヲ爲シ來リタル所ナルヲ以テ被告ハ其慣例ヲ認メ鮑漁業權者ノ一員トシテ條件ヲ附シタルモノニシテ毫モ違法ノ處分ニ非スト謂フニ在リ」本件原告ノ主張

ハ何等立證ナキヲ以テ之ヲ認ムルニ由ナシ

(四) 取引所ニ關スル件

○取引所ノ設立免許ニハ營業ノ許可ヲ包含ス(株式會社栃木米麻麥取引所解散命令取消請求ノ訴 明治三十四年第四百七十一號
明治三十五年四月二日宣旨)

○取引所法第二十七條ニ所謂取引所ノ停止トハ其營業ノ停止ヲ意味シ取引所ノ解散トハ其營業ノ禁止ヲ意味スルモノトス(同上)

取引所ノ解散處分ハ單ニ其人格ヲ剝奪スルニ止マラス營業ノ免許ヲモ取消スモノトス(同上)

〔理由〕 本件抗辯ニ關スル所争ノ要點ハ取引所ノ解散處分ハ單ニ法人ノ人格ヲ剝奪スルニ止マルヤ將タ營業免許ノ取消ヲモ包含スルヤ否ヤニ在リ按スルニ取引所ハ取引所法第一條第十九條ニ依レハ政府ノ免許ヲ得テ或ル物件ヲ取引スル場所ニシテ其賣買取引ハ明治二十六年第七十四號勅令ノ規定ニ依ラサルヘカラス而シテ其取引ハ取引所外ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス故ニ取引所設立免許ハ同時ニ其營業ヲモ許可シタルモノト解釋セサルヘカラス又取引所法第二十七條農商務大臣ノ處分中ニハ取引所ノ解散ト取引所ノ停止トノ區別アリ而シテ之ヲ取引所一部ノ停止若クハ禁止トアルニ對照スレハ取引所ノ停止トハ取引所營業ノ停止ヲ意味シ又取引所ノ解散トハ取引所ノ營業ヲ禁止スルノ意味ナルコトヲ知ルニ足ル然ラハ取引所ノ解散ハ單ニ人格ヲ剝奪スルニ止マラス營業免許ノ取消ヲモ包含スルモノト解釋セサルヘカラス其他原被雙方辯論スル所アルモ前段ノ如ク斷定シタル以上ハ一々説明ヲ與フルノ必要ナシ

○取引所ノ設立免許ニハ營業ノ許可ヲ包含ス(不當解散命令取消ノ訴 明治三十四年第四百七十三號
月二日宣旨)

○取引所法第二十七條ニ所謂取引所ノ停止トハ其營業ノ停止ヲ意味シ取引所ノ解散トハ其營業ノ禁止ヲ意味スルモノトス(同上)

○取引所ノ業務ハ其會員組織ナルト株式會社組織ナルトヲ問ハス一ノ營業ナリ(同上)

〔理由〕 本件ニ關スル所争ノ要點ハ取引所ノ解散處分ハ單ニ法人ノ人格ヲ剝奪スルニ止マルヤ將タ營業免許ノ取消ヲモ包含スルヤ否會員組織ノ取引所ノ業務ハ營業ナリヤ否ヤノ二點ニ在リ按スルニ取引所ハ取引所法第一條第十九條ニ依レハ政府ノ免許ヲ得テ或ル物件ヲ取引ス

ル場所ニシテ其賣買取引ハ明治二十六年第七十四號勅令ノ規定ニ依ラサルヘカラス而シテ其取引ハ取引所外ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス故ニ取引所設立免許ハ同時ニ其營業ヲモ許可シタルモノト解釋セサルヘカラス又取引所法第二十七條農商務大臣ノ處分中ニハ取引所ノ解散ト取引所ノ停止トノ區別アリ而シテ之ヲ取引所一部ノ停止若クハ禁止トアルニ對照スレハ取引所ノ停止トハ取引所營業ノ停止ヲ意味シ又取引所ノ解散トハ取引所ノ營業ヲ禁止スルノ意味ナルコトヲ知ルニ足ル然ラハ取引所ノ解散ハ單ニ人格ヲ剝奪スルニ止マラス營業免許ノ取消ヲ包含スルモノト解釋セサルヘカラス又取引所ノ業務ハ取引所法第八條第十條ニ取引所ノ營業部類云トアリテ又第三十六條ニ其營業ヲ繼續スル云トアリ又取引所法施行規則ニ毎半年期ノ損益計算表事業報告書等ヲ農商務大臣ニ差出スヘシトアルニ依レハ其會員組織ナルト株式會社組織ナルトヲ問ハス一ノ營業ナリト解釋セサルヲ得ス其他原被雙方辯論スル所アルモ前段ノ如ク斷定シタル以上ハ一々説明ヲ與フルノ必要ナシ

○取引所ニ於テ賣買上現物ノ受渡ヲ爲スコトナク單ニ他ノ取引所ノ相場ト足取ヲ同ウシ所謂電報相場ヲ爲スハ公益ヲ害スルノ行爲アルモノトス(株式會社枋木米麻麥取引所解散命令取消請求ノ訴 明治三十四年第四百七十一號 明治三十五年六月二十五日宣告)

〔理由〕原告ハ明治二十七年三月設立以來營業上毫モ取引所法第二十七條ノ規定ニ該當スヘキ行爲ナキヲ以テ同條ニ據リ解散ノ處分ヲ受ク可キ理由ナシト陳述スルモ抑モ定期取引ハ將來ヲ豫想シテ爲スモノナレハ賣買者各自ニ任意ノ見込ヲ以テ其取引ヲ爲スモノニシテ原告取引所所在ノ如キ地方ニ於テハ其地方ノ需用ト供給トノ狀態ニ因リ隔地市場ノ相場ト原告取引所ノ相場ト自ラ差異ヲ生スヘキハ自然ノ結果トシテ免ル可カラサルモノタリ然ルニ乙第二號證相場比較表ニ依レハ原告取引所ニ於ケル明治三十二年一月ヨリ同三十四年六月ニ至ル間ノ米賣買ノ相場ト東京米穀取引所ノ相場トハ其差常ニ三十錢内外ノ間ニ往來シ其高低ノ足取ヲ等フスル狀況アリ如斯ノ顯象ハ其取引所所在ノ賣買取引者各自ノ見込ヲ以テ獨立ノ相場ヲ立テ以テ賣買ヲ爲ス場合ニ於テ決シテ有リ得ヘカラサルモノナリトス又乙第三號證ニ依レハ原告取引所ニ於テハ明治三十二年一月以降三十四年六月ニ至ル三十個月間總カニ二回ノ受渡アリタルニ過キス且其賣買總高九十六萬八千三百石ノ内受渡高ハ僅カニ五百石ニ止マリ受渡額ノ頗ル僅少ニシテ殆ント受渡ナキト等シキ狀況ヲ呈セリ今東京米穀取引所ノ賣買受渡表ヲ參照スルニ右取引所ニ於テハ明治三十二年一月以來三十四年十二月ニ至ル間毎月必ス現物ノ受渡アリテ取引所ノ狀態トシテハ毎月現物ノ受渡アルモノト認メサルヲ得ス然ルニ原告取引

所ニ於ケル狀況ハ一切ノ賣買カ轉賣買戻相殺ニ終リ殆ント受渡ナキ現象ニシテ取引所ノ狀態ニ反スルモノナリ斯ノ如ク原告取引所ニ於テ殆ント受渡ヲ爲サ、ル狀況ト原告取引所ノ相場カ東京米穀取引所ノ相場ト終始其足取ヲ同フスルトニ依テ之ヲ觀レハ原告取引所ニ於テハ相場電報ニ依リ「引ケ相場」ヲ爲スモノト認メサルヲ得ス左スレハ被告カ取引所法第二十七條ノ規定ニ依リ原告取引所ノ行爲ハ公益ヲ害スルモノト認メ解散ヲ命シタルハ不當ニアラス

○取引所法第三條但書ハ取引所ノ地區又ハ商業ノ情況ニ異動ナキ限リハ營業ノ繼續ヲ許可スルノ法意ナリトス(取引所繼續願不許可處分取消ノ訴 明治三十六年第一四月二十五號 一月二十七日宣告)

〔理由〕 本訴所争ノ要點ハ取引所法第三條但書ノ解釋如何ニ在リテ其他ハ説明ノ必要ナキモノト認ム按スルニ取引所法第三條但書ニ「土地商業ノ情況ニ依リ營業ノ繼續ヲ出願スルコトヲ得」トアルハ其文字上ヨリ見ルモ又甲第一號證政府カ衆議院取引所法案委員會ニ於テ答辯セシ所ニ依ルモ土地商業ノ情況ニ異動ナキ限リハ繼續ヲ許可スルノ意義ナリト認メサルヘカラス而シテ原告取引所ノ地區又ハ商業ノ上ニ變更若クハ衰退ノ事實アルヤ否ヲ檢スルニ被告ノ舉證中一モ其事實ヲ認ムルニ足ルモノナクシテ或ハ桑名四日市ノ二取引所アルヲ以テ原告

取引所ヲ存在セシムルノ必要ナシト云ヒ或ハ津市ハ米穀ノ集散少キヲ以テ取引所ノ必要ヲ認メスト云フニ過キス去レハ是等ノ事實ヲ以テ被告カ爲シタル本件不許可ノ處分ヲ適法ナリト謂フヲ得ス

○取引所ノ定款中株式ノ取引ニ關スル一切ノ規定ヲ削除セシメ營業ノ一部ヲ行フ能ハサラシムルコトハ取引所法第二十九條ニ所謂定款改正ノ範圍ニ屬セス

(取引所營業禁止處分取消ノ訴 明治三十七年第二百一號 明治三十七年五月二日宣告)

〔理由〕 被告ハ定款中株式ノ取引ニ關スル條項ノ削除ヲ命シタルハ取引所法第二十九條ニ依リ附與セラレタル權限ニ基クモノナレハ指令ハ違法ニアラスト云フモ本件ノ如ク株式ノ取引ニ關スル一切ノ規定ヲ削除セシメ營業ノ一部ヲ行フコトヲ得サラシメタルハ同法第二十九條ニ所謂定款改正ノ範圍ニ屬セサルモノト認ムレハ被告ノ指令ハ其當ヲ得サルモノトス

第五類 水利土木

(一) 水利土木ニ關スル件

○明治二十二年法律第十一號ニ基ク水利土功ニ關スル町村聯合會ハ特別ノ法律ヲ以テ廢止スル迄ハ存續スヘキヲ以テ其管理ニ屬スル道路事務ニハ町村制第百十六條ノ規定ヲ適用セス(道路區域存續ノ訴 明治二十五年第十九號
明治二十五年七月四日宣告)

○水利組合條例第一條ニ所謂水利土功トハ水利ニ關スル土功ヲ指シタルモノニシテ道路ニ關スルモノヲ包含セス(同上)

〔理由〕原告訴訟代理人ハ石川縣鹿島郡西往來道路ノ事務ハ水利組合條例ノ實施セラタル上ハ町村制第百十六條ノ規定ニ依リ該道路ノ事務ハ原告ニ引續クヘキモノナリト云フト雖明治二十二年法律第十一號ハ水利土功ニ關スル町村聯合會ヲシテ町村制施行後ト雖別ニ規定ヲ設クルマテ舊區町村會法ニ依リ之ヲ存續セシムルノ特別法ナルヲ以テ石川縣知事ニ於テ該法律ノ趣旨ニ依リ縣令第七十五號ヲ發布シタル以上ハ假令町村制實施ノ後ト雖別段ノ法律ヲ以テ其存續ヲ廢止セラレサル限りハ本件道路事務ノ如キハ町村制第百十六條ノ規定ヲ適用シ得ヘ

キモノニ非ス隨テ該規定ニ依リ町村其引續ヲ爲スヘキモノニ非ス然ルニ原告ハ水利組合條例第一條中水利土功ノ文字アルヲ以テ該條例ハ水利ノミナラス道路ノ事モ亦併セテ規定シタルモノナリト主張スルモ水利土功トハ水利ニ關スル土功ヲ云フモノニシテ該條例中毫モ道路ニ關スル規定ナキヲ以テ水利組合條例ハ道路ニ關シ法律第十一號ノ所謂別ニ設ケラレタル規定ナリト謂フヲ得ス

○從來地方稅ヲ以テ其費用ヲ支辨シ來リタル數町村ノ水防事業ニ關スル町村組合ノ設置ニハ水利組合條例第一條ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス又郡長カ町村制第百十六條ニ從ヒ水防ニ關スル町村組合ノ設置ヲ許可シタルハ違法ニアラス(水防組合組織ニ對スル違法處分取消ノ訴 明治二十六年第五號
明治二十六年三月二十四日宣告)

〔理由〕原告ハ本件水防組合ハ明治二十三年法律第四十六號水利組合條例第一條ニ依リ組織スヘキモノナリト云フト雖同條ニハ府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル云々特別ノ事情ニ依リ市町村若クハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得トアリ而シテ本組合ノ事業ハ從來地方稅ヲ以テ支辨シ來ルモノナレハ水利組合條例第一條ニ依ルヲ得ルモノニアラス又町村制第百十六條ニハ數町村ノ事務ヲ共同

處分スルタメ云々其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得トアレハ本件水防組合ノ組織ニ對シ被告カ許可ヲ與ヘタル處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

○明治二十二年法律第十一號ニ依リテ存續セル水利土功會ハ水利組合條例施行後ト雖モ同法ニ基ク水利組合會ノ設立ニ至ルマテハ有效ニ成立ス(土木ニ關スル違法處分ノ告示取消ノ訴 明治二十六年第四十一號
明治二十六年五月二十五日宣告)

〔理由〕 本原被所爭ノ要旨ハ明治二十二年三月法律第十一號ニ從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若シクハ學事ニ關スル町村聯合會ハ云々別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得トアリ而シテ水利組合會議未タ開設ニ至ラサル場合ニ於テハ水利組合條例施行期日以後ニ於テモ尙水利土功會ヲ有效ニ存續スルヲ得ルヤ否ノ論點ニ歸著スルモノトス依テ之ヲ説明セシニ市制第三十二條町村制第三百二十八條ニ明治十七年五月第十四號布告區町村會法云々此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ストアレハ同制施行ノ日ニ於テハ區町村會法ニ依リテ組織シタル會議ハ總テ廢止ニ歸スルモノナルヲ以テ右法律第十一號ヲ以テ水利及學事ニ關スル會議ニ限り別ニ規定設立ニ至ルマテ舊法ニ依リテ存續スルヲ得セシムルモノニシテ其之ヲ存續セシムル所以ハ此等ノ行政機關ヲシテ絶止セシメサラシムルノ法意ニ外ナラス然ルニ水利組合

條例施行ノ日即チ未タ水利組合會議設立セサルノ時ニ於テ水利土功會ノ存續ヲ止メンカ水利土功ニ要スル行政機關ハ一時絶止ニ歸シ其結果明治二十二年法律第十一號ハ遂ニ其目的ヲ完フスルヲ得サルニ至ラントス故ニ水利土功會議ノ存續期ハ水利組合條例ニ依據シタル會議ノ設立ト同時ニ盡クルモノナリト言ハサルヘカラス然ラハ本件被告カ明治二十四年六月一日水利組合施行以後水利組合設立前ニ際シ物部川水利土功會員ヲ召集シ甲第二號證議案ヲ該議會ニ提出シタルモ議決ニ至ラサルヲ以テ乙第三號證ノ稟請ヲ爲シ又町村制第二百二十六條ニ依リ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ甲第一號證ノ徵稅ヲ命シ物部川土木工事ニ着手シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヲ得ス

○縣知事カ相當ノ審査ヲ遂ケテ公有埋立工事ヲ允許シタルハ違法ニアラス(水面埋立工事ニ關スル違法指令取消請求ノ訴 明治二十六年第四百四號
明治二十七年三月十七日宣告)

〔理由〕原告及原告從參加人陳述ノ要領ハ被告カ小柳津治郎右衛門外十名ニ與ヘタル愛知縣渥美郡吉田方村及牟呂村地先豊川口公有水面埋立工事ノ允許指令ハ明治二十三年勅令第二百七十六號官有地取扱規則第十二條及明治二十三年內務省訓令第三十六號第一條ニ違ヒタルモノニシテ本件工事カ原告及從參加人ノ町村ニ妨害ヲ與フルコトハ原告ノ參考書ト從參加人提出

ノ鑑定書ニ依リテ明カナリ又被告ハ自ラ原告等町村ヲ以テ關係ヲ有スルモノト認メタルコトハ甲第七號證原告ノ上申書ニ對シ出願者無之云々關係町村ノ意見ヲ聽キ然ル後詮議云々トノ理由ヲ以テ却下シタルヲ以テ知ルヘシ然ルニ一回ノ諮問ヲ爲サ、リシハ原告ノ權利ヲ毀損シタルモノナリト云フニ在レトモ被告ハ二十三年內務省訓令第三十六號第一條ニ據リ乙第二號證及乙第三號證ノ如ク關係町村ノ意見ヲ聞キ更ニ乙第四號證及第五號證ノ如ク土木監督署ヘ往復ヲ經妨害トナラスト認メ許可シタルモノニシテ原告提出ノ諸證ニ於テハ一モ妨害トナルヘキヲ證スヘキモノナク又原告等ハ自己ノ町村ヲ以テ右第三十六號ノ關係町村ニシテ被告モ之ヲ認メ居レリト云フモ被告ノ所謂關係町村ナルモノハ直チニ原告及從參加人ノ町村ヲ指シタルモノト認メ難ク且其意見ヲ聞クハ調査上ノ手續ニ過キサレハ被告ノ行爲ヲ違法ナリト謂フヲ得ス

○道路築立工事ハ新設工事ナリ(不當指令取消請求ノ訴)

明治二十七年第十七號
明治二十七年六月九日宣告

〔理由〕 原告ハ本件道路築立工事ハ甲第三號證縣達第二十二號第二十四條ニ該當スル復舊工事ナルカ故ニ被告ノ許可ヲ得テ後施行スヘキモノニ非スト云フト雖原告提出甲第四號證甲第五號證甲第六號證甲第七號證等ノ繪圖ハ原告若クハ原告村ノ調製ニ係ルモノナレハ原告主張

ノ事實ヲ確カムルノ證據ノ效力ナキモノトス又原告ニ於テ地券發行ノ際調製シタル村繪圖ナリト稱スル甲第八號證及ヒ地租改正ノ際調製シタリト稱スル甲第十一號證圖面ヲ閱スルニ兩圖共ニ提外ニ突出シタル朱線アルヲ以テ事實河原地ニ通行シ得ルノ道路アリタリト爲ヌヲ得ルモノ之ヲ以テ從來築立タル道路アリタルモノト認定スルヲ得ヌ又甲第九號證甲第十號證ハ原告村ニ關係アル者ノ證明ナルヲ以テ確證ト爲ヌニ足ラス又參考人西久保暹三小山三右衛門西島民造三名ノ陳述アルモノ何レモ判明ナラサル申立ニ付原告主張ノ如ク從來築立タル道路アリタルモノト認ムルヲ得ヌ依テ本權所爭ニ係ル道路築立工事ハ第三號證縣達第二十二號第二十四條ニ該當スル復舊工事ニ非スシテ同縣達第二十四條ニ該當スル新設ノ工事ニ屬スルモノトス故ニ被告ニ於テ甲第二號證ノ指令ヲ發シタルハ違法ノ處分ナリト云フヲ得ヌ

○舊來川流ヲ堰留得ル事蹟アリト認メ得ヘキ證據ナキ限リハ川流堰留流水使用ノ既得權アリト謂フ可ラス(指令取消ノ訴)

明治二十七年第七十號
明治二十八年三月十四日宣告

○既得ノ權利ヲ毀損セサル行政廳ノ指令ハ取消スヘキモノニアラス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ田地用水ノ爲メ揖斐川ヲ堰留メ流水ヲ使用シ得ルハ古來ノ慣例ニシテ被告カ其流心五間又ハ三間等ノ制限ヲ付シ全流堰留ヲ許可セサルハ原告ノ既得權ヲ害スルモノ

ナリトノ趣ヲ主張スレトモ舊來揖斐川全流ヲ堰留得ルノ慣行アリシトハ單ニ其陳述ニ止リ舉
證中其事蹟アリト認ム可キモノナキヲ以テ既得ノ權利アリト謂フ可カラス故ニ明治二十七年
八月二十日付岐阜縣指令已第六八一九號ノ指令ハ取消ス可キモノニアラス其他事實上出願及
指令ノ當時水量ノ多少等ニ關シ雙方辯論スル所アルモ必要ノ點ナキヲ以テ説明ヲ付セス

○知事カ交通上便益アリト認メ甲村ノ故障アルヲモ願ミス乙村ニ道路開鑿ヲ許
可スルモ不法ノ處分ト云フヲ得ス(土木ニ關スル不法處分取消請求ノ訴 明治二十
八年第七十號
八年十月二十四日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ本件道路ハ原告村ノ内大字山口ヲ經由スルモノニシテ其開鑿ニ係ル道敷
ハ原告村ノ管理ニ屬スルヲ以テ本村ニ直接ノ利害アル工事ナルニ被告ハ原告村ノ故障アルニ
拘ラス單ニ一部人民ノ請願ヲ容レ輒スク之ヲ許可シタルハ不法ノ處分ナリト云フト雖本件ノ
道路開鑿ハ被告知事ニ於テ交通上便益アルヲ認メ許可シタルモノニシテ又何等ノ法律規則ニ
違背スルノ點アルヲ認メス故ニ原告村ノ故障ヲ願ミス之ヲ許可シタルモ不法ノ處分ナリト云
フヲ得ス隨テ本件ノ許可ハ之ヲ取消スヘキモノニアラス其他雙方辯論スル所アルモ必要ナキ
ヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

○縣道改修ニ付キ其路線ヲ選定スルハ縣知事カ職權ヲ以テ調査決定スヘキモノ
トス(路線變更ノ訴 明治二十九年第九十二號
明治三十年二月十三日宣告)

○縣道改修ノ爲メニ一個人ノ土地ヲ收用スルハ違法處分ニ由ル權利ノ毀損ニア
ラス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ縣會ノ決議ニ依ルトキハ費用少クシテ通路ニ便ナル線ヲ選定スヘキモノ
ナルニ之ニ反シ費用多クシテ通路ニ不便ナル線ヲ選定シタルハ違法ニシテ又之カ爲メ原告ノ
所有地ニ潰レ地ヲ生シタルハ權利ヲ毀損シタルモノナリト云フト雖路線選定ハ專ラ行政上調
査決定スヘキ事件ニ屬シ其改修費額ノ如キモ工事施行ノ方法ニ基ク結果ナレハ違法ノ處分ナ
リト謂フヲ得ス且路線決定ノ上ハ之ニ要スル土地ノ收容ハ公用ニ供スルモノナルヲ以テ違法
處分ニ由ル權利毀損ナリト謂フヲ得ス其他雙方辯論スル所アルモ裁判ニ必要ナキニ因リ説明
セス

○縣知事カ治水上支障アリト認メテ新築堤防ノ撤却ヲ命シタルハ不當ニアラス
(不當命令取消ノ訴 明治二十八年第九十五號
明治三十年六月三十日宣告)

〔理由〕 本件所争ノ要點ハ早出川沿岸原告等共有地ニ於ケル新堤ノ築造ハ治水上支障アルヤ

否ニ在リ而シテ原告ハ治水上益アルモ害ナキ旨ヲ主張スト雖鑑定人ニ於テ堤防ノ新築ハ學理上無論治水上ニ支障ナキモノト認定スル能サル旨ヲ明言スルノミナラス昨年七月ハ洪水ノ際新築ノ對岸ニ於テ缺壞ヲ生シタルハ實地檢證ノ結果ニ於テ爭フヘカラサル所ナリ然ルニ尙原告ハ缺壞ハ洪水ノ結果ニシテ新堤築造ノ爲ニアラスト云フト雖缺壞ノ箇所ハ從來ノ洪水ニ於テ未タ曾テ崩壞シタルコトナシトノ事實又新築堤防ノ爲ニ川敷ノ狹隘ヲ來シタルノ事實ニ徴スレハ單ニ洪水ノミナラス新堤ノ築造モ亦缺壞ヲ生シタル一大原因ナリト認定セサルヘカラス然レハ被告カ治水上支障アリト認メ新堤ノ撤却ヲ命シタルハ不當ノ處分ナリト謂フヲ得ス

○縣知事ハ用水路ノ興廢ヲ許否スルノ職權ヲ有ス(不當命令取消ノ訴 明治三十年月十五日宣告)

○許可ヲ受ケスシテ新設シタル用水路ヲ舊形ニ復スヘキ旨ノ命令ヲ縣知事カ發シタルハ適法ナリ(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ主張スル要點ハ明治二十八年十月富山縣訓令第三百二十二號ハ町村役場ニ對スル制裁ナキ形式上ノモノニシテ被告カ之レニ原キ發シタル復舊命令ハ遵守スルノ義務ナク又所有權ヲ侵サル、コトナシトハ憲法ノ保障ナリト云フニ在レトモ被告ハ用水路ノ興廢ヲ

許否スル職權ヲ有スルコト乙第四號證ニ依テ明ナリ然ラハ被告カ本件用水路ノ新設ヲ許可セサル結果トシテ舊形ニ復セシムヘキ命令ヲ發シタルハ其職權内ニ存スル相當ノ處分ナリト謂フヘク隨テ原告ハ訓令ニ制裁ナキヲ理由トシテ該命令ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

○明治八年太政官達第二十九號ニ基キ廣ク人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルカ爲メニ縣知事カ其職權ヲ以テ發シタル縣令ハ今尙有效ナリ(不法命令取消工事復舊請求ノ訴 明治三十二年第七十七號 明治三十二年十月二十三日宣告)

〔理由〕 第一原告ハ明治二十四年岐阜縣令第二十七號ハ一片ノ命令ヲ以テ所有權ヲ侵害スルモノニシテ憲法上之ヲ有效ト認ムルヲ得ス而シテ本件ノ處分ハ其無効ノ縣令ニ基キ爲シタルモノナレハ不法ナリト云フト雖モ明治二十四年岐阜縣令第二十七號ハ無効ナリト云フト得ス何トナレハ所有權ノ侵スヘカラサルハ原告陳述ノ如クナルモ法令ヲ以テ之ヲ制限シ得ルコトハ法ノ認ムル所ナレハナリ憲法第七十六條ニ「法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有ス」トアリ而シテ明治八年太政官達第二十九號ニハ廣ク人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スヘキノ規定アレハ岐阜縣令第二十七號ノ如キハ當然被告ノ職權ニ屬スル命令ナルヲ以テ之ニ基キ被告カ爲シタル本件ノ處分ハ

違法ニアラス第二原告ハ假リニ該縣令ハ有效ナリトスルモ原告カ爲シタル盛土工事ハ水利上有害ナルモノニ非サル旨陳辯スルモ原告村近郷ノ地勢タル大體東北方ヨリ西南方ニ向ヒ漸次低下シ地盤ノ傾斜セルコトハ明ナル事實ニシテ本件ノ如ク堤形盛土工事ヲ爲ストキハ水利上近郷諸村ニ影響ヲ及ホスヘキハ當然ナルヲ以テ該工事タル田地ヲ畑地ニ變換セントノ目的ナルト又惡水防止ノ目的ニ出テタルトフ間ハ右縣令第二十七號ニ違反スルコト明確ナリ從テ被告ノ處分ハ違法ナリト云フヲ得ス

○水車新築ノ許可ニハ堰埭設置ノ許可ヲ包含セス(堰埭取拂命令取消ノ訴 明治三十二年第七十三號)

二年十二月十一日宣告

○水車ヲ運轉スル爲メ官有地ニ堰埭ヲ設置スルニハ當該官廳ノ許ヲ受クルコトヲ要ス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ明治二十四年宮崎縣令第五十一號河川港灣取締規則ニ依リ水車新築ヲ出願シ被告モ亦之ヲ許可シタルニ由リ營業ヲ爲シ來リタルモノナリ而シテ水車ニ要スル堰埭新設ハ當然之ニ附屬スヘキモノナレハ該許可ニ包含セラレタルモノナルニ被告カ明治三十二年三月十八日北諸縣郡都城町大字宮九字前田用水路へ施設セル堰埭ハ本廳ノ許可ヲ得ス漫リニ

設置シタルモノニ付取拂フヘシト爲シタル命令及警察官ヲシテ之ヲ取拂ハシメタルハ水車營業ノ許可ヲ得テ行使シ來リタル其權利及水利ニ關シ原告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト云フト雖モ凡ソ水車ヲ設置セントスルニハ必スシモ堰埭ヲ設ケサルヘカラストノ理由ナケレハ水車設置ニハ堰埭ハ當然之ニ從伴スヘキモノナリト云フヲ得ス左スレハ水車新築ノ許可ヲ得タレハトテ之ニ堰埭設置ノ許可ヲモ包含スルモノト認ムル能ハス故ニ原告ニ於テ水車運轉上必要ト認メ本件ノ如キ官有地ニ特ニ堰埭ヲ設置スル場合ニハ更ニ之カ許可ヲ受ケサルヘカラス而シテ甲第一號證ハ水車新築願ニシテ堰埭設置ノ願意アル文詞ナキヲ以テ被告ノ與ヘタル許可ハ單ニ水車新築ニ對スルモノナルニ付キ原告カ本件堰埭ヲ設ケタルハ全ク許可ヲ得スシテ爲シタル工事ニ係ルモノト云ハサルヘカラス故ニ被告カ無許可ノ工事トシテ本件爭訟ノ堰埭ヲ取拂ハシメタルハ原告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト謂フヘキモノニアラス其他雙方辯論スル所アルモ判決ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ付セス

○明治二十三年十月内務省訓令第三十六號ハ下級官廳ニ對スル命令ニシテ人民ニ對シ其效力ナキモノトス(伏木港川尻公有水面埋立許可取消請求ノ訴 明治三十三年第九十號)

三年十月二十六日宣告

○縣知事カ明治二十三年十月内務省訓令第三十六號ニ違ヒテ公有水面埋立ノ許可ヲ與フルモ人民ハ之ヲ違法トシテ其取消ヲ求ムルコトヲ得ス(同上)

○〔理由〕原告ハ被告カ川尻公有水面埋立ヲ許可スルニ際リ新湊町會ノ意見ヲ聞カサルハ明治二十三年十月内務省訓令第三十六號ニ違背スルモノニシテ隨テ違法ノ處分ナリト云フト雖右訓令ハ下級官廳ニ對スル命令ニシテ人民ニ對シテ効力ナキモノナレハ假ニ被告ニ於テ之ニ違ヒタリトスルモ原告ハ之ヲ違法トシ該處分ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス又原告ハ射水川沿岸ノ漁業者ハ川尻ヲ漁業區域ノ中ニ指定シテ捕魚ノ許可ヲ得日々之ニ從事シ居レハ該水面埋立ニ依リ漁業ヲ失フニ至ルト云フト雖原告提出ノ甲第二號證漁業願添附圖ヲ見ルニ漁業ヲ許可セラレタルハ落合川中朱線ヲ引キタル場所ノミニシテ其區域川尻公有水面マテニ及ハサレハ是亦本件處分ヲ不當トスル理由ト爲スニ足ラス尙原告ハ其訴狀ニ於テ新湊町カ右内務省訓令ノ關係町ニ該當スルモノナルコト及ヒ本件處分カ原告ノ土地所有權ヲ侵害シ且營業ノ自由ヲ制限若クハ剝奪スルモノナルコトヲ縷陳スルモ既ニ前項ニ説明スル如ク假令被告ニ於テ關係町村ノ意見ヲ聞カサルモ之ヲ違法ト爲ス能ハスト決定シタル上ハ此點ハ本件裁判上必要ナキ問題ナルヲ以テ之ヲ審査セス

○堤防敷地外官有地ノ拂下(水利及土木ニ關スル件) 明治三十三年第二百二十二號
明治三十四年二月一日宣告

〔理由〕本件所爭ノ要點トシテ被告ハ本件ノ如キ行政訴權ノ要素ヲ具備セサルモノニ在テハ原告ニ訴權ナシト主張スルモ果シテ原告ノ使用ニ係ル營造物タル堤防敷地ヲ他人ニ拂下ケタルモノナリセハ原告ニ對シテ其處分ヲ爲シタルニアラサルモ則チ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタルモノナレハ原告ニ訴權ナシト云フヲ得ス然ルニ原告ニ於テ堤防敷地ハ左右兩岸トモ幅八間ナリト主張シ甲第一號及第二號證ヲ以テ立證セントスルモ甲第一號證ハ會テ行政廳ニ提出シタルコトアルヤ判明セサルノミナラス甲第二號證附箋ノ如キハ後日任意ニ作成シタルモノナルヤ知ルヘカラサレハ確實ナル證據ト認ムルヲ得ス而カモ乙第一號證及第三號證ノ反別ハ甲第二號證附箋ノ下ニ記載シアル反別ニ符合シ乙第二號證改租圖及第四號證地押調査圖ハ甲第三號證圖面ト相一致スルヲ以テ之ヲ觀レハ被告カ右岸六間左岸七間ノ堤防敷地ヲ除キ堤外官有地ニ係ル豫約拂下願ヲ許可シタルハ違法ノ處分ニアラサルヲ以テ取消スヘキ理由ナキモノトス尙原告ハ被告ノ處分ニ由リ土木工事ニ必要ナル土取場ヲ失フタリト云フモ是レ單ニ一片ノ陳述ニ止マリ毫モ證明スヘキモノナキヲ以テ採用セス

○公益上障害ナキニ拘ハラス他ニ同一事業ヲ營ム者アルヲ理由トシ流水ヲ利用

シテ電力ヲ發生セシムル爲メニ出願シタル河川引用願ヲ却下シタルハ違法處分ナリ(指令取消請求ノ訴 明治三十三年第二百七號
明治三十四年三月二十七日宣旨)

〔理由〕 被告ニ於テ主張スル所ハ第一本件ハ長野縣河川取締規則第一條ニ依リ出願スヘキモノニシテ之ヲ許可スルト否トハ縣知事ノ職權ニ屬スルヲ以テ假令不許可ノ指令ヲ爲スモ違法ニアラスト云フニ在レトモ長野縣河川取締規則ニ依レハ其第一條ニ「各川筋ニ於テ左ニ掲クル事業ヲ爲サントスル者ハ許可ヲ受クヘシ 一堤防川除其他各種工作物ノ設置改造及修繕云々」トアリ又其第四條ニ「公益上必要ト認ムルトキハ堤防川除其他各種工作物ノ取拂若クハ變更改造ヲ命シ又ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消シ云々」トアリ之ニ依テ之ヲ觀レハ同規則第一條ニ掲クル事業ハ公益上障害アリテ不許可ヲ必要トスル場合ヲ除クノ外ハ其出願ヲ許可スヘキ法意ナリト解釋セサルヘカラス然ルニ本件ニ就キ被告ノ理由トスル所ハ單ニ他ニ該事業ヲ營ム者アルヲ以テ増設ノ必要ナシト云フニ止リ別ニ公益上障害アルモノニアラサレハ被告ニ於テ之ヲ許可セサルハ違法ノ處分タルヲ免レス第二被告ハ河川引用ニ關シ原告ハ當然許可ヲ得ヘキ權利ヲ有セサルモノナルヲ以テ本件ノ處分ハ毫モ原告ノ權利ヲ毀損シタルモノニアラスト辯スルモ既ニ前段ニ於テ説明スル如ク本件ノ事業ハ公益上障害ナキ限ハ原告ハ當然許可ヲ得ヘキモノナルヲ以テ之ヲ權利ノ毀損ニアラスト謂フヲ得ス

○川堰工事ノ不許可處分違法處分取消ノ訴

明治三十三年第二百五號
明治三十四年五月十三日宣旨

〔理由〕 原告ハ中北條村ノミニ今津堰ノ使用權アリテ數十年來全部之レヲ堰留タルモノナリト云フト雖原告カ其立證ニ供シタル甲第一二號證ニ徵スルモ其事實ヲ確實ナリト認ムルニ由ナキノミナラス乙第三號證二十六年以前ノ故形圖ナルモノニ依レハ明治二十六年以前ニハ川ノ全部ニアラスシテ其半分ヲ堰留タルモノト認メサルヲ得ヌ又原告ハ明治二十六年非常水災ノ際今津堰破壊セシヨリ地方税ノ補助ヲ被告ニ稟請セシニ甲第四號證ノ如ク實施設計ヲ添ヘ達セラレタルハ今津堰使用者ハ中北條村ナルコトヲ證明セシモノナリト云フト雖原告ニ於テモ其成立ヲ認メタル乙追第四號證二十六年水害後ノ設計書ナルモノヲ閱スルニ該設計ハ前キノ甲第四號證附屬設計書ノ分ヲ更正シタルモノナルコト明カナレハ甲第四號證設計書ニ基ク此點ニ於ケル原告ノ主張ハ之ヲ採用スルノ價值ナキモノトス以上ノ理由アルヲ以テ被告カ甲第八號證工事施行稟請ニ對シテ甲第九號證ノ如ク長五十五間六歩ヲ限リ工事ノ施行ヲ許可シ甲第十號證再稟請ニ對シテハ甲第十一號證ノ如ク工事全部施行間屆ケ難シトノ指令ヲ與ヘタルハ不當ノ處分ナリト云フヲ得ヌ其他原告ニ於テ陳辯スル所アルモ裁判上必要ナシト認ムル

ヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

○府令ヲ以テ土木工事取締規則ヲ發布シ用水井堰ノ變更工事ヲ爲スニハ府知事ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ規定シタル場合ニ在リテ許可ヲ受ケスシテ爲シタル工事ノ復舊ヲ命セラレタル町村ハ明治二十三年法律第百六號ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得(不當命令取消ノ訴 明治三十三年第三百三十三號
明治三十四年七月四日宣告)

○明治二十三年法律第百六號ニ依ル行政訴訟ハ一個人ニ限ラヌ公法人タル町村モ亦之ヲ提起スルコトヲ得(同上)

〔理由〕 第一被告及參加人ニ於テ本件ノ訴訟物件ハ町村ノ營造物ニシテ其管理事務カ町村ノ行政ニ屬スル以上ハ其監督權ハ町村制ノ規定ニ依リ上級行政廳ニ屬セサルヘカラス凡ソ行政廳ノ監督行爲ニ付テハ町村制ノ明文アル場合ノ外行政訴訟ヲ許スヘキモノニアラス而シテ井堰ノ工事ニ付町村制中出訴ヲ許シタル規定アラサルヲ以テ原告ニ訴權ナシト主張スルモ本件ノ工事ハ町村制ノ規定ニ依リ上級行政廳ノ監督ヲ受クルニアラスシテ大阪府知事ノ發シタル府令土木工事取締規則ニ依リ管轄官廳ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノナレハ町村制ニ依リ上級行政廳カ下級行政廳ノ行政ヲ監督スル場合ヲ以テ論スヘキモノニアラス而シテ水利土木ニ關

シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ明治二十三年法律第百六號ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ルヲ以テ原告ニ訴權ナシト云フヘカラス參加人ハ法律第百六號ハ公權ト私權ト衝突ノ場合ニ限り個人ヨリ出訴スルヲ得ル規定ニシテ公法人即チ町村ヨリ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノ、如ク論スレトモ該法律ニハ行政處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者云々ト規定シアレハ個人ト法人トヲ問ハス汎ク訴訟ヲ許シタルモノト解釋セザルヘカラス又被告ニ於テ原告ハ池島村村長澤井善藏ノ名ヲ以テ本訴ヲ提起シタルモ池島村村長澤井善藏ナル者ヨリ出訴スルヲ得スト云フト雖本件被告ノ命令ハ組合村長澤井善藏ニ對シ池島村村費ヲ以テ改築スヘキコトヲ命シタルヲ以テ同村ハ村會ノ決議ヲ經テ出訴シタルモノナレハ縱令職名ノ記載ニ誤謬アリトスルモ命令ヲ受ケタル池島村ニ訴權ナシト謂フヲ得ス第二原告ニ於テ被告府知事ノ命令ハ從來木造ナリシ井堰ヲ石造ニ改メタルハ府令ニ違背スト云フニ止マルヲ以テ府令第一條ノ事業變更云々ニ該當セスト主張スルモ該命令ノ末文ニ原形ニ復舊スヘシ且原形ノ構造ハ云々ト記載シアルヲ以テ該命令ハ石造ヲ木造ニ改メシムルノミナラス尙構造ヲ變更セシムルノ旨趣ナルコトヲ知ルニ足ル而シテ原形ノ戸前柱及控柱ハ七寸二分角

タルヘシトアルニ對シ現在井堰ニハ控柱ナク且戸前柱ハ一尺二寸以上ナレハ新舊構造ノ相異ナルハ疑ヲ容ルヘカラス又舊井堰ノ柱ハ七寸二三分ニシテ控柱モアリシコトハ乙第二號第三號第四號證ニ依リ明瞭ナレハ本件ハ府令第一條ノ事業變更ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラヌ故ニ被告カ該府令ニ依リ本件ノ訓令ヲ發シタルハ相當ナリ然レトモ該訓令中堰板ノ高ハ川底ヨリ三尺三寸ト爲スヘシトノ命令ハ果シテ古例ニ依リタルモノナルヤ否立證上明瞭ナラス被告及參加人ハ乙第一號證ニ依リ之ヲ證明セント欲スルモ同證ハ明治十五年六月二十日附福万寺村戸長藤岡甚三郎ノ照會書ニ對シ池之島村戸長澤田玄三郎カ即日古例ノ通三尺三寸ヨリ高張不仕云々ト回答シタルモノ、如クナルモ此ノ如キ一村ノ利害ニ關スル事件ニ付村民ノ意見ヲモ徵スルナク戸長一己ノ意見ヲ以テ輕々ニ回答シタルモノナレハ證書自體ニ信ヲ置クコトヲ得ス隨テ戸長カ原告村ヲ代表シテ該村ノ意思ヲ發表シタルモノト認定スルヲ得ヌ又甲第十一號證ニ於テ參加村長村尾景命カ從來ノ木堰ノ高サハ戸板一尺幅ノモノ五枚即川底ヨリ五尺以上ニ至ル能ハサラシメタル構造ナリ云々ト陳述シ此陳述ニモ被告及參加人ノ主張スル如ク容易ニ信ヲ置ク能ハサルモ井堰カ從來三尺三寸張ト確定シ居ラサリシ事實ヲ推測スルニ足ル故ニ被告カ原形ノ通り三尺三寸張ニナスヘシトノ命令ハ根據ナキモノトス而シテ原告ノ原

形ハ五枚張ニシテ高サ六尺少クモ五尺五寸ナリトノ主張モ亦不當ナリ原告ハ甲第三號第四號第五號第八號等ノ諸證ニ依リ之ヲ證明セント欲スルモ該證ニハ五枚又ハ四枚ノ處又ハ二枚取除キ吳レ云々トアルノミニシテ堰板ノ幅ヲ記載セサルノミナラス該證ハ參加村カ原告村ノ四枚若ハ五枚張ノ權利ヲ認諾シテ發シタルモノトモ認ムル能ハサレハ之ヲ以テ堰ノ高サヲ知り得サルノミナラス四枚張若ハ五枚張カ原形ナリトノ事實ヲ認ムルヲ得ヌ故ニ原告ノ主張ハ理由ナキモノトス

○甲村カ乙村ノ村界ニ跨リ橋梁ヲ架設セントシ其許可ヲ出願シタル場合ニ於テ府縣知事ヨリ乙村ノ承諾ヲ求ムヘキコトヲ規定シタル法令ナシ(不法橋梁工事取除請求ノ訴 明治三十三年第二百九號 明治三十四年十月二十三日宣告)

(理由) 原告ニ於テハ本件橋梁ノ工事ハ名ハ橋梁ナルモ實體ニ於テハ門樋堰埭工事ナリト云フモ該橋梁ノ構造ヲ按スルニ其橋柱ハ石材ヲ使用シ東西詰各上流ノ第一ニ於テハ上流ニ面シ側面ニ寸四分平面ニ寸六分ノ切欠ヲ設ケ又其中央上流第一ニ於テモ上流ニ面シ左右側面ニ寸八分平面ニ寸五分ノ切欠アルコトハ原告被告ヨリ提出シタル實地検査調書ニ徵シ明カナリ然レトモ其他ノ點ニ於テハ甲第十一號證及乙第二號證ニ依リ之ヲ視ルモ普通橋梁ノ構造ト大差ア

ルコトナシ而シテ該切欠ノ爲メ用水汎溢ノ際ニ當リ水流ヲ堰切リ得ヘキコトハ切欠ナキ普通
 橋梁ノ構造ヨリ多少便利ナルヘキコトハ之レヲ認メ得ヘキモ該石柱ニ切欠アルノ狀況ト橋脚
 ノ中間ニ筋違木ヲ設置シ舊來ノ橋梁ノ幅ヨリ一尺ヲ廣ケ之ニ通スル道路ノ幅ヨリ一間ノ廣サ
 ヲ有スル等ノ構造ニ參照スルモ未タ之ヲ以テ本件橋梁ハ原告ノ主張スル如ク門樋堰埭工事ナ
 リト認ムルヲ得ス然ラハ原告カ引用スル茨城縣令甲第二十七號第二條第二ニ樋管堰埭トアル
 ニ該當セサルヲ以テ被告ノ處分ハ該縣令ニ違背スルモノニアラストス又原告ハ本件橋梁ハ文
 村ニ於テ原告村ノ地籍ヲ侵シ架設シタルモノニシテ如斯場合ハ被告ハ原告村ニ諮問シ其承諾
 ヲ要スヘキモノナルニ無斷ニ文村ニ之レカ架設ヲ許可シ工事ヲ爲サシメタルハ原告ノ權利ヲ
 傷害スル違法處分ナリト云フモ本件ノ如キ場合ニ於テ被告ハ原告村ノ承諾ヲ要スヘキトノコ
 トハ法律上何等ノ規定ナケレハ被告カ職權ヲ以テ交通上便利アリト認メ之カ架設ヲ許可シタ
 ル被告ノ本件處分ハ違法ニアラス左スレハ假令原告カ橋梁架設ノ權利ヲ侵害セラレタリトス
 ルモ本件請求ノ理由ト爲スニ足ラヌ又原告ハ本件ノ如キ橋梁工事ハ水流遮斷ノ用ニ供シ得ヘ
 キモノナレハ現實原告村ニ水害ヲ惹起サハルモ水害ヲ惹起シ得ヘキ處アルヲ以テ原告村自衛
 ノ權利ヲ侵害セラレタリト主張スルト雖モ是等ハ一ノ臆測ニ過キスシテ被告カ爲シタル本件

橋梁架設ノ許可ニシテ違法ナラサル上ハ之ヲ以テ原告ノ權利ヲ毀損セラレタルモノト云フヲ
 得ス被告ハ本件訴訟ハ具申書提出ノ日ヨリ出訴期間ヲ起算スヘク請願書却下ノ日ヨリ之ヲ計
 算スヘキモノニアラスト抗辯スルモ具申書ノ如キハ被告カ本件橋梁架設ノ許可ヲ文村ニ指令
 シタルニ對シ原告ヨリ其指令解除ヲ求メタルニ過キスシテ本件請求ノ趣旨ト其目的ヲ異ニシ
 請願書ハ本件橋梁工事取除ノ命令ヲ請願シタルニアルヲ以テ請願書ノ却下ヲ以テ本件橋梁工
 事取除請求ニ關スル處分ナリト認メサルヲ得ス然ラハ即チ其却下ノ日即チ明治三十三年八月
 十四日ヨリ出訴期限ヲ起算スヘキモノナルニ付被告カ出訴期限經過ノ抗辯ハ採用スルヲ得ス

○民法第二百十四條及ヒ第二百十九條ノ規定ハ公有河川ナル水流ノ場合ニ適用
 スヘキモノニアラス(堤防上置工事不當認可取消請求ノ訴 明治三十四年第四百六十三
 號)

〔理由〕 按スルニ(第一)被告カ本訴上置工事ヲ認可シタル爲メ縱使ヒ將來原告居村ニ浸水ヲ
 増加シ原告ニ損害ヲ蒙ラシムルコトアリトスルモ被告ノ認可シタル上置工事ハ次ニ説明スル
 如ク違法トスヘキモノニアラサレハ之レカ爲メ原告損害ヲ受クルコトアリトスルモ之ヲ以テ
 原告ノ權利ヲ傷害シタルモノト云フヲ得ス(第二)郡市町村土木規則第二條ニ形體伸縮工事ト

アルハ堤防等ノ形體ヲ變更スルノ意義ナレハ單ニ幅員ヲ増加スルノ意義ト認メ難ク本訴上置
 工事ノ如キモ亦包含セルモノト解釋セサルハカラサレハ被告カ該止置工事ヲ認可シタルヲ以
 テ右土木規則ニ違背シタリト云フヲ得ス(第三)民法第二百十四條第二百十九條ハ本件ノ如キ
 公有河川ナル水流ノ場合ニ適用スヘキモノニアラサレハ被告カ本訴上置工事ヲ認可シタルヲ
 以テ該法規ニ違背シタリト云フコトヲ得ス其他被告カ該上置工事ヲ認可シタルヲ以テ違法及
 ヒ原告ノ權利ヲ傷害シタリト認ムヘキ點ナキモノトス

○公共ノ河身ニ關係アル工事ハ總テ出願ノ上許可ヲ受シヘキ旨ヲ定メタル縣令
 アルニ拘ハラズ設計書及ヒ圖面ヲ添へ出願シテ許可ヲ得ヘキ手續ヲ爲サス擅
 ニ之ヲ施設シタル場合ニ於テ知事カ該縣令ニ依リ爲シタル木石工事取拂ノ命
 令ハ不當ニアラス(不當命令取消請求ノ訴 明治三十四年第二百五號
 明治三十五年十二月二十五日宣旨)

〔理由〕 按スルニ原告ノ甲第一號證明治二十四年縣令第四十四號ハ治水堤防ノ儀ハ最モ忽ニ
 スヘカラサル事業ノ處其設計ノ完全ナラサルヨリ一朝出水スレハ忽チ欠壞流亡シテ其效ヲ全
 フスル能ハサルノミナラス却テ河身ヲ亂流シ延ヒテ他ニ禍害ヲ及ホスモノ往々不尠ニ依リ爾
 來起工セントスル時ハ在來ノ堤防護岸復舊修繕等河身ニ關係セザルモノヲ除クノ外總テ詳細

ナル設計書及ヒ圖面ヲ添へ本廳へ出願許可ヲ得ヘシトアリテ公共ノ河身ニ關係アル工事ハ總
 テ出願シテ許可ヲ受クヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ本件係爭營造物所在地ハ實地ノ狀況ニ徴
 スルモ河身ノ區域ニ包括セラレタルコト明瞭ナレハ該工事ハ縣令第四十四號ノ規定ニ據ルヘ
 キモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原告ハ右營造物所在地ハ共有ノ民有地内ナルコトヲ主張ス
 ト雖其地盤ノ何人ノ所有ニ屬スルヤ否ヤハ別個ノ問題ニ屬シ本件縣令ヲ適用スヘキヤ否ヤヲ
 定ムル上ニ於テ必要ナキモノトス又原告ノ施設シタル木石工事ハ原形ノ據ルヘキモノナク全
 ク新設ニ關ルモノナレハ復舊ノ事業ト認メ難シ之ヲ要スルニ原告ハ當初設計書及圖面ヲ添へ
 出願シテ許可ヲ得ヘキ手續ヲ爲サス擅ニ之ヲ施設シタルモノナレハ被告カ該縣令ニ依リ爲シ
 タル木石工事取拂ヒノ命令ハ不當ナリト謂フヲ得ス

○明治三十三年千葉縣令第三十號ハ公共ノ用ニ供スル用惡水路等ニ適用スヘキ
 趣旨ノモノニシテ其水敷及ヒ沿岸所有者ノ如何ヲ問ハス擅ニ變更スルコトハ
 該縣令ノ許サ、ル所ナリ(水路復舊不法命令取消ノ訴 明治三十五年第二百二十九號
 明治三十六年一月二十七日宣旨)
 〔理由〕 原告ハ本件係爭ノ水路即チ須賀村大字高字北ノ後畑六百七十番六百七十二番六百七
 十一番六百七十六番ノ間ヲ横斷シテ西ヨリ東ニ流ル、水路ハ其東西ニ接續スヘキ水路ナク單

ニ孤立シテ此間ニ介在セル一小水路タルニ過キズシテ實ハ水溜トモ名クヘク水路ト稱スヘキモノニ非ス而シテ右畑地ハ總テ原告ノ所有ニ係リ該水路ヲ爲メ耕耘上不便ナルヲ以テ明治二十九年十月之ヲ南方ニ變更シタル所種々紛議ヲ生シタル末仲裁スル者アリテ更ニ北ノ道ニ沿ビ一線ノ水路ヲ新設スルコトニ決シタルニ依リ之ヲ實行シ明治三十三年十一月十九日ヲ以テ村長ニ届出タリ然ルニ被告郡長ハ此水路變更ヲ不當ナリトシ甲第八號證一、二ノ如ク之ヲ原形ニ回復スヘキコトヲ命令シ且戒告シタル後終ニ自ラ舊水路ニ回復シ其費用ヲ徵收シタリ是レ不法ノ處分ナルヲ以テ被告カ與ヘタル水路回復ノ命令及戒告ヲ取消スヘシトシ裁判ヲ請フト云ヒ被告ハ原告ノ主張ヲ否認シ本件水路ハ純然タル水路ナルコトハ勿論水利上ノ關係甚々大ニシテ之ヲ擅ニ變更スルコトヲ得サルハ法令ニ依リ明ナルヲ以テ原形回復ノ命令及戒告ヲ爲シタル次第ニテ毫モ不法ニ非ス依テ原告ノ申立相立タストノ裁判ヲ請フト答辯セリ按スルニ本件係争ノ水路ナルモノハ水溜ニアラスシテ純然タル水路ナルコトハ其東西ノ關係ヨリ觀察シ實地ノ形狀ニ於テ明ナリ而シテ該水路ハ水利上其附近殊ニ東西ノ地所ニ關係ヲ有シ古來公共ノ用ニ供セラレタルモノナルコトハ其前後左右ニ於ケル排水ノ狀況ニ依リ乙號諸證ヲ參照シ之ヲ確認スルニ足ル然リ而シテ明治三十三年千葉縣令第三十號ハ公共ノ用ニ供スル用惡

水路等ニ適用スヘキ趣旨ノモノニシテ其水敷及沿岸所有者ノ如何ヲ問ハズ擅ニ變更スルコトハ該縣令ノ許サ、ル所ナルヲ以テ被告カ之ヲ適用シ本件ノ處分ヲ爲シタルハ不法ナリト云フヲ得ス原告ハ該縣令ヲ既往ニ遡ラシメ或ハ明治二十九年十月以前ノ水路ニ復舊シタルハ不法ナリト云フモ被告ハ明治三十三年十一月十九日届出タル水路變更ニ對シ處分シタルモノニシテ明治二十九年十月中原告カ一時變更シタル如キハ公然ノ變更ト認メ難キノミナラス既ニ消滅シタルモノナレハ被告カ本件ノ復舊處分ハ不法ニ非ス又原告ハ民法第二百十九條ヲ引用シ論スル所アルモ前段ニ於テ説明シタル如ク本件水路ハ既ニ古來公共ノ用ニ供セラレタルモノト認メタル以上ハ其論旨ハ本件ノ場合ニ適用スルヲ得サルモノトス其他原告ノ陳辯及證據トシテ提出スルモノアルモ裁判上必要ナキヲ以テ説明スルノ限ニアラス

○河川取締ノ爲メニ設ケタル縣令ニ於テ知事カ公益上必要ト認ムルトキハ工作物ノ取拂若クハ既ニ與ヘタル許可ノ取消ヲ命シ得ヘキコトヲ規定セル以上ハ公益ヲ害スルノ程度甚シカラスシテ工作物ノ取拂若クハ許可ノ取消ヲ命スルニ至ラサルモノト認ムル場合ニ於テ之ヨリ輕キ河川浚渫ヲ命シ得ヘキハ當然ナリ(水利ニ關スル不當命令取消請求ノ訴 明治三十五年第二百二十三號 明治三十六年四月十一日宣告)

〔理由〕原告ハ古來ヨリ字大清水ナル水流ニ水門ヲ設ケ水車營業ヲ爲ス者ナルニ被告長野縣知事ハ明治三十五年四月二十九日付ヲ以テ原告ニ對シ「諏訪郡下諏訪町字大清水ニ設置セル水車湛ハ漸次泥土ヲ沈澱堆積シ河床ヲ高メ出水ノ場合ニハ沿岸耕地ニ氾濫セシムルノ虞アルモノト認ムルニ付年々河床ノ浚渫ヲ爲シ又出水ニ際セハ直ニ該湛ヲ撤去ス可シ」トノ命令ヲ下シタルモ該命令ハ不當ナルニ依リ之ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト云ヒ被告ハ該命令ハ明治三十年長野縣令第五十二號河川取締規則ニ依リ與ヘタルモノナレハ不當ニアラス依テ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト答辯シ而シテ原告ノ理由トスル所ハ第一字大清水ノ水流ハ舟筏ノ通ス可キ河流ニアラスシテ單ニ灌溉用ノ細流ニ過キサルカ故ニ河川法ニ依ル可キモノニアラス然ルニ被告カ河川規則ニ依リ本件ノ命令ヲ下シタルハ不當ナリト云フモ河川取締規則第一條ニハ「各川筋ニ於テ左ニ掲クル事業ヲ爲サントスル者ハ云云」トアリテ舟筏ノ通ス可キ河川ト否ラサルモノトノ區別ヲ爲サス依テ縣知事カ本件ノ水流ニ對シ河川取締規則ヲ適用シタルハ不當ニアラス第二水門ノ爲メ土砂ノ堆積スルハ事實ニアラス隨テ縣知事ノ認定ハ不當ナリト云フモ水門ヲ設ケ河水ヲ湛フルトキハ水流ノ速度ヲ遲緩ナラシムルヲ以テ勢ヒ其上流ニ於テ土砂ノ沈澱堆積ヲ來シ隨テ河床ヲ高ムルハ當然ノ結果ナリ依テ縣知事ノ認定ハ不當ト云フヲ

得ス第三假リニ水門ノ爲メ土砂ヲ堆積シタリトスルモ其救濟方法ハ民法上ノ關係ニ屬スルモノニシテ行政權ヲ以テ處分シ得ヘキモノニアラスト云フモ縣知事ニ於テ土砂ノ堆積スルヲ公益ニ害アリト認メタル以上ハ河川取締規則ニ依リ行政上適法ノ處分ヲ爲スハ相當ノ點ト云ハサルヲ得ス第四明治三十年縣令第五十二號（河川取締規則）及同三十三年縣令第七號中河床ノ浚渫ヲ命シ得ヘキ明文ナシ然ルニ縣知事カ原告ニ對シ本件ノ命令ヲ下シタルハ不法ナリト云フモ該命令ハ曩ニ縣知事ニ於テ原告ニ許可シタル水門設置ノ爲メ其上流ニ土砂ノ沈澱堆積ヲ來シ隨テ河床ヲ高メ沿岸ノ耕地ニ河水氾濫ノ害ヲ蒙ラシムルノ虞アルモノト認メ之カ復舊ヲ命シタルニ外ナラス而シテ地勢ノ狀況ヨリ考フレハ被告ノ認定ハ相當ナルモノトス然ラハ公益上必要ト認ムルトキハ工作物ノ取拂若クハ既ニ與ヘタル許可ノ取消ヲ命スルヲ得ヘキコトハ河川取締規則第四條ノ明ニ規定スル所ナリ而シテ公益ヲ害スルノ程度甚カラスシテ工作物ノ取拂若クハ許可ノ取消ヲ命スルニ至ラサルモノト認ムルトキハ公益保護ノ爲メ其取拂若クハ許可ノ取消ヨリ輕キ浚渫ヲ命スルヲ得ヘキハ當然ナルヲ以テ被告ノ處分ハ不法ナリト云フヲ得ス第五假リニ縣知事ノ命令ハ其職權内ニ在リトスルモ該命令ハ浚渫スヘキ區域時季及程度等ヲ明示セス隨テ遵守スルニ由ナキモノナリト云フモ原告ハ此等ノ點ニ付曩ニ縣知事

ニ伺書ヲ提出シ其回答ヲ得テ區域時季及程度等ヲ了知セル者ナルヲ以テ遵守スルニ由ナキモノト云フヲ得ス

○明治三十一年七月兵庫縣土木起工規則第一條ハ同規則發布前ノ既存工事ナルト否トニ拘ハラズ新築變更共ニ土木工事ヲ起ス場合ニ於テハ許可ヲ受クヘキコトヲ規定シタルモノトス(不當命令取消請求ノ訴 明治三十五年第五百五十六號 明治三十六年五月七日宣告)

〔理由〕原告ハ係争石造樋門柱及石垣工事ハ甲號證ノ如ク明治三十一年七月五日兵庫縣土木起工規則發布以前既ニ存セシ木質造物ヲ變更シテ石質造物ト爲シタルモノナレハ同規則ニ依リテ仕様換ノ許可ヲ受クルヲ要セサルモノナリ然ルニ被告ハ該工事ヲ以テ同縣土木起工規則ニ違反セルモノトシ撤去處分ヲ爲シタルハ違法ナルニ付之カ取消ヲ求ムト主張シ被告ハ原告ニ於テ係争ノ工事ハ兵庫縣土木起工規則發布前既設ノモノナリト云フト雖モ乙號證ノ如ク此ノ如キ事實ナキハ明カナルヲ以テ同工事ハ同規則ニ依リ許可ヲ受クヘキモノタルコトハ必然ナリト答辯セリ按スルニ明治三十一年七月五日附兵庫縣土木起工規則第二條ハ私人ニ於テ港灣堤防道路橋梁溜池用悪水路井溝樋管堰埭其他一般ノ交通水利ニ關係アル土木工事ヲ起サントスルトキハ工事仕様書實況圖面等ヲ添ヘ別紙第二號様式ニ依リ願出テ許可ヲ受クヘシ

トアリテ其許可ヲ受クヘキ工事ハ新築ノ場合ノミニ限リタルモノト認ムヘキニ非ス同規則ニ附帶スル第一號様式ニ於テ新築變更併セテ其出願ノ式ヲ示セルニ依リテモ之ヲ知ルヲ得ヘシ從テ同規則發布前ノ既存工事ナルト否トニ拘ハラズ新築變更共ニ土木工事ヲ起ス場合ニ於テハ同條ニ依リ許可ヲ受クヘキモノタルヤ明カナリ然ラハ本件ハ同規則第一條ニ依リ許可ヲ受クヘキモノトス

○全ク其命令ヲ爲シタル根據ヲ異ニスルニ於テハ縱令訓令ニシテ執行上先キニ取消スヘシトノ判決ヲ受ケタル命令ト同一ノ結果ヲ生スルモノトスルモ之ヲ以テ前判決ヲ打破スル不法アリト云フヲ得ス(水利ニ關スル違法訓令取消ノ訴

明治三十四年第二百九十四號 明治三十六年七月二日宣告)

○荷モ訴訟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル以上ハ公法關係ニ屬スルト否トニ拘ハラズ又從參加人ノ名稱ヲ以テスルト否トヲ問ハズ其訴訟ニ參加スルヲ得ヘキモノトス(同上)

〔理由〕依テ按スルニ第一原告ハ本縣訓令ハ當裁判所カ爲シタル明治三十三年第百二十三號事件ノ確定判決ヲ打破スル不法ノモノナリト主張スルモ該判決ノ趣旨ハ被告カ原告ニ對シ係

争井堰ノ堰板ノ高サハ川底ヨリ三尺三寸ト爲スヘシトノ命令ハ古例ニ依リタルヤ否ノ立證ナク結局何等ノ根據ナキ命令ナルヲ以テ之ヲ取消スヘシトノ趣旨ニシテ本件訓令ハ右判決ノ後發布シタル大阪府令第八號第三十條ニ公益ニ必要ト認ムル云云トアル條項ニ依據シタルモノナレハ全ク其命令ヲ爲シタル根據ヲ異ニシ其府令ノ違法ナラサル以上ハ公益ヲ害スル場合ニ於テハ假令本件訓令ハ執行上先キノ命令ト同一ノ結果ヲ生スルモノトスルモ前判決ヲ打破スル不法ノ訓令ナリト云フヲ得ス第二係争井堰ノ上流ニアル字矢ノ耕地ハ東ニ向テ漸次僅少ノ勾配アリテ其東ヨリ西北ニ向テ同耕地ノ中央ヲ經過スル三箇ノ小流アリテ見取圖乙印ノ箇所ニ於テ恩智川ニ注下シ此流水ハ右乙印ノ所ニ於テ恩智川ニ排泄スルノ外他ニ途ナキコトハ實地ノ狀況ニ依リ明カナリ然シテ鑑定書ニ依レハ矢ノ耕地平面ノ高サハ係争井堰ヲ三尺三寸張ト爲シタル水位ヨリ以上最高キハ六寸二分其水位ヨリ以下最低キハ二寸七分其他ハ概シテ水位ヨリ僅少ノ高サヲ有スルニ過キス左スレハ係争井堰ノ堰板嵌込ノ高サヲ三尺三寸以上ノ構造ト爲スニ於テハ乙印ノ箇所ヨリ逆流灌水シ勢ヒ矢ノ耕地ノ過半ヲ浸水スルハ免カルヘカラサルモノト認ム殊ニ前掲三箇ノ流水モ其逆流ノ爲メ恩智川ニ注下スルヲ得ス益灌水シテ浸水ノ度ヲ高ムルハ實地ノ狀況ニ依リ推知シ得ルモノトス假リニ乙印ノ箇所ニ於テ堤防若クハ堰樋ノ如キヲ設備シテ恩智川ノ逆流ヲ防止スルトセシカ右流水ハ排泄ノ途ヲ失ヒ灌水シテ矢ノ耕地ヲ浸水スルニ至ルヘシ又原告ハ恩智川ニ沿フタル矢ノ耕地ハ古來ヨリ浸水ノ地ナリト陳述スルモ其主張ヲ立證スルモノナク却テ乙第五號證ノ一及乙第七號證ニ依レハ恩智川堤防ニ近接スル土地ハ中位ノ地價ヲ有スルヨリ之ヲ視レハ該耕地ハ古來ヨリ浸水シ來リシモノト認メ難シ又原告ハ三尺三寸以下ノ構造ト爲ストキハ原告村百町歩ヲ灌漑スル能ハスト主張スルモ係争井堰ニ關スル原告村ノ耕地ハ河、秀ト稱スルニ字ノ地域ノミナルコトハ原告モ自陳スル所ニシテ其二字ニ對スル係争井堰ノ水懸リ田地ハ乙第四號證乙第六號證ノ如ク四十町餘ニシテ之レニ對シテハ係争井堰ノ上流ニアル甲乙兩箇ノ吸込樋ヨリ引用灌漑スルモノニシテ該二箇ノ吸込樋ハ孰レモ三尺三寸張水位ノ以下ニアルコトハ鑑定書ニ依リ明カナレハ此吸込樋ヨリ恩智川ヲ引用シ得サルモノニアラス唯タ三尺三寸張以上ニ爲スト否ニ於テハ引用ノ水量ニ於テ其差ナキニアラサルモ原告ハ三尺三寸張ノ水位ニテ其水量ヲ以テ果シテ右河、秀ノ四十四町歩ヲ灌漑スルニ足ラストノ立證ナケレハ三尺三寸張ト爲スモ河、秀ノ田地ニ對シ水量ノ不足ヲ來スモノト認メ難シトス以上説明ノ如クナレハ被告カ公益ニ害アリト認メ本件訓令ヲ爲シタルハ相當ニシテ違法ノモノト云フヲ得ス第三原告ハ從參加人ヨリ參加申

請ヲ爲スト雖モ本件ノ如キ公法關係ニ屬スル事件ニ對シ之ヲ許可スヘキ規定ナキヲ以テ採用スヘキモノニアラスト主張スルモ行政裁判法第三十一條ニハ汎ク訴訟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ職權ヲ以テ參加ヲ爲サシメ又ハ申立ニ依リ參加スルコトヲ許可シ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ苟モ利害ノ關係ヲ有スル以上ハ公法關係ニ屬スルト否トニ拘ハラヌ又從參加人ノ名稱ヲ以テスルト否トヲ問ハス其訴訟ニ參加スルコトヲ得ヘキモノトス而シテ本件訓令ヲ取消スト否トハ係争井堰ノ堰板嵌込ノ構造ニ關係ヲ及ホシ隨テ從參加村ノ耕地ニ水利上利害ノ關係アルモノト認メサルヲ得ス故ニ原告ノ主張ハ其理由ナキモノトス

○明治三十二年奈良縣令第三十八號第一條但書ハ知事ニ於テ水利上ノ行政處分ヲ爲スニハ必スシモ關係者ノ同意ヲ要セサルコトヲ規定シタルモノトス(水利ニ關スル不當處分取消ノ訴 明治三十六年第二百五十九號
明治三十七年十月二十日宣告)

〔理由〕 按スルニ原告ハ本件新舊井堰ノ變換ニ因リ原告ニ引用スル水量ヲ減シ爲メニ原告ノ引水權ニ傷害ヲ加ヘタルコトハ工學博士小川梅三郎ノ鑑定書ニ據リ明瞭ナリト主張スト雖同鑑定書ノ趣旨ハ甲第十三號證據保全鑑定書ノ記載事項不十分ニシテ之ニ據リ舊井堰ノ水量又的確ニ算出シ難ケレハ新舊井堰ノ水量ヲ比較計算スルニ由ナシト云フニ在レハ該鑑定書ハ

原告ノ主張ヲ確ムル證據トナラス又原告ハ初瀬川筋ニアル井堰ハ古來下流村ノ同意ナクシテ妄ニ變更等ヲ爲シ得サル習慣ナリト云フモ原告ノ舉證ハ單ニ古來變更シタルコトナキヲ見ルニ止リテ變更ヲ爲シ得ストノ證據ニアラサルノミナラス明治三十二年奈良縣令第三十八號第一條ノ但書ニ依レハ「但關係町村若クハ關係者ニ於テ連署ヲ拒絕スルモノハ其理由ヲ別紙ニ詳記シ添附スヘシ」トアリテ關係者ノ意見ニ拘ラス水利上ノ行政處分ヲ爲スニトアル場合ヲ規定シタルニ據テ見ルモ原告ノ主張ハ之ヲ認ムルヲ得サルモノトス其他原告ハ新舊井堰水量ノ比較方法トシテ舊井堰復舊假工事ニ付申請スル所アルモ前顯説明スル如ク證據保全鑑定書ハ其記載事項不十分ニシテ之ニ據リ舊形ヲ正確ニ認識スルコトヲ得サルモノナレハ原告ノ申請ヲ採用スルヲ得ス

○明治三十二年兵庫縣令土木起工規則第十三條ハ許可ヲ受ケスシテ第一條ノ工事ヲ起ス(中畧)トキハ起工者ノ費用ヲ以テ實地原形ニ復サシム云々ト規定セルカ故ニ工事ノ既成ナルト未成ナルトニ論ナク原形ニ復セシムルコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス(不法命令取消請求ノ訴 明治三十六年第四百十九號
明治三十八年五月三十日宣告)

○縣知事ハ管内ノ行政事務ニ付其職權ニ依リ縣令ヲ發スルコトヲ得ルハ地方官

官制ノ定ムル所ナレハ一般ノ水利ニ關係アル工事ニ付縣令ヲ發スルハ其職權ノ範圍内ニ屬スルモノトス從テ該縣令ニ基キ發シタル命令ハ正當ナリトス(同上)

〔理由〕 原告陳述ノ要旨ハ原告ハ兵庫縣川邊郡神津村ノ内小坂田村神畑七十番地ニ於テ養魚池ヲ作リシニ被告ハ原告等四名カ共謀シテ湧水池ヲ築設シタルト稱シ明治三十六年七月三日附ヲ以テ不當ニモ該工作物撤却ノ命令ヲ發シタリ今其不當ナル點ヲ列舉センニ第一原告等共謀シタルノ事實ナキニ原告等四名ニ對シ命令ヲ發シタルハ不法ナリ第二假リニ被告認定ノ如ク湧水池ヲ共謀築設シタリトスルモ明治三十一年兵庫縣令第五十三號土木起工規則第一條ニ所謂一般ノ交通水利ニ關係アルモノニ非ラス然ルニ被告カ漫然湧水池ト稱シ本件ノ命令ヲ發シタルハ該縣令ノ精神ニ背反スル處分ナリ第三被告縣知事ハ既ニ落成工事ヲ原形ニ復スルコトヲ命令スルノ職權ヲ有セサルニ本件既成工事ニ對シ原形ニ復スルコトヲ命シタルハ不法ナリ第四假リニ被告ニ命令權アリトスルモ前顯土木起工規則ハ十二個條ヨリ成立シ第十三條ナルモノアラサルニ該條ニ基キ命令シタルハ不法ナリ第五本件土木起工規則ノ如キ人民ノ所有權ヲ制限スル縣令ハ被告知事ノ職權外ニ屬スルモノナレハ原告ハ之ヲ遵守スヘキ義務ナシ隨

テ該縣令ニ基ク命令ハ不法ナル論ヲ竣タス依テ被告縣知事カ明治三十六年七月三日附ヲ以テ原告等四名ニ對シ發シタル命令ノ取消ヲ求ムト云フニ在テ甲第一號證乃至甲第十號證ヲ提出シ被告ハ之ニ對シ原告ノ主張ハ毫無理由ナシトテ乙第一號證乃至乙第十三號證ヲ提出セリ按スルニ第一原告ハ共謀シタル事實ナキコトヲ主張シ其證トシテ甲第一二號證ヲ提出スルモ該證ハ鹿島吉松鹿島長太郎間又ハ鹿島長太郎藤本市兵衛間ニ於ケル地上權ノ設定ニ關スル證書ニ過サレハ之ニ依リ共謀事實ノ有無ヲ斷定スルヲ得ス之ニ反シ乙第五號證豫審終結決定書ニ徴スレハ原告等四人協議ノ末本件工事ヲ起シタル事實ヲ知ルヲ得ルヲ以テ被告ニ於テ原告等四名ニ對シ命令ヲ發シタルヲ不法ナリト謂フヲ得ス第二原告ハ本件工作物ハ一般ノ交通水利ニ關係ナシトノ證トシテ甲第五、六、七、八號證ヲ提出スルモ該證ハ雨量若クハ稻作等ノ調査ニ過サレハ果シテ該工作物カ水利ニ關係アルヤ否ヲ知ルノ證トスルニ足ラス而シテ乙第六號證檢證調書及乙第二號證實地調査要領書ニ依レハ該工作物ノ位置形狀内容カ水利ニ障害アルコト明瞭ナルヲ以テ本件工作物カ一般ノ水利ニ關係ナシト謂フヲ得ス原告ハ第三既成工事ニ對シ原形ニ復スルコトヲ命シタルハ不當ナリト云ヒ第四土木起工規則ニ第十三條ナルモノナキニ該條ニ依リ命令シタルハ不法ナリト云フモ乙第一、二號證ニ依レハ明治三十一年七月

五日ヲ以テ公布セラレタル該規則ハ翌明治三十二年十月十六日ヲ以テ改正セラレ該規則ノ第十二條カ第十三條トナリタルコト明ナリ而シテ該第十三條ハ許可ヲ受ダスシテ第一條ノ工事ヲ起ス(中畧)トキハ起工者ノ費用ヲ以テ實地原形ニ復サシム云々トノ規定ナレハ工事ノ既成ナルト未成ナルトヲ問ハス原形ニ復サシムルヲ得ルモノト解釋セサルヘカラス故ニ原告ノ主張ハ理由ナキモノトス第五原告ハ本件ノ如キ人民ノ所有權ヲ制限スル規則ヲ發スルハ被告知事ノ職權外ニ屬スト主張スルモ知事ハ管内ノ行政事務ニ付其職權ニ依リ縣令ヲ發スルコトヲ得ルハ地方官官制ノ定ムル所ナリ而シテ本件ノ如キ一般ノ水利ニ關係アル工事ニ付キ縣令ヲ發スルハ其職權ノ範圍内ニ屬スルモノト謂フヘク隨テ該縣令ニ基キ發シタル命令ハ違法ナリト謂フヲ得ス

○甲者カ其所有地ヲ町村ニ寄附シ適法ノ手續ヲ經テ之ヲ道路ト爲シタル後乙者ニ於テ該敷地ノ所有權ヲ取得シ登記ヲ爲シタル場合ニハ縱令乙者カ權利ヲ毀損セラレタル事實アリトスルモ當該行政應ニ對シテ其道路ノ廢除ヲ請求シ得サルモノトス(土木工事ニ關スル不當處分取消請求ノ訴 明治三十七年第八百十二號 明治三十九年七月十日宣告)

〔理由〕 按スルニ本件ハ訴外人前島勘造カ係争地ヲ寄附シ適法ノ手續ヲ經テ之ヲ道路ト爲

シタル後原告ニ於テ其敷地ノ所有權ヲ取得シ之レヲ登記シタル事實ナレハ其之レヲ道路ト爲シタル處分ニ關シテハ何等違法ノ認ムヘキモノナシ然レハ本件ハ假ニ原告ノ權利ヲ毀損シタル事實アリトスルモ其毀損タル違法處分ニ基キセルモノニアラサレハ原告ノ訴求ハ其理由ナキモノトス

○縣知事カ新設水車ノ堰止工事ヲ許可シタル場合ニ於テ其工事ノ爲メニ河岸ノ崩壞スル虞アルモ此一事ヲ以テ該處分ヲ取消スヘキ理由ト爲スヲ得ス(不當處分取消ノ訴 明治三十九年第三百三十二號 明治四十年十月十八日宣告)

〔理由〕 按スルニ第一當裁判所カ相當ト認メタル鑑定人ノ鑑定ニ依レハ被告ノ許可シタル新堰引水路水面ハ原告吉次所有ノ水車輪下端ヨリ約一尺五寸下位ニ在ルカ故ニ灌水スルモ平水ニ於テ新堰ハ水車ノ運轉ヲ遲緩ナラシムルノ實況ナク増水一尺以上ニ於テ始メテ水車ノ運轉ヲ遲緩セシムルモ非常ノ高水ニアラサル以上停止スルニ至ラストノ趣ナレハ被告ノ許可シタル新堰ノ爲メニ原告吉次ノ水車ハ何等ノ故障ヲ受ケサルヲ通常トスルコト明カナリ但タ一尺以上ノ増水ニ於テ水車ノ運轉ニ遲緩ヲ來タスヘシト云フモ這ハ素ヨリ例外ニ屬スルノミナラス遲緩ノ程度タル原告吉次ノ營業ニ妨害ヲ與フルモノト認ムヘキ證據ナキヲ以テ單ニ非常ノ

際ニ生スル運轉遲緩ノ事實ハ被告ノ處分ヲ取消スヘキ理由トナスニ足ラス第二原告吉次ハ新堰設置ニ基ツク湛水ノ爲メ藤澤川ニ面スル水車小屋敷地ノ部分ハ浸水セリト主張スルモ實地臨檢ノ結果ニ依レハ其ノ浸水セリト稱スル箇所ハ係争堰附近見取圖ニ示スカ如ク水車小屋敷地石垣ニ沿フタル河川ノ區域ナル「イ」ト「ロ」ノ間ヲ指スモノニシテ全ク川敷ニ屬シ原告ノ宅地ト認ムヘキ特徴ナキノミナラス長藤村長高島熊太郎證明ノ長藤村三千七十四番宅地附近圖ニモ前顯「イ」ト「ロ」ノ間ヲ原告ノ所有地ト認メシムヘキ何等ノ記載ナキヲ以テ該箇所カ浸水スルモ原告ノ權利ニ何等ノ關係ナシ第三原告吉次ハ新堰ノ爲メ水車放水口附近ニ土砂ノ堆積ヲ來シ且冬季嚴寒ノ時ハ湛水ノ爲メ氷結ノ度ヲ一層甚シカラシメ水車ノ運轉ニ故障ヲ生スト云フモ氷結ノ程度明カナラサルノミナラス土砂ノ堆積ハ水位ニ著シキ變化ヲ生スル程度ノモノナラサルコトハ鑑定人ノ鑑定ニ依リ明カナレハ原告ノ主張ハ採用スルヲ得ス第四原告吉次ハ新堰ノ上流ニ在ル自己引水ノ用水堰カ河水停滯ノ爲メ其土臺下ヲ掘出サルル危險アリト云フモ何等ノ立證ナキヲ以テ之ヲ認ムルヲ得ス第五原告仙治郎ハ新堰設置ニ基ク湛水ノ爲メ所有地ノ畦畔浸水セリト云フモ鑑定人鑑定ノ如ク該地ハ新堰ノ湛水面以上五尺餘ノ高サニ位スルヲ以テ五尺以内ノ出水ニハ畦畔ニ浸水スル恐ナキノミナラス實地臨檢ノ結果ニ依レハ

原告カ浸水セル畦畔ナリト主張スル部分ハ河岸ニ沿フタル河川ノ寄洲ヲ云フモノニシテ畦畔ト認ムヘキ特徴ナケレハ畦畔浸水ノ事實ハ之ヲ認ムルヲ得ス而シテ鑑定人ノ鑑定ニ依レハ堰止工事ノ爲メ河岸崩壞ノ危險ハ免カレストノ事ナレトモ河岸崩壞ノ如キハ相當ノ防禦工事ノ施設アルニ於テハ容易ニ防キ得ヘキモノナレハ完全ナル防禦工事ノ施設ナキニ基ク河岸崩壞ノ恐アル事實ヲ以テ被告ノ處分ヲ取消スヘキ理由ト爲スヲ得ス

○所有地保護ノ爲メ直接必要ニシテ水利及其他ノ點ニ於テ支障ナキトキハ堤防ノ新設ヲ許可スルモ違法ニアラス(公有水面堤防新設許可不當ノ訴

明治四十年
明治四十年十二

第九十號
月二十四日宣告

〔理由〕 本件關係ノ土地タル高知縣高岡郡多ノ郷村多ノ郷字矢羽田甲第三百〇五番及同縣同郡同村神田字大峰ノ前二千五百三十一番ハ從來ヨリ個人有ノ荒地ニシテ荒地免租繼年期明ニ至リ雜種地トナリ訴外川崎幾三郎外一名ノ共有地タルコトハ原告被告共ニ認ムル所ナルカ故ニ被告カ原告埋立出願ノ水面ハ未ダ公有水面ニ歸シタルモノニアラストシテ其出願ヲ却下シ所有者出願ノ堤防新設ハ其所有地保護ノ爲メ直接必要ニシテ水利及其他ノ點ニ於テ支障ナキモノト認メ高知縣令ニ依リ許可シタルハ違法ニアラス而シテ之ノ許可ニ依リテ原告ノ權利ヲ

違法ニ毀損シタリトノ主張ハ何等立證スル所ナキヲ以テ之ヲ認ムルコト能ハス

○明治三十八年長野縣令第一號河川取締規則ニハ河水ノ引用ニ關シ先願權ヲ認メタル明文ナキモ之ヲ否認シタル明文モ亦存セサレハ同一箇所ニ二者兩立スヘカラサル競願者アリテ其事業ノ目的之ヲ遂行スル資力等全ク同等ニシテ其間選擇ヲ加フヘキ何等ノ事情ナキ以上ハ先願者ニ許可スルヲ當然トス指令取消請求ノ訴 明治四十年第五十四號
明治四十一年二月二十日宣告

〔理由〕 被告ニ於テハ明治三十八年長野縣令第一號河川取締規則ニハ河水引用ノ許可ニ付先願ノ先後ニ由リ之ヲ決スヘキ規定ナク從テ先願ニ由リ當然許可ヲ得ヘキ權利ヲ生セス出願ヲ許可スルト否トハ被告ノ職權ニ屬スル裁量處分ナルヲ以テ本件原告ノ出願ヲ許可セサル處分ハ違法ノモノニアラス又原告ノ權利ヲ毀損シタルモノニアラス從テ本件ハ行政訴訟ヲ許スヘカラサルモノナリト云フト雖河川取締規則ニ依レハ公益ニ關スル場合其他特殊ノ事情アル場合ノ外一般ニ行政應ノ許可ヲ得テ河水ヲ引用スルコトヲ許サレタルコト明カナリ而シテ該取締規則ニハ先願權ヲ認メタル明文ナキモ之ヲ否認シタル明文モ亦ナキニヨリ同一箇所ニ二者兩立スヘカラサル競願者アリテ其事業ノ目的之ヲ遂行スル資力等全ク同等ニシテ其間ニ選擇

ヲ加フヘキ何等ノ事情ナキ以上ハ先願者ニ許可スヘキハ當然ナリ本件原告ノ主張スル所ハ被告ハ先願後願ノ見解ヲ誤マリ先願者タル原告ニ許可スヘキヲ却テ後願者タル關清英外二名ニ許可シタルハ違法ナリト云フニ在リテ若果シテ原告主張ノ如シトセハ是明カニ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損スルモノナルコト前説明ニ依リ明カナリ然ラハ本件ハ明治二十三年法律第六百六號第四ニ該當シ之ヲ受理スヘキモノナレハ被告ノ抗辯ハ採用スルヲ得ヌ又被告ハ原告カ出願書類ヲ整備シ適法ニ之ヲ西筑摩郡役所ニ提出シタルハ明治三十九年十二月二十二日ニシテ其書類ノ被告應ニ到達セシハ同年十一月二十四日ナリ其以前ノ出願ハ書類不完備ノモノ若クハ經由ノ途ヲ誤マリタルモノニシテ適法ノ出願ト認ムルヲ得ヌ之ニ反シ關清英外二名カ郡役所ニ願書ヲ提出シタルハ明治三十九年十月二十九日ニシテ被告應ハ同年十一月五日之ヲ受理シタリ而シテ其書類ノ如キモ被告應所定ノ規定ニ依リタルモノニシテ原告云フカ如キ不完備ノモノニアラス故ニ之ニ許可ヲ與ヘ原告ノ出願ヲ許可セザリシハ相當ナリト云フモ原告カ被告知事ニ宛テ木曾川河水使用並新水路開設願ヲ關係地タル讀書及田立兩村長ニ提出シタルハ明治三十九年九月二十二日ナルコトハ被告ノ爭ナキ所ナリ而シテ被告カ之ヲ不完備ナリト稱スルハ該出願ニ水路縱斷面圖潰地調書地主承諾書ノ添附ナキニ因ルモノナレトモ原告ニ於テ

後日之ヲ補足シ出願ヲ追完シタル以上ハ之ヲ有效ナリト謂ハサルヲ得ス被告ハ明治三十八年
長野縣告示第四百十號ヲ援用シ前顯原告ノ出願ヲ無効ナリト論スレトモ告示第四百十號ハ願
書ニ添附スヘキ書類ヲ示シタルニ止マリ之ヲ缺ケハ出願ヲ無効トスル趣意ナリト認ムルヲ得
ス又被告ハ原告ノ出願ヲ被告廳ニ於テ受理シタルハ明治三十九年十一月二十四日ニシテ關清
英外二名ノ出願ヨリ後ナリト云フモ本件出願ハ明治三十一年長野縣令第五十一號第一條ニ
リ關係地方村長ヲ經由スヘキモノタル以上ハ其村長ニ提出シタル日ヲ以テ出願アリタルモノ
トナスヘキハ當然ナリ而シテ原告カ本會川河水使用並新水路開設願ヲ讀書田立兩村長ニ提出
シタルハ明治三十九年九月二十二日ナレハ原告ノ出願ハ關清英外二名ノ出願ヨリ後ナリト云
フヲ得ス要スルニ被告カ關清英外二名ノ出願ヲ許可シ原告ノ出願ヲ許可セサル理由ハ一モ其
當ヲ得タルモノナシ

第六類 土地、森林、原野

(一) 土地官民有區分ニ關スル件

○ 散在野ト稱スル野錢場ノ性質(地所所有權ニ關スル不當處分取消ノ訴) 明治二十
三年第二十號
年二月二十二日宣告

〔理由〕 本訴争フ所ノ地所ハ原告ノ提供スル甲第一、二、三、四、五、六、七號及第十四、十五、
十六、十七、十八號等ノ證據書類ニ依レハ元來吉田新田本高千三十八石三斗七升七合ノ高外
地ニ屬スル散在野土取場ニシテ其高ヲ附シ野錢ヲ納メシメタルハ其地ヲ土取場トシテ使用セ
シメタル使用料ニシテ當時小物成場ト稱スル土地タルヲ證明スルニ足レルモノトス而シテ原
告カ明治十二年七月十五日神奈川縣廳ニ差出シタル上申書ニ依レハ本訴論地ハ慶應ノ年頃最
早御用地ノ旨ヲ以テ砂利掘取差止めラレ慶應二年以後砂利掘取ハ勿論外ニ所用不仕候又該地
ハ慶應二年ヨリ始リ同三年ニ至リテ現今地形ノ如ク埋立相成タルモノニハ御坐候トアリテ本
訴論地ハ慶應年間砂利掘取場ノ儘御用地ト爲リ爾後原告ニ於テ之ヲ使用セサルコトハ原告ノ
已ニ自認スル所ナリ而ルニ原告ハ甲第十九號第二十號第二十一號第二十二號第二十三號第二